

平成30年度  
**消防防災年報**

**福 井 県**  
＜令和元年刊行＞



## はじめに

本県の消防防災体制は、関係各位のたゆまぬ努力により着実に充実強化されてきており、地域住民の安全・安心の確保に大きな役割を果たしているところです。

近年、我が国の災害は大規模化、複雑化しています。本年もこれまでに西日本豪雨、北海道胆振東部地震、相次ぐ台風上陸などの様々な災害により、大きな被害が発生しました。本県においても、本年6月の永平寺町の繊維工場における大規模な火災により大きな被害が発生したところです。

このような状況にあって、災害や事故に的確に対応し、住民の生命、身体および財産を守るためには、住民と行政が一体となって、地域防災力の充実強化を推進していく必要があります。

県においては、消防防災の基本である災害発生の予防や初動対応の充実を図るため、消防団や自主防災組織の育成強化を図り、自助、共助、公助のバランスのとれた、安全で安心できる社会の実現を目指しております。

今後とも消防防災行政の推進について、より一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この消防防災年報は、市町および消防本部等関係機関からの報告をもとに平成30年度における消防、防災、保安行政の現況を取りまとめたものです。各方面で、消防防災に関する参考資料として活用され、安全で安心な地域づくりの一助となれば幸いです。

令和元年10月

福井県安全環境部危機対策・防災課

課長 加藤 和彦



# 目 次

## 〔消 防 編〕

### 第1章 消防の概要

第1表 福井県常備消防体制	1
第2表 消防の概況表	2

### 第2章 火災の実態

1 概況	4
2 出火件数および損害額の状況	4
3 出火原因	4
4 火災による死者の状況	5
第1表 1日当たりの損害状況	5
第2表 平成30年火災発生状況と前年比較表	6
第1図 過去10年間の出火件数と損害額の推移	7
第2図 過去10年間の死傷者数の推移	7
第3図 火災発生件数の内訳	8
第4図 うち建物火災件数の内訳	8
第5図 損害額の内訳	8
第3表 平成30年月別火災発生状況表	9
第4表 市町別火災状況	10
第5表 市町別月別火災発生件数、損害額および出火率	12
第6表 全火災の出火原因別損害状況表	14
第6図 全火災の出火原因別状況	14
第7表 死者の死因別発生状況表	15
第8表 死者の経過別および年齢別発生状況表	15

### 第3章 救急業務の実態

1 救急体制	16
2 救急医療体制	16
3 救急活動状況	16
第1表 救急体制状況表	17
第2表 医療機関状況表	17
第3表 救急活動状況表	17
第4表 高速自動車道における救急活動状況表	17
第1図 過去10年間の救急活動の推移	18
第2図 出場件数の事故種別内訳	18
第3図 搬送人員の事故種別内訳	18

### 第4章 予防行政の概況

1 防火対象物定期点検報告制度	19
第1表 防火対象物定期点検報告制度実施状況表	19
2 消防設備士試験および講習の状況	20
第2表 消防設備士試験実施状況表	20
第3表 消防設備士法定講習実施状況表	20

### 第5章 危険物規制

1 概況	21
第1図 危険物施設構成比	21
第2図 過去10年間の危険物施設の推移	21
第1表 施設別危険物施設数	22
第2表 指定数量別および類別危険物施設数	23

第3表	危険物施設に対する立入検査状況	24
第4表の1	容量別屋外タンク貯蔵所数	25
第4表の2	品名別屋外タンク貯蔵所数	25
第5表	危険物取扱者試験実施状況	26
第6表	危険物取扱者保安講習実施状況	26
2	危険物施設の火災および漏えい事故等	27
第7表	過去5年間の危険物施設における災害事故発生件数	27

## 第6章 消防の概要

1	消防の組織	28
2	消防施設	28
3	民間防火組織	28
4	表彰	29
5	消防の現況	29
第1表	消防職団員数の推移	29
第2表	消防機関の現況	29
第3表	消防の概況	30
第4表	階級別消防職員数	31
第5表	階級別非常勤消防団員数	32
第6表	年齢別消防吏員および消防団員数	33
第7表	在職年数別消防吏員および消防団員数	34
第8表	消防ポンプ自動車等現有数（消防本部および署）	35
第9表	消防ポンプ自動車等現有数（消防団）	36
第10表	化学消火薬剤備蓄状況	37
第11表	消防水利の状況	38
第12表	消防機関の出動状況	39
第13表	消防吏員および団員の公務による死傷者数	39
第14表	火災通報施設等の現況	40
第15表	無線通信施設等の現況	41
第16表	幼年消防クラブの現況	42
第17表	少年消防クラブの現況	43
第18表	女性防火クラブの現況および活動状況	44
第19表	消防表彰受賞状況	45

## 第7章 消防教育訓練

1	消防学校の概要	46
2	教育訓練	46
第1表	平成30年度消防本部(局)別受講者数	47
第2表	平成30年度消防学校教育訓練実施状況	48
第3表	平成30年度消防大学校派遣者数	48

## [防災編]

### 第1章 災害の発生状況

1	平成30年中の災害発生状況	49
第1表	平成30年中の災害発生状況	49
2	過去5年間の災害発生状況	51

### 第2章 平成30年の天候概況

1	天候の特徴	63
2	月別気象概況	64

### 第3章 防災訓練の実施状況

1 総合防災訓練	67
2 過去5年間の総合防災訓練等の実施状況	71
3 市町別自主防災組織の結成状況	72

### 第4章 平成30年度防災行政無線利用状況

1 無線局の現況	73
2 利用状況	75
3 多重局通信回数集計表	77
4 端末局無線通信回数調	78
5 非常通信訓練実施状況	79

### 第5章 防災ヘリコプターの運航体制

1 運航基地	81
2 組織図	81
3 運航時間	81
4 活動業務	81
第1表 福井県防災ヘリコプター運航実績表	82

### 第6章 衛星車載局の運用体制

1 収容	83
2 運用組織図	83
3 運用	83
4 主な仕様	83

## 〔保安編〕

### 第1章 高压ガス保安

概況	85
第1表 市町別高压ガス関係事業所数	86
第2表 ガスの種類別高压ガス製造事業所数	87
第3表 処理量別および製造形態別製造事業所数	88
第4表 高压ガス貯槽数	89
第5表 平成30年度高压ガス製造保安責任者試験実施状況	90
第6表 平成30年度高压ガス販売主任者試験実施状況	91
第7表 平成30年度液化石油ガス設備士試験実施状況	91
第8表 平成30年度高压ガス関係免状交付状況	91
第9表 平成30年度高压ガス関係申請状況	92
第10表 平成30年度高压ガス事故発生状況	93

### 第2章 火薬類保安

概況	94
第1表 火薬類関係事業所等数	95
第2表 鉄砲関係事業所数	95
第3表 火薬類（爆薬）の消費量の推移	95
第4表 火薬類取扱および丙種火薬類製造保安責任者試験実施状況	95
第5表 平成30年度火薬類保安講習関係講習会実施状況	95
第6表 平成30年度火薬類許可申請等の状況	96
第7表 平成30年度事故発生状況	97



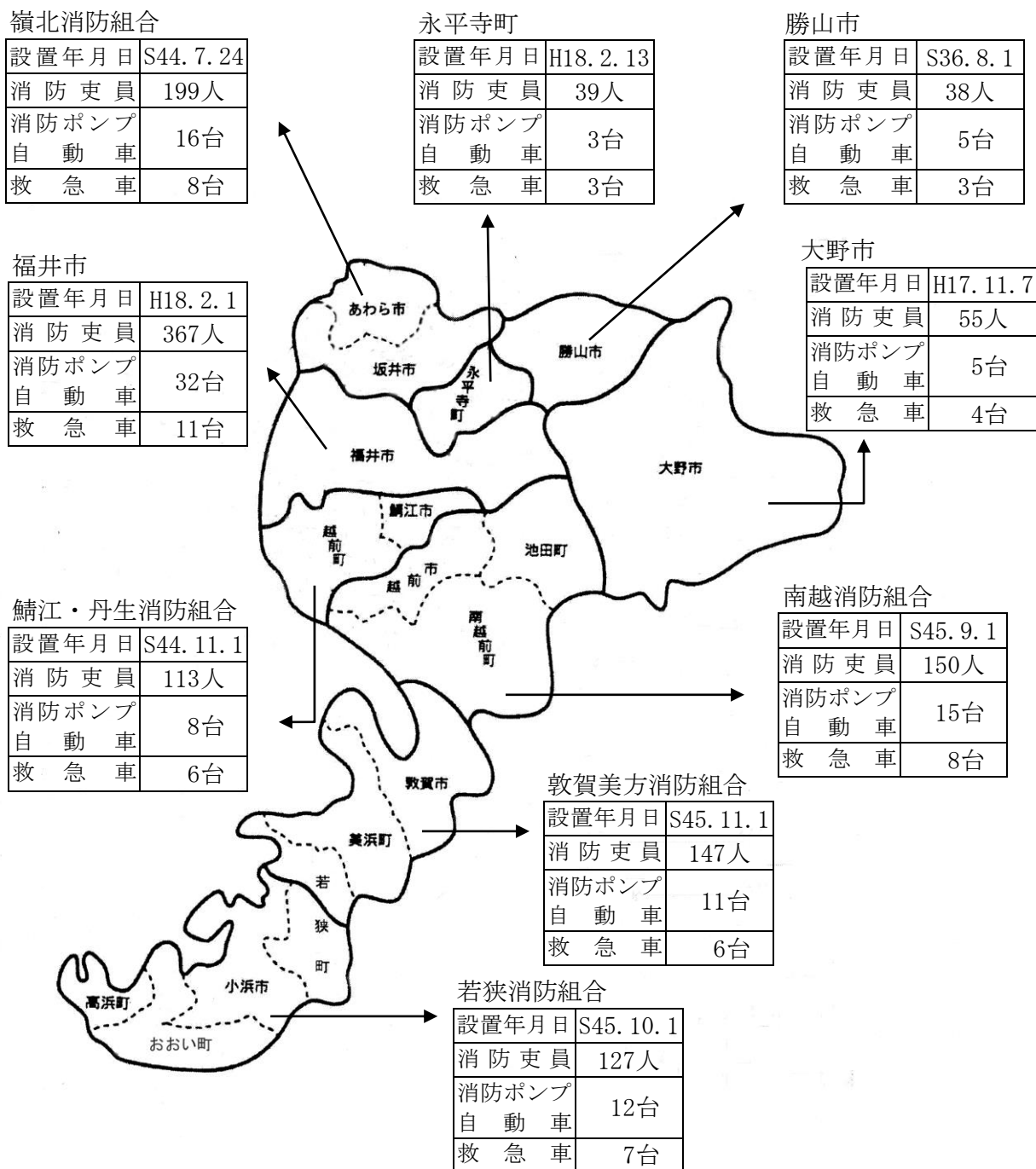


# 消 防 編



# 第1章 消防の概要

第1表 福井県常備消防体制(平成31年4月1日現在)



※台数については、消防団分を含まない

第2表 消防の概況表

面積（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」H30. 10. 1現在）		4,190.52 km <sup>2</sup>	
平成27年国勢調査（確定値）人口		786,740 人	
推計人口（平成31年4月1日現在）		769,548 人	
推計世帯数（平成31年4月1日現在）		286,993 世帯	
65才以上高齢者数（福井県の推計人口 平成31年4月1日現在）		231,011 人	
高齢化率（ ” ” ）		30.0 %	
地域別人口	福井坂井地区（平成27年国勢調査 確定値）	404,796 人	
	奥越地区	57,234 人	
	丹南地区	184,783 人	
	嶺南地区	139,927 人	
30年火災状況	火災件数	199 件	
	うち	建物火災件数	108 件
		林野火災件数	4 件
	建物焼損面積	26,530 m <sup>2</sup>	
	林野焼損面積	29 a	
	損害額	2623,913 千円	
	うち	建物火災	2330,254 千円
	死者（自殺者数内数）	15 (4) 人	
	負傷者	26 人	
	出火率（人口1万人に対する出火件数） ※人口：平成30年3月31日現在	2.53 件	
3活0動年救急状況	救急出場件数	31,069 件	
	うち	急病	19,456 件
		交通事故	2,485 件
		一般負傷	4,762 件
搬送人員	29,681 人		
消防本部・署所	消防本部	単独設置市	3
		単独設置町	1
		消防一部事務組合	5
	消防署数	19	
	出張所数	28	
	消防職員	消防吏員	1,235 人
		その他の職員	27 人
合計		1,262 人	
消防団	消防団数	18	
	分団数	237	
	消防団員	非常勤団員数	5,824 人
		常勤団員数	—
		合計	5,824 人

消 防 車 両 等	区 分		消防本部・署所	消 防 団	
		普通消防ポンプ自動車		53 台	135 台
	水槽付消防ポンプ自動車		23 台	—	
	はしご付消防ポンプ自動車		12 台	—	
	屈折はしご付消防ポンプ自動車		1 台	—	
	大型高所放水車		2 台	—	
	泡原液搬送車		2 台	—	
	化学消防自動車		17 台	—	
	指揮車		20 台	—	
	小型動力ポンプ付積載車		—	208 台	
	小型動力ポンプ(車両に積載していないもの)		29 台	109 台	
	広報車		30 台	—	
	資機材搬送車		27 台	—	
	屈折放水塔車		0 台	—	
	救急自動車		56 台	—	
	救助工作車		15 台	—	
	その他の車両		22 台	—	
消 防 水 利	消火栓		公 設	18,721 個	
			私 設	98 個	
	防火水槽		100m <sup>3</sup> 以上	129 基	
			60m <sup>3</sup> 以上 100m <sup>3</sup> 未満	139 基	
			40m <sup>3</sup> 以上 60m <sup>3</sup> 未満	4,823 基	
			20m <sup>3</sup> 以上 40m <sup>3</sup> 未満	475 基	
	井戸		公 設	79 個	
私 設			—		
そ の 他				547 個	
通 信 施 設 等	消防用無線		基地局および固定局		67 局
			移動局		936 局
	防災行政無線	市町	同報無線	同報親局	28 局
				同報受信設備	25,194 局
		移動無線	基地局	19 局	
			移動局	767 局	
		県	固定系	地上系	29 局
				衛星系	71 局
	移動系	基地局等	19 局		
		移動局等	222 局		
	テレビ監視装置				2 基
	火災報知専用電話				104 回線
消防電話				236 回線	

## 第2章 火災の実態

### 1 概 況

平成30年中の火災発生件数は199件、死者15人、負傷者26人、損害額26億2,391万円、焼損棟数185棟、り災世帯数118世帯、り災人員305人となっており、一日当たりの損害状況は第1表のとおりで、概ね毎日719万円が灰じんに帰していることになる。

火災発生件数、損害額および死傷者数の過去10年間の推移は、第1図、第2図のとおりであり、火災発生件数においては、平成25年中が最も多く、平成29年中が最も少ない。

### 2 出火件数および損害額の状況

#### (1) 出火件数

総出火件数は199件で、これを火災種別ごとにみると、第3図のように建物火災が108件で全体の54.3%を占め、林野火災4件(2.0%)、車両火災33件(16.6%)、船舶火災1件(0.5%)、その他火災53件(26.6%)となっている。

また、建物火災だけでみると、第4図のように一般住宅が42件(38.9%)で最も多く、次いで工場13件(12.0%)、共同住宅7件(6.5%)、特定複合用途6件(5.6%)、併用住宅4件(3.7%)、物品販売店舗等4件(3.7%)、旅館・ホテル等4件(3.7%)、飲食店1件(0.9%)、神社・寺院等1件(0.9%)、倉庫1件(0.9%)、事務所等1件(0.9%)、その他21件(19.4%)となっている。

第3表の月別火災発生状況表を見ると、3月の発生件数が37件で最も多く、2月が8件と最も少ない。

第4表では、市町別の火災発生状況を示している。

#### (2) 損害額

損害額は26億2,391万円で、これを火災種別ごとにみると、第5図のように建物火災が23億3,025万円で全体の88.8%を占め、次いで車両火災3,205万円(1.2%)となっている。火災1件当たりの損害額は約1,319万円となる。

第3表の月別火災発生状況表をみると、9月の損害額が約17億7,968万円で最も多く、2月が約1,292万円で最も少ない。

### 3 出火原因

全火災の出火原因別状況を表したのが第6図であり、出火原因別損害状況を表したのが第6表である。

第6図をみると、出火原因ではたばこが最も多く16件で8.0%を占め、次いで、たき火15件(7.5%)、電灯電話等の配線12件(6.0%)、配線器具、火入れ各11件(各

5. 5%)、排気管10件(5.0%)などとなっている。

#### 4 火災による死者の状況

死者の死因別発生状況を表したのが第7表であり、死者の経過別、年齢別発生状況を表したのが第8表である。

第7表をみると、死因では、自殺が4人、火傷が3人となっている。

また、平成30年中の死者に占める高齢者は11人で全体の約73%となった。

第1表 1日当たりの損害状況

区 分	単位	平成30年 (A)	平成29年 (B)	対前年増加数 (A) - (B)
出 火 件 数	件	0.55	0.45	0.10
損 害 額	万円	719	161	558
焼 損 棟 数	棟	0.51	0.50	0.01
り 災 世 帯 数	世帯	0.32	0.31	0.01
り 災 人 員	人	0.84	0.98	△0.14

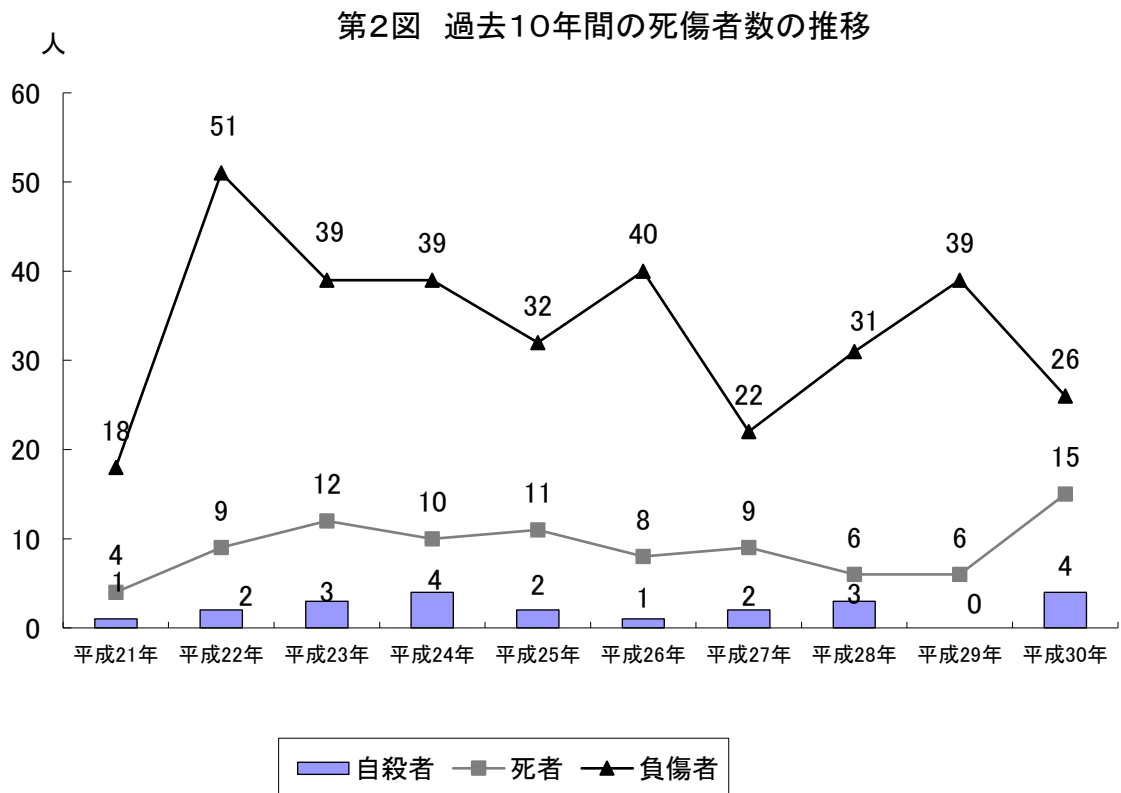
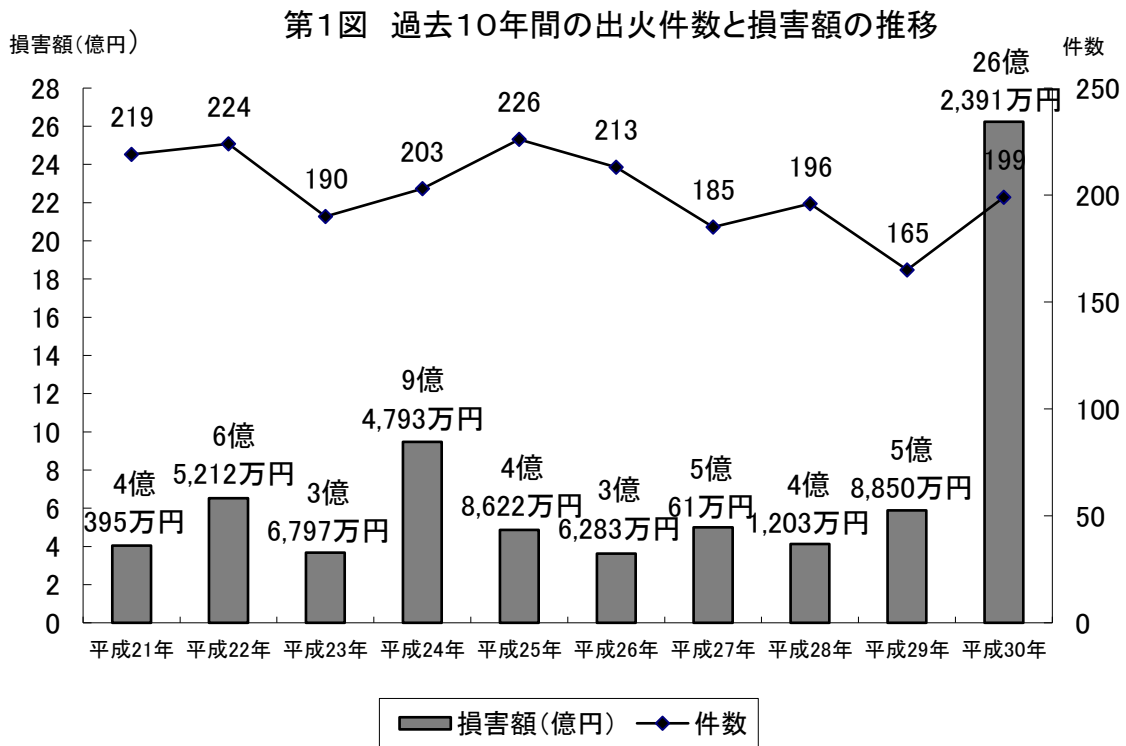
第2表 平成30年火災発生状況と前年比較表

区 分	平成30年(A)	平成29年(B)	対前年増加数 (A) - (B) = (C)
総 出 火 件 数	199	165	34
建 物	108	103	5
林 野	4	2	2
車 両	33	27	6
船 舶	1	1	0
そ の 他	53	32	21
焼 損 棟 数 ( 棟 )	185	181	4
全 焼	44	50	△ 6
半 焼	15	19	△ 4
部 分 焼	52	58	△ 6
ぼ や	74	54	20
り 災 世 帯 数 ( 世 帯 )	118	114	4
全 損	32	33	△ 1
半 損	10	13	△ 3
小 損	76	68	8
り 災 人 員 ( 人 )	305	359	△ 54
建 物 焼 損 面 積 ( m <sup>2</sup> )	26,530	8,535	17,995
林 野 焼 損 面 積 ( a )	29	43	△ 14
損 害 額 合 計 ( 千 円 )	2,623,913	588,509	2,035,404
建 物	2,330,254	536,985	1,793,269
林 野	578	47	531
車 両	32,053	44,187	△ 12,134
船 舶	116	168	△ 52
そ の 他	260,912	3,034	257,878
爆 発	0	4,088	△ 4,088
死 者 ( 人 )	15	6	9
( ) は 放 火 自 殺 者 内 数	(4)	(0)	4
建 物	10 (1)	5 (0)	5 1
林 野	0	0	0
車 両	0	1	△ 1 0
船 舶	0	0	0
そ の 他	5 (3)	0 (0)	5 3
負 傷 者 ( 人 )	26	39	△ 13
建 物	22	27	△ 5
林 野	0	0	0
車 両	2	7	△ 5
船 舶	0	0	0
そ の 他	2	5	△ 3
出 火 率 (人口1万人に対する出火件数)	2.53	2.08	

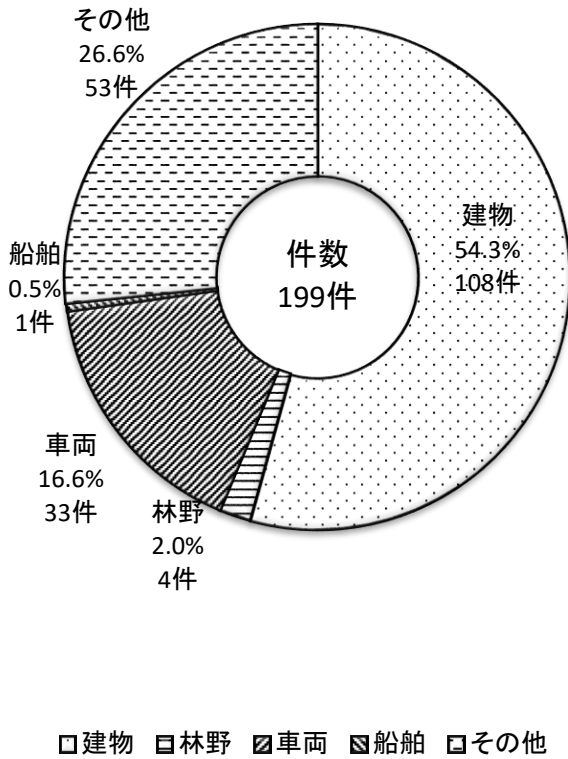
平成30年人口：平成30年3月31日現在の住民基本台帳人口による。

平成29年人口：平成29年3月31日現在の住民基本台帳人口による。

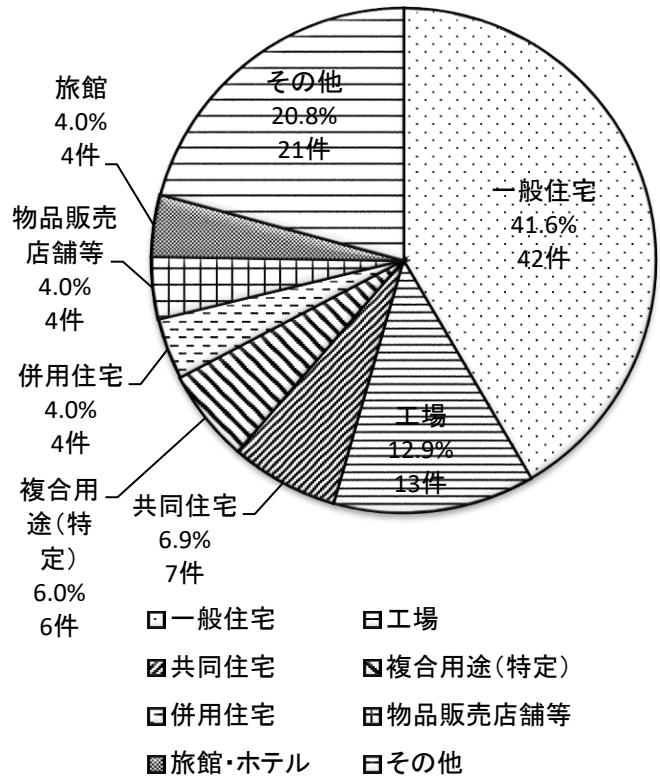




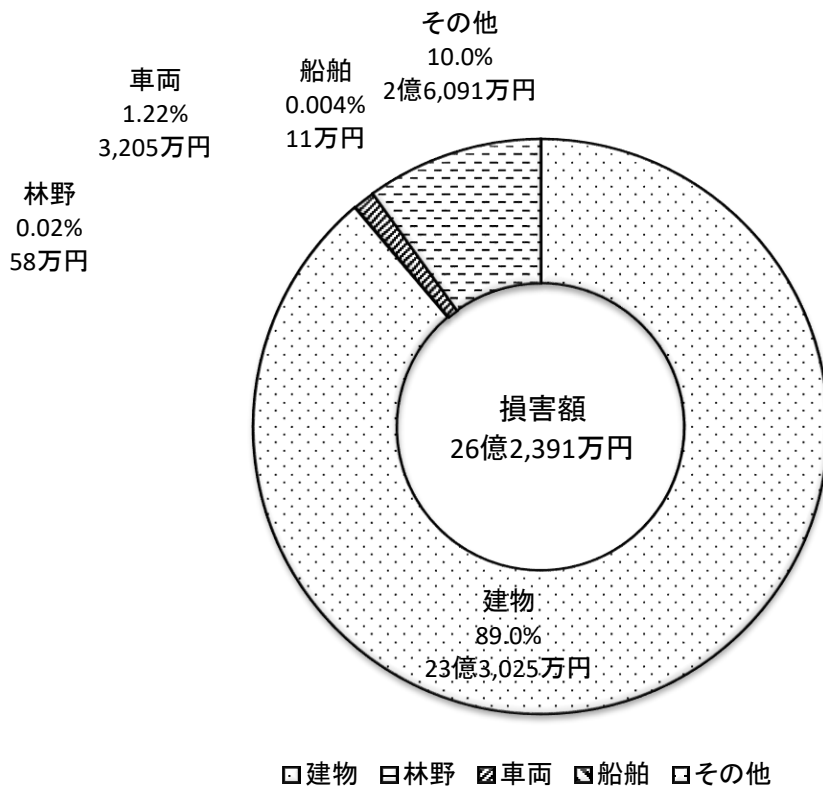
第3図 火災発生件数の内訳



第4図 うち建物火災件数の内訳



第5図 損害額の内訳



第3表 平成30年月別火災発生状況表

月	出火件数(件)						焼損棟数(棟)				焼損面積		り災世帯数(世帯)			り災人員(人)	死(人)	内は放火自殺者(人)	負傷者(人)	損害額(千円)							
	合計	建物	林	車	船舶	その他	合計	全	半	部分	ぼ	建物(m <sup>2</sup> )	林野(a)	合計	全					半	小	合計	建物	林野	車	船舶	その他
1	13	12	0	1	0	0	23	6	2	12	3	1,137	0	17	6	3	8	41	4	2	48,995	47,492	1	816	0	686	0
2	8	6	0	1	0	1	8	2	2	0	4	172	0	9	2	2	5	13	1	1	12,919	12,431	0	287	0	201	0
3	37	12	2	3	0	20	17	4	1	6	6	716	12	9	6	1	2	23	2	3	69,014	42,516	62	2,942	0	23,494	0
4	20	10	1	3	0	6	19	8	1	2	8	1,355	7	10	3	1	6	20	2	3	64,479	59,295	6	4,033	0	1,145	0
5	21	12	1	4	0	4	30	6	4	11	9	4,292	10	16	6	1	9	43	3	7	228,100	169,375	509	2,129	0	56,087	0
6	13	5	0	4	0	4	8	1	1	1	5	104	0	7	1	0	6	23	1	2	16,702	14,532	0	2,107	0	63	0
7	14	8	0	3	0	3	11	2	0	4	5	158	0	9	2	0	7	23	0	1	14,900	14,774	0	126	0	0	0
8	16	5	0	5	0	6	15	6	1	5	3	380	0	3	1	0	2	7	0	1	27,400	13,535	0	13,865	0	0	0
9	11	7	0	2	0	2	8	1	2	1	4	16,422	0	5	1	0	4	19	0	0	1,779,676	1,779,360	0	313	0	3	0
10	19	10	0	4	0	5	14	3	0	4	7	178	0	7	0	0	7	18	2	3	193,959	12,162	0	2,577	0	179,220	0
11	13	9	0	2	0	2	19	4	0	4	11	1,354	0	18	3	1	14	58	0	2	145,343	143,672	0	1,658	0	13	0
12	14	12	0	1	1	0	13	1	1	2	9	262	0	8	1	1	6	17	0	1	22,426	21,110	0	1,200	116	0	0
計	199	108	4	33	1	53	185	44	15	52	74	26,530	29	118	32	10	76	305	15	26	2,623,913	2,330,254	578	32,053	116	260,912	0

第4表 市町別火災状況

区分	出火件数(件)							焼損棟数(棟)					り災世帯数(世帯)			り災人員(人)	
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	全損	半損		小損
福井市	57	35	2	10	0	0	10	55	10	2	15	28	38	6	2	30	99
敦賀市	18	9	0	4	0	0	5	13	5	2	1	5	5	2	0	3	8
小浜市	9	6	0	1	0	0	2	12	4	0	5	3	9	4	0	5	24
大野市	8	6	1	1	0	0	0	14	3	2	6	3	15	5	1	9	34
勝山市	10	6	0	1	0	0	3	8	4	0	0	4	4	3	0	1	9
鯖江市	9	7	0	2	0	0	0	7	2	0	1	4	3	1	0	2	6
あわら市	9	2	0	2	0	0	5	6	1	0	4	1	1	0	0	1	1
越前市	13	11	0	2	0	0	0	14	1	3	5	5	7	1	3	3	14
坂井市	29	13	0	6	0	0	10	33	8	4	7	14	22	6	3	13	72
市計	162	95	3	29	0	0	35	162	38	13	44	67	104	28	9	67	267
永平寺町	5	0	0	2	0	0	3	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0
池田町	1	1	0	0	0	0	0	3	1	0	0	2	2	1	0	1	4
南越前町	9	6	1	1	0	0	1	7	1	0	3	3	5	1	0	4	9
越前町	3	2	0	0	0	0	1	7	3	0	4	0	4	0	0	4	19
美浜町	4	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高浜町	6	1	0	0	0	0	5	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
おおい町	4	1	0	0	0	0	3	1	0	1	0	0	1	1	0	0	1
若狭町 (内訳)	5	2	0	1	0	0	2	2	1	1	0	0	2	1	1	0	5
旧三方町 敦賀美方消防管轄	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	3
旧上中町 若狭消防管轄	4	1	0	1	0	0	2	1	1	0	0	0	1	1	0	0	2
町計	37	13	1	4	1	0	18	23	6	2	8	7	14	4	1	9	38
県計	199	108	4	33	1	0	53	185	44	15	52	74	118	32	10	76	305

若狭町は、旧三方町と旧若狭町では消防の管轄が異なるため、内訳を記載した。

期間:平成30年1月1日～12月31日

死傷者数(人)		焼 損 面 積			損 害 額(千円)						
死 者	負 傷 者	建 物 床 (m <sup>2</sup> )	建 物 表 (m <sup>2</sup> )	林 野 (a)	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	爆 発
5	4	1,851	160	11	84,199	62,300	8	3,012	0	18,879	0
1	0	16,378	39	0	1,773,750	1,770,869	0	2,513	0	368	0
1	1	259	23	0	33,457	19,640	0	13,817	0	0	0
0	2	642	39	10	15,676	13,833	509	1,334	0	0	0
1	1	548	0	0	24,344	24,053	0	260	0	31	0
0	3	200	0	0	14,379	12,404	0	1,975	0	0	0
0	1	3,325	74	0	394,651	151,976	0	2,929	0	239,746	0
0	3	386	46	0	22,009	21,964	0	45	0	0	0
4	6	1,861	105	0	185,993	182,097	0	3,195	0	701	0
12	21	25,450	486	21	2,548,458	2,259,136	517	29,080	0	259,725	0
0	0	0	0	0	1,810	0	0	626	0	1,184	0
0	2	209	0	0	34,453	34,453	0	0	0	0	0
0	1	174	25	8	3,106	1,367	61	1,678	0	0	0
0	0	311	51	0	12,749	12,746	0	0	0	3	0
0	0	0	0	0	116	0	0	0	116	0	0
1	0	0	2	0	10	10	0	0	0	0	0
1	0	34	0	0	1,524	1,524	0	0	0	0	0
1	2	352	0	0	21,687	21,018	0	669	0	0	0
0	0	105	0	0	9,820	9,820	0	0	0	0	0
1	2	247	0	0	11,867	11,198	0	669	0	0	0
3	5	1,080	78	8	75,455	71,118	61	2,973	116	1,187	0
15	26	26,530	564	29	2,623,913	2,330,254	578	32,053	116	260,912	0

第5表 市町別月別火災発生件数、損害額および出火率

区 分	総計		1月		2月		3月		4月		5月		6月	
	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)
福井市	57	84,199	3	20,678	4	507	8	19,841	7	20,124	7	10,084	4	79
敦賀市	18	1,773,750	0	0	1	728	2	368	1	0	0	0	0	0
小浜市	9	33,457	1	184	0	0	1	18,040	2	75	0	0	0	0
大野市	8	15,676	1	2,178	1	348	0	0	0	0	3	7,889	0	0
勝山市	10	24,344	0	0	0	0	2	8,663	0	0	2	4,168	0	0
鯖江市	9	14,379	1	1,631	0	0	0	0	1	1,955	0	0	2	324
あわら市	9	394,651	0	0	0	0	4	12,134	0	0	1	203,280	1	17
越前市	13	22,009	1	1,506	1	7,978	3	30	1	1,988	2	350	0	0
坂井市	29	185,993	3	10,973	1	3,358	4	1	3	3,076	3	2,324	5	15,613
市 計	162	2,548,458	10	37,150	8	12,919	24	59,077	15	27,218	18	228,095	12	16,033
永平寺町	5	1,810	1	626	0	0	1	54	1	1,130	0	0	0	0
池田町	1	34,453	0	0	0	0	0	0	1	34,453	0	0	0	0
南越前町	9	3,106	1	21	0	0	5	63	1	1,678	1	5	0	0
越前町	3	12,749	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
美浜町	4	116	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
高浜町	6	10	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0
おおい町	4	1,524	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0
若狭町 (内訳)	5	21,687	1	11,198	0	0	2	9,820	0	0	1	0	1	669
旧三方町 <small>敦賀美方消防管轄</small>	1	9,820	0	0	0	0	1	9,820	0	0	0	0	0	0
旧上中町 <small>若狭消防管轄</small>	4	11,867	1	11,198	0	0	1	0	0	0	1	0	1	669
町 計	37	75,455	3	11,845	0	0	13	9,937	5	37,261	3	5	1	669
県 計	199	2,623,913	13	48,995	8	12,919	37	69,014	20	64,479	21	228,100	13	16,702

若狭町は、旧三方町と旧若狭町では消防の管轄が異なるため、内訳を記載した。

出火率(人口1万人に対する出火件数)は、平成30年3月31日現在の住民基本台帳人口により算定

期間:平成30年1月1日～12月31日

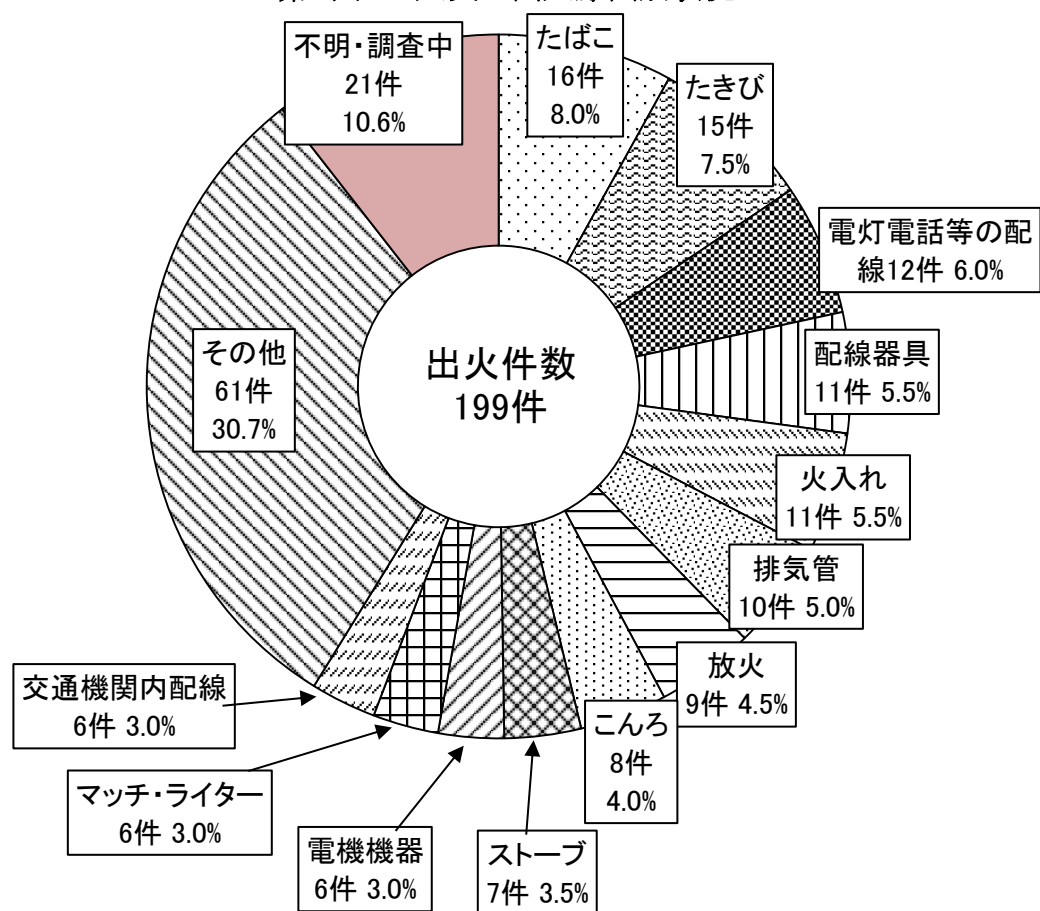
7月		8月		9月		10月		11月		12月		出火率 (人口 1万人に 対する 出火件数)
件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	
6	2,304	2	46	4	4,754	3	8	5	3,586	4	2,188	2.16
1	50	5	1,395	2	1,766,736	3	4,397	1	0	2	76	2.72
2	3	2	15,109	1	46	0	0	0	0	0	0	3.05
1	3,301	0	0	0	0	1	38	0	0	1	1,922	2.37
1	0	2	10,830	0	0	2	683	0	0	1	0	4.24
0	0	1	20	0	0	2	3,258	0	0	2	7,191	1.30
1	0	1	0	0	0	1	179,220	0	0	0	0	3.17
2	9,242	0	0	0	0	0	0	2	711	1	204	1.56
0	0	2	0	0	0	3	222	3	139,697	2	10,729	3.15
14	14,900	15	27,400	7	1,771,536	15	187,826	11	143,994	13	22,310	2.35
0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2.68
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.80
0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,339	0	0	8.33
0	0	0	0	2	6,616	1	6,133	0	0	0	0	1.37
0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	116	4.13
0	0	0	0	0	0	2	0	1	10	0	0	5.73
0	0	0	0	1	1,524	0	0	0	0	0	0	4.83
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.32
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	1	0	4	8,140	4	6,133	2	1,349	1	116	3.80
14	14,900	16	27,400	11	1,779,676	19	193,959	13	145,343	14	22,426	2.53

第6表 全火災の出火原因別損害状況表

期間:平成30年1月1日～12月31日

出火原因	出火件数(件)	焼損床面積(m <sup>2</sup> )	焼損棟数(棟)	り災世帯数(世帯)	損害額(千円)
たばこ	16	272	7	6	8,042
たき火	15	113	4	0	1,662
電灯電話等の配線	12	3,545	20	9	423,896
配線器具	11	843	19	19	19,614
火入れ	11	267	6	1	9,769
排気管	10	0	0	0	23,987
放火	9	1,123	14	10	20,682
こんろ	8	2	9	5	48
ストーブ	7	874	14	13	71,580
電気機器	6	44	4	3	3,428
マッチ・ライター	6	0	0	0	1,334
交通機関内配線	6	0	0	0	1,030
その他	61	2,000	63	36	198,919
不明・調査中	21	17,447	25	16	1,839,922
合計	199	26,530	185	118	2,623,913

第6図 全火災の出火原因別状況





第7表 死者の死因別発生状況表

死因 火災種別	一酸化炭素 中毒・窒息	火傷	打撲・骨折 等	自殺	その他	不明	合計(人)
建 物 火 災	2	1	1	1	4	1	10
林 野 火 災	0	0	0	0	0	0	0
車 両 火 災	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他 火 災	0	2	0	3	0	0	5
合 計 ( 人 )	2	3	1	4	4	1	15

第8表 死者の経過別・年齢別発生状況表

経過別 年齢別(歳)	0 ～ 5	6 ～ 10	11 ～ 20	21 ～ 30	31 ～ 40	41 ～ 50	51 ～ 60	61 ～ 64	65 ～ 70	71 ～ 80	81～	不明	合計 (人)
熟睡により発見遅れる									1		1		2
ガス爆発のためほとん ど避難できず									1				1
着衣着火									1	1	1		3
放火自殺				1	1		1				1		4
その他							1		1		1		3
不明・調査中											2		2
合計(人)	0	0	0	1	1	0	2	0	4	1	6	0	15

## 第3章 救急業務の実態

### 1 救急体制

災害により生じた事故もしくは屋外および公衆の出入りする場所、または屋内において生じた事故で、迅速に搬送する手段がない場合に傷病者を医療機関等へ搬送する業務が救急業務であるが、平成31年4月1日現在、第1表のとおり、救急自動車56台（うち高規格救急自動車56台）、救急隊員533名（うち救急救命士235名）で救急業務にあたっている。

### 2 救急医療体制

救急隊が搬送する傷病者を受け入れる救急告示医療機関数は、31年4月1日現在、第2表のとおり51施設である。

### 3 救急活動状況

救急活動状況を表したのが第3表であり、救急出場件数は31,069件、搬送人員は29,681人となっている。県内1日あたりの出場件数は約85件となり、約17分に1回の割合で救急隊が出場したことになる。

過去10年間の出場件数および搬送人員の推移を表したのが第1図であり、出場件数、搬送人員ともにほぼ毎年増加している。

出場件数、搬送人員の事故種別内訳を表したのが第2図、第3図であり、出場件数の事故種別内訳では、急病が19,456件で、全体の62.6%を占め、次いで一般負傷4,762件(15.3%)、交通事故2,485件(8.0%)などとなっている。搬送人員では急病が18,366人で全体の61.9%を占め、次いで一般負傷4,575人(15.4%)、交通事故2,762人(9.3%)などとなっている。

第1表 救急体制状況表

平成31年4月1日現在

消防(局)本部名	救急自動車			救急隊員					
	高規格救急車	通常型	合計	専任		兼任		合計	
				救急救命士		救急救命士		救急救命士	
福井市	11	0	11	54	37	27	18	81	55
大野市	4	0	4			44	16	44	16
勝山市	3	0	3			28	9	28	9
永平寺町	3	0	3			35	11	35	11
嶺北消防組合	8	0	8			90	32	90	32
鯖江・丹生消防組合	6	0	6			88	35	88	35
南越消防組合	8	0	8			75	27	75	27
敦賀美方消防組合	6	0	6	17	13	19	13	36	26
若狭消防組合	7	0	7	8	5	48	19	56	24
合計	56	0	56	79	55	454	180	533	235

第2表 医療機関状況表

平成31年4月1日現在

種別 告示別	国・公立	公的	私的		合計
			病院	診療所	
救急告示医療機関	7	5	28	11	51
その他の医療機関	14	7	24	475	520
合計	21	12	52	486	571

第3表 救急活動状況

(平成30年中)

	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自行損傷	急病	その他
救急出場件数	31,069	109	6	64	2,485	320	217	4,762	62	195	19,456	3,393
搬送人員	29,681	25	5	37	2,762	315	230	4,575	63	132	18,366	3,171

第4表 高速自動車道における救急活動状況表

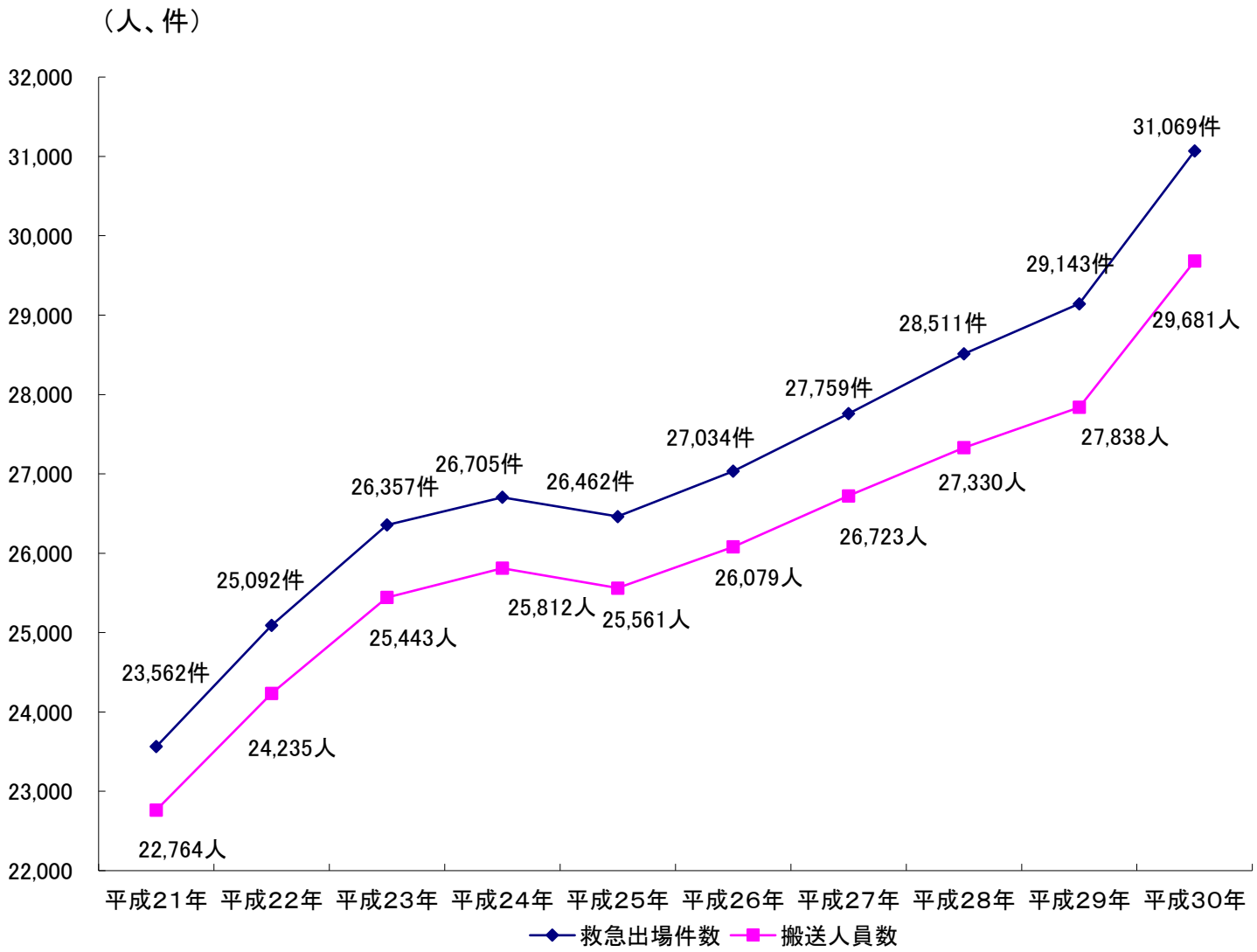
(平成30年中)

高速道路名	北陸自動車道										小計	
担当消防本部名	嶺北消防組合消防本部		福井市消防局		鯖江・丹生消防組合消防本部		南越消防組合消防本部		敦賀美方消防組合消防本部			
I C 名	金津	丸岡	福井北	福井	鯖江	武生	今庄	敦賀				
救急出動数	4	11	5	5		9	4	25			18	81
搬送人員	3	9	3	7		8	4	28			17	79

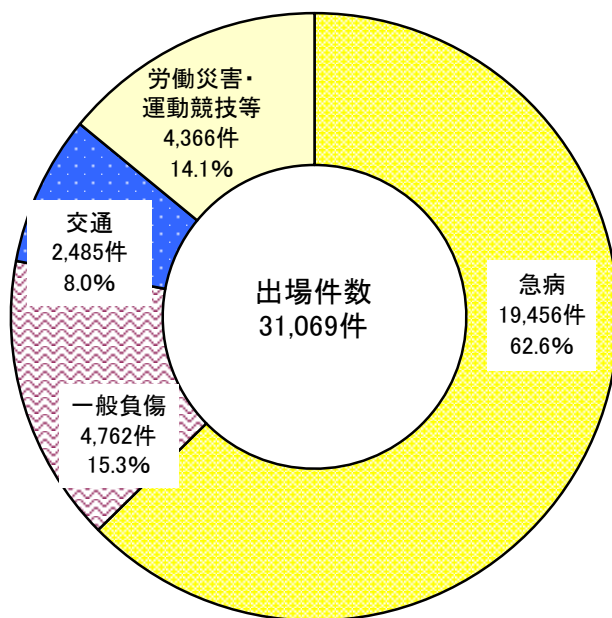
  

高速道路名	舞鶴若狭自動車道										小計	計
担当消防本部名	敦賀美方消防組合消防本部					若狭消防組合消防本部						
I C 名	舞鶴美浜	若狭三方	敦賀南	三方五湖	大飯高浜	小浜西	小浜	若狭上中	三方五湖			
救急出動数	3	1	1	3	4	0	3	3	0		18	99
搬送人員	3	2	1	1	2	0	2	1	0		12	91

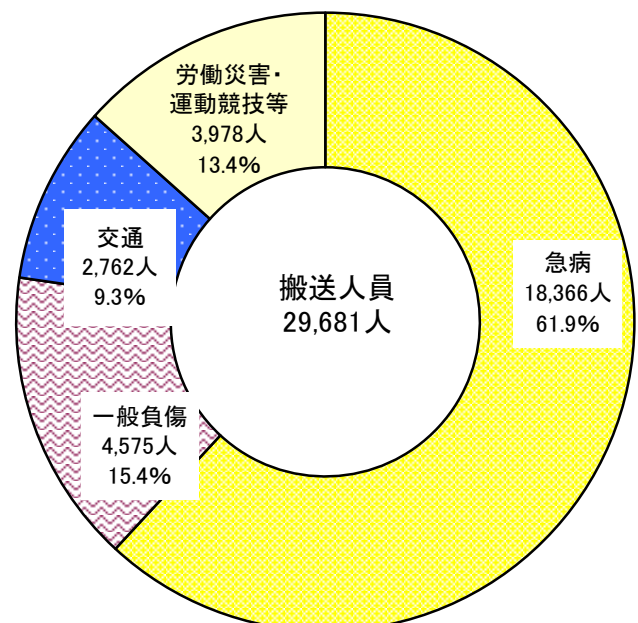
第1図 過去10年間の救急活動の推移



第2図 出場件数の事故種別内訳



第3図 搬送人員の事故種別内訳



## 第4章 予 防 行 政 の 概 況

### 1 防火対象物定期点検報告制度

不特定多数の人が出入りするなど一定の防火対象物について、所有者や賃借人等のうち管理について権原を有する人が、火災予防のために資格者による定期点検を行い、その結果を消防機関へ報告する制度である。

この制度による平成30年4月1日から平成31年3月31日までの状況は第1表のとおりである。

第1表 防火対象物定期点検報告制度実施状況表

防火対象物の区分		点検を要する防火対象物数		点検報告済防火対象物数		特例認定済防火対象物数		
		第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当	
1	イ	劇場、映画館、演芸場または観覧場	38		17		9	
	ロ	公会堂または集会場	259		111		76	
2	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブその他これらに類するもの						
	ロ	遊技場またはダンスホール	63		39		6	
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等						
	ニ	カラオケボックス等	5		5			
3	イ	待合、料理店その他これらに類するもの	2	11	1	4		
	ロ	飲食店	11	78	5	20		
4		百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗または展示場	220	25	117	5	21	1
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所その他これらに類するもの	42	85	21	30	9	21
6	イ	病院、診療所または助産所	33	7	14	3	13	2
	ロ	老人短期入所施設、養護老人ホーム、精神障害者社会復帰施設等	7	3	2	1	4	
	ハ	老人デイサービスセンター、老人福祉センター、精神障害者社会復帰施設（軽微）等	2	5	1	4	1	
	ニ	幼稚園または特別支援学校	3		1			
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場その他これらに類する公衆浴場	3				1	
16	イ	複合用途防火対象物のうち、その一部が上記に該当する用途に供されているもの	226	66	90	10	47	2
16の2		地下街						
合 計			914	280	424	77	187	26

#### 【備考】

- ・点検報告済防火対象物とは、1年に1回、防火対象物点検資格者による点検報告が必要なもので、点検の結果、点検基準に適合していると認められた防火対象物。「防火基準点検済証」を表示することができる。
- ・特例認定済防火対象物とは、一定の要件を満たしているもので、申請によって点検報告の義務が3年間免除される防火対象物。「防火優良認定証」を表示することができる。
- ・第1号該当とは、収容人員が300人以上の防火対象物
- ・第2号該当とは、収容人員が30人以上300人未満の防火対象物で次の要件に該当する防火対象物
  - 特定用途部分が地階または3階以上に存するもの（避難階は除く）
  - 階段が2以上設けられていないもの
- ・調査基準日…平成31年3月31日
- ・調査期間……平成30年4月1日～平成31年3月31日

## 2 消防設備士試験・講習の状況

消防設備士は、甲種・乙種合わせて619人の受験者に対して274人が合格し、合格率は44.3%であった。その状況は第2表のとおりである。

また、免状所有者に対する義務講習は667人が受講した。その状況は第3表のとおりである。

### 第2表 消防設備士試験実施状況表

試験日：平成30年8月26日（日）

平成31年2月17日（日）

区 分	平成30年度								免状交付延べ数	
	受験者数（人）		合格人数（人）		合格率（%）		免状交付数		甲種	乙種
	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種		
特 類	6		1		16.7%		1		19	
第 1 類	69	18	21	5	30.4%	27.8%	23	5	1,256	337
第 2 類	20	13	6	8	30.0%	61.5%	8	7	362	105
第 3 類	27	4	11	3	40.7%	75.0%	9	3	280	66
第 4 類	146	70	47	22	32.2%	31.4%	43	21	2,816	1,127
第 5 類	15	7	5	7	33.3%	100.0%	5	9	312	127
第 6 類		127		71		55.9%		66		2,205
第 7 類		97		67		69.1%		44		3,271
計	283	336	91	183	32.2%	54.5%	89	155	5,045	7,238

### 第3表 消防設備士法定講習実施状況表

区 分	受 講 対 象 者 区 分	受講者数（人）	実 施 年 月 日
消 火 設 備	(甲・乙)第1類, 第2類, 第3類 消防設備士	139	平成30年8月21日（火）
避難設備・消火器	(甲・乙)第5類, (乙)第6類 消防設備士	177	平成30年8月22日（水）
警 報 設 備	(甲・乙)第4類, (乙)第7類 消防設備士	351	平成30年8月23日（木） 平成30年8月24日（金）
合 計		667	

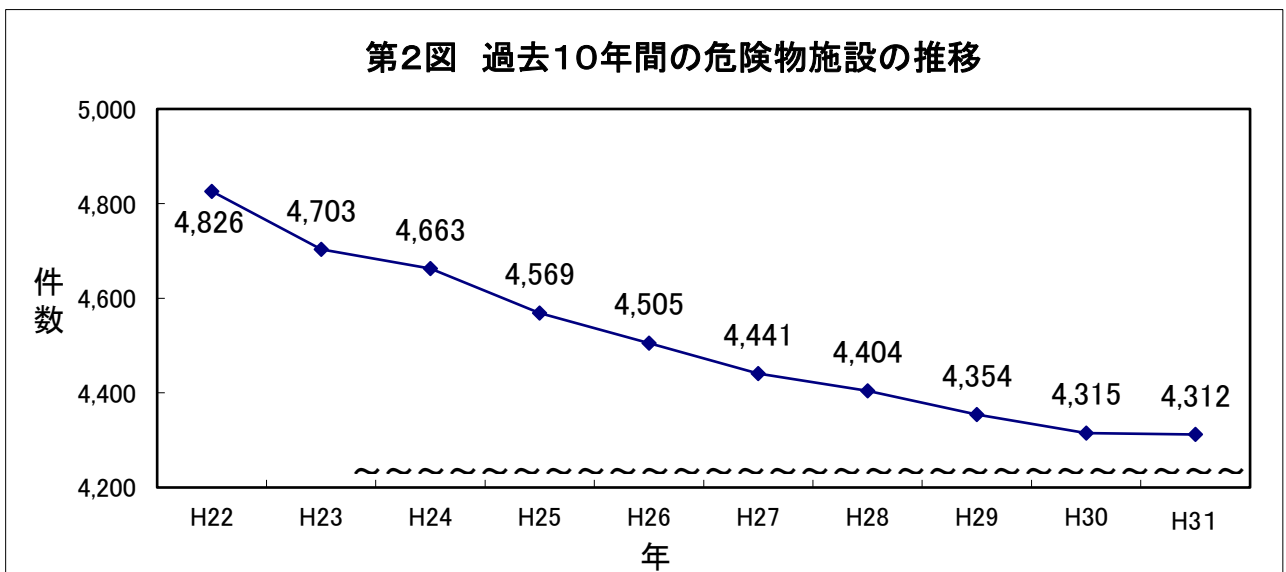
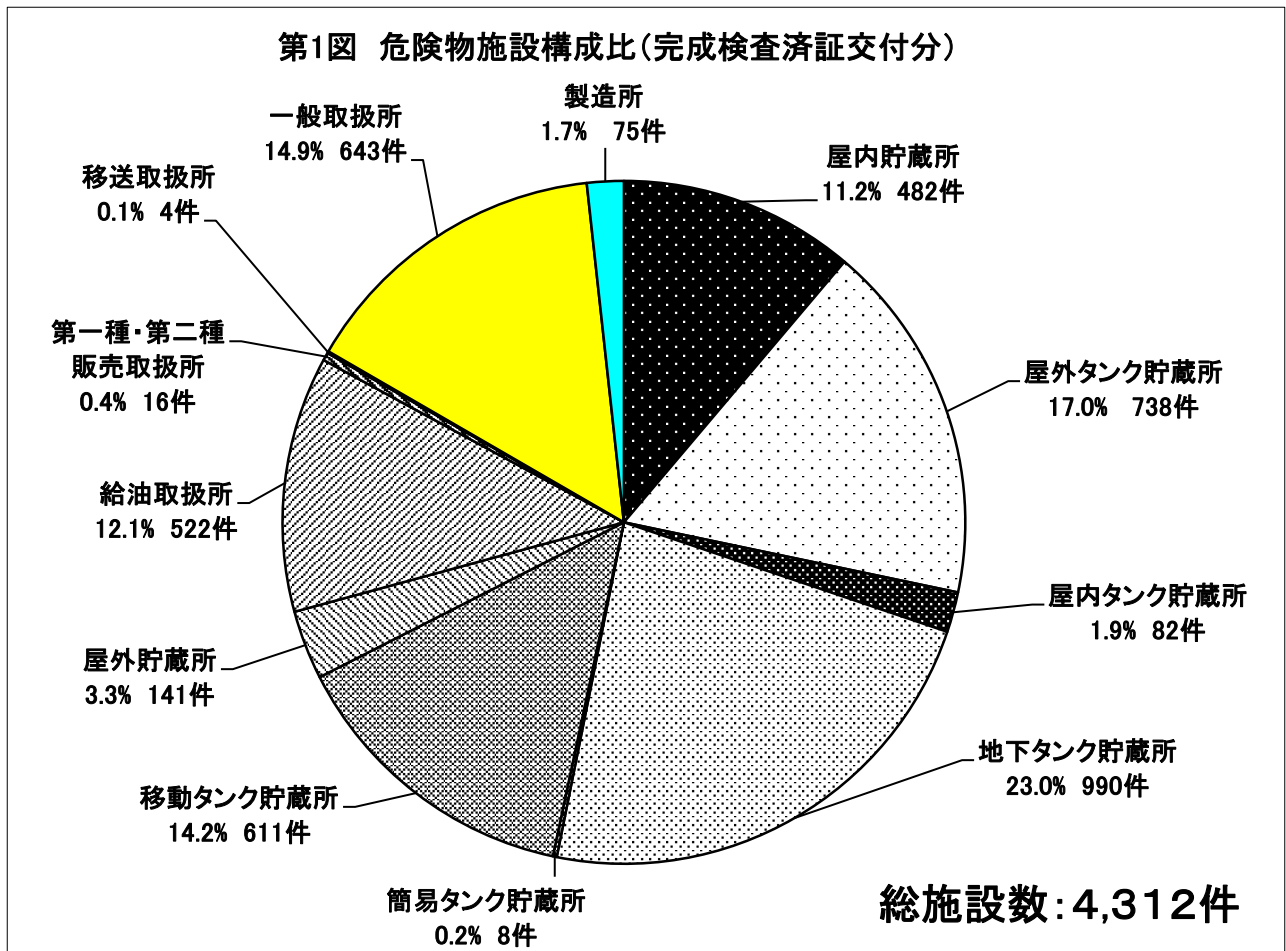
## 第5章 危険物規制

### 1 概況

(1) 危険物規制は、福井市、大野市、勝山市および永平寺町においては当該市町が、またその他の市町においてはそれぞれの加入する消防組合が行なっている。

なお、県内の総施設数は第1図のとおりである。(平成31年3月31日現在)

(2) 危険物の総施設数の推移は第2図のとおり減少傾向であり、前年に対し3件減少している。



第1表 施設別危険物施設数

平成31年3月31日現在

危険物施設の別 消防(局)本部名	製造所 (A)	貯蔵所										取扱所					合計 (A+B+C)	事業所	
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	準特定屋外タンク貯蔵所		屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計 (B)	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所			小計 (C)
				特定屋外タンク貯蔵所	特定屋外タンク貯蔵所														
福井市	21	108	189	5	20	27	265	1	167	19	776	132	8	0	1	141	282	1,079	525
大野市	0	8	15	0	0	0	51	0	31	0	105	24	0	0	0	26	50	155	92
勝山市	3	7	29	0	0	1	46	0	19	2	104	17	0	0	0	20	37	144	81
永平寺町	0	5	5	0	0	2	21	0	15	0	48	7	0	0	0	11	18	66	38
嶺北消防組合	30	100	172	3	36	11	176	1	111	22	593	96	0	0	2	165	263	886	317
鯖江・丹生消防組合	5	60	60	0	0	6	114	0	44	9	293	43	3	4	0	51	101	399	277
南越消防組合	12	73	114	0	0	11	119	2	79	82	480	64	0	0	0	77	141	633	255
敦賀美方消防組合	1	58	105	7	8	14	122	0	88	5	392	88	0	0	1	95	184	577	223
若狭消防組合	3	63	49	0	0	10	76	4	57	2	261	51	1	0	0	57	109	373	154
合計	75	482	738	15	64	82	990	8	611	141	3,052	522	12	4	4	643	1,185	4,312	1,962

- 注：1 貯蔵所および取扱所の区分は危険物の規制に関する政令の区分による（以下の表においても同様）。
- 2 本表には、設置を許可した施設のうち、完成検査済証を交付した施設数から廃止届を受理した施設数を除いた数を記載（以下の表においても同様）。
- 3 準特定屋外タンク貯蔵所には、屋外タンク貯蔵所のうち、貯蔵し、または取り扱う液体の危険物の最大数量が五百キロリットル以上千キロリットル未満のものを記載（以下の表においても同様）。
- 4 特定屋外タンク貯蔵所数は、屋外タンク貯蔵所のうち、貯蔵し、または取り扱う液体の危険物の最大数量が千キロリットル以上のものを記載（以下の表においても同様）。
- 5 事業所数は、危険物施設を有する事業所の数を記載。



第2表 指定数量別・類別危険物施設数

平成31年3月31日現在

危険物施設の別 数量別・類別	製 造 所 (A)	貯 蔵 所										取 扱 所					合 計 (A + B + C)		
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	準 特 定 屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	特 定 屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所		小 計 (C)	
5倍以下	3	214	131			57	539	8	467	18	1,434	38	6			283	327	1,764	
5倍を超えて10倍以下	7	113	104			20	232		14	27	510	55	3			154	212	729	
10 " 50 "	37	86	249			5	166		24	28	558	132	3	4		123	262	857	
50 " 100 "	13	20	84				30		85	2	221	72				36	108	342	
100 " 150 "	3	25	45				13		23		106	51				16	67	176	
150 " 200 "		9	7	1			4			1	21	61				9	70	91	
200 " 1,000 "	12	12	52	9	3		6		1		71	107				15	122	205	
1,000 " 5,000 "		3	24	5	19						27					3	3	30	
5,000 " 10,000 "			3		4						3					2	2	5	
10,000倍を超えるもの			38		38						38				4	2	6	44	
合 計	75	482	737	15	64	82	990	8	614	76	2,989	516	12	4	4	643	1,179	4,243	
単 独	第 1 類	1	10								10							11	
	第 2 類	1	4								4					3	3	8	
	第 3 類		3								3					5	5	8	
	第 4 類	51	420	734	15	64	82	990	8	614	75	2,923	516	12	4	4	612	1,148	4,122
	第 5 類		17	2							19							19	
	第 6 類			2							2					9	9	11	
混 在	22	28								1	29					14	14	65	
合 計	75	482	738	15	64	82	990	8	614	76	2,990	516	12	4	4	643	1,179	4,244	

注：1 数量別の欄は、危険物施設で貯蔵または取り扱う危険物の最大数量（許可数量）を指定数量の倍数によって表したものである。  
 2 類別の欄の単独には、類を同じくする危険物のみを貯蔵または取り扱っている危険物施設の数、混在には、類を異にする危険物を貯蔵または取り扱っている危険物施設の数に記載。

第3表 危険物施設に対する立入検査状況

平成30年 4月 1日から  
平成31年 3月31日まで

危険物施設の別 消防(局)本部名		製 造 所 (A)	貯 蔵 所							取 扱 所					合 計 (A + B + C)		
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タン ク 貯 蔵 所	屋 内 タン ク 貯 蔵 所	地 下 タン ク 貯 蔵 所	簡 易 タン ク 貯 蔵 所	移 動 タン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所		一 般 取 扱 所	小 計 (C)
福 井 市	検査施設数	21	95	183	25	236	1	184	18	742	121	5		1	131	258	1,021
	延回数	43	100	184	27	249	1	191	18	770	151	5		1	144	301	1,114
大 野 市	検査施設数							29		29	9					9	38
	延回数							29		29	9					9	38
勝 山 市	検査施設数	2	2	13	1	26		19	1	62	26	17			9	52	116
	延回数	2	2	13	1	26		19	1	62	26	17			9	52	116
永 平 寺 町	検査施設数		5	5	2	21		15		48	7				11	18	66
	延回数		5	5	2	21		15		48	7				11	18	66
嶺北消防組合	検査施設数	25	58	114	7	95	1	102	16	393	69			2	101	172	590
	延回数	25	58	114	7	95	1	102	16	393	69			2	101	172	590
鯖江・丹生消防組合	検査施設数	5	13	17	1	14		44	1	90	41				11	52	147
	延回数	5	13	17	1	14		44	1	90	41				11	52	147
南越消防組合	検査施設数	14	1	5		10		159	1	176	32				23	55	245
	延回数	32	1	5		12		163	1	182	43				47	90	304
敦賀美方消防組合	検査施設数																
	延回数																
若狭消防組合	検査施設数	2	31	28	6	50	2	43	1	161	34				39	73	236
	延回数	3	34	29	7	58	3	46	1	178	38				41	79	260
合 計	検査施設数	69	205	365	42	452	4	595	38	1,701	339	22		3	325	689	2,459
	延回数	110	213	367	45	475	5	609	38	1,752	384	22		3	364	773	2,635

注：1 検査施設数の欄は、立入検査を行った施設数を危険物施設の区分ごとに記載。  
2 延回数の欄は、立入検査を行った延回数を危険物施設の区分ごとに記載。

第4表の1 容量別屋外タンク貯蔵所数

平成31年3月31日現在

消防(局)本部名 容量別	福	大	勝	永	嶺	鯖	南	敦	若	合
	井	野	山	平	北	江・丹	越	賀	狭	計
	市	市	市	町	消	生	消	美	消	
					防	消	防	方	防	
					組	防	組	消	組	
					合	組	合	防	合	
						合		組		
								合		
100kl未満	147	15	28	5	116	42	104	65	43	565
100kl～500kl未満	17	0	1	0	17	18	10	25	6	94
500kl～1,000kl未満	5	0	0	0	3	0	0	7	0	15
1,000kl～5,000kl未満	0	0	0	0	21	0	0	8	0	29
5,000kl～10,000kl未満	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
10,000kl～50,000kl未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50,000kl～100,000kl未満	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
100,000kl以上	20	0	0	0	10	0	0	0	0	30
合計	189	15	29	5	172	60	114	105	49	738

第4表の2 品名別屋外タンク貯蔵所数

平成31年3月31日現在

品名別 容量別	第4類											第4類以外の類(B)	合計(A+B)
	原	ナ	ガ	灯	軽	重	第	ア	そ	小			
	油	フ	ソ	油	油	油	4	ル	の	計			
		サ	リ				石	コ	他	(A)			
			ン				油	ール					
							類	類					
100kl未満	0	0	0	74	33	173	18	51	212	561	2	563	
100kl～500kl未満	0	0	0	3	16	43	7	0	24	93		93	
500kl～1,000kl未満	3	0	1	0	1	7	0	0	3	15		15	
1,000kl～5,000kl未満	0	0	6	3	4	9	0	0	7	29		29	
5,000kl～10,000kl未満	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2		2	
10,000kl～50,000kl未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
50,000kl～100,000kl未満	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3		3	
100,000kl以上	30	0	0	0	0	0	0	0	0	30		30	
合計	33	0	7	82	54	235	25	51	246	733	2	735	

第5表 危険物取扱者試験実施状況

区 分 種 別		平成27年度 合 格 率 ( % )	平成28年度 合 格 率 ( % )	平成29年度 合 格 率 ( % )	平成30年度		
					受 験 者 数 ( 人 )	合 格 者 数 ( 人 )	合 格 率 ( % )
甲 種		18.4	32.1	30.9	145	55	37.9
乙 種	第 1 類	62.6	65.9	60.4	227	143	63.0
	第 2 類	63.0	76.0	74.1	149	107	71.8
	第 3 類	69.0	68.1	63.8	203	121	59.6
	第 4 類	29.2	27.0	34.3	2,506	948	37.8
	第 5 類	59.6	68.1	66.4	197	128	65.0
	第 6 類	59.6	66.5	58.5	242	153	63.2
	小 計	38.7	39.2	43.8	3,524	1,600	45.4
丙 種		64.9	57.5	58.7	598	306	51.2
合 計		41.1	41.0	45.3	4,267	1,961	46.0

第6表 危険物取扱者保安講習実施状況

区 分 講習種別		平成27年度 受 講 者 数 ( 人 )	平成28年度 受 講 者 数 ( 人 )	平成29年度 受 講 者 数 ( 人 )	平成30年度	
					受 講 者 数 ( 人 )	講 習 実 施 回 数 ( 回 )
給 油 取 扱 所		481	456	410	425	8
石 油 コ ン ビ ナ ー ト		41	50	56	44	1
そ の 他		1,520	1,471	1,456	1,647	12
合 計		2,042	1,977	1,922	2,116	21

- 注：1 「給油取扱所」は、給油取扱所において危険物の取扱作業に従事している危険物取扱者を対象とした講習種別である。
- 2 「石油コンビナート」は、石油コンビナート等災害防止法上の特定事業所における危険物施設において危険物の取扱作業に従事する危険物取扱者を対象とした講習種別である。
- 3 「その他」は、「給油取扱所」および「石油コンビナート」以外の危険物施設において危険物の取扱作業に従事する危険物取扱者を対象とした講習種別である。

## 2 危険物施設の火災および漏えい事故等

- (1) 過去5年間における危険物の災害事故発生件数は、平成28年が9件と最も多い。  
 (2) 過去5年間の危険物施設別の災害事故発生件数は、一般取扱所での事故が11件と最も多い。

第7表 過去5年間の危険物施設における災害事故発生件数

年	危険物施設の別 内訳	製 造 所 (A)	貯蔵所							取扱所					そ の 他 (D)	合 計 (A+B+C+D)		
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タン ク 貯 蔵 所	屋 内 タン ク 貯 蔵 所	地 下 タン ク 貯 蔵 所	簡 易 タン ク 貯 蔵 所	移 動 タン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所			一 般 取 扱 所	小 計 (C)
平成26年	火災								0						1	1		1
	漏えい			2					2						1	1		3
	その他							2	2							0		2
平成27年	火災	1							0							0		1
	漏えい							2	2	1					1	2		4
	その他			1					1							0		1
平成28年	火災								0						4	4		4
	漏えい							1	1						1	1		2
	その他							2	2						1	1		3
平成29年	火災	1							0							0		1
	漏えい					1			1							0		1
	その他								0						1	1		1
平成30年	火災								0						1	1		1
	漏えい							2	2	1						1		3
	その他	1							0	1						1		2
火災計		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	8
漏えい計		0	0	2	0	1	0	5	0	8	2	0	0	0	3	5	0	13
その他計		1	0	1	0	0	0	4	0	5	1	0	0	0	2	3	0	9
総計		3	0	3	0	1	0	9	0	13	3	0	0	0	11	14	0	30

注：1 危険物施設の別の「その他」には、危険物運搬中の事故または無許可の危険物施設など、許可を受けている危険物施設以外での事故件数を記載。

## 第6章 消防の概要

### 1 消防の組織〈消防機関と人員〉

昭和23年消防組織法施行後、市町村消防の原則が確立され、昭和48年7月1日大野地区消防組合が発足したことにより、県下全域にわたり消防の常備化が実現した。消防吏員は平成31年4月1日現在で1,235名である。

また、消防団員数は平成31年4月1日現在で5,824名であるが、近年の社会経済情勢の変化の影響を受けて、団員数の減少、サラリーマン団員の増加等の課題に直面しており、消防団の充実強化を一層推進することが必要である。

### 2 消防施設

#### (1) 消防機械

消防機械の保有状況は第8表および第9表のとおりであるが、特に近年の救急需要の増加に伴い、各消防本部とも高規格救急自動車の導入を推進している。これにより、高度な救急処置を実施することができ、救命率の向上を図っている。

#### (2) 消防水利

消防水利は、消防機械とともに、火災鎮火のために重要不可欠なものである。

これについては、消防に必要な水利の確保と管理のため「消防水利の基準」が定められ、その基準に適合したものを消防水利としている。消防水利には、消火栓、防火水槽、プール等の人工水利と河川等の自然水利があり、その保有状況は第11表のとおりである。

### 3 民間防火組織

#### (1) 幼年消防クラブ

幼年消防クラブは、幼年期における防火教育の重要性、防火活動を通じての正しい社会的態度の養成の必要性などの観点からはじめられたもので、幼稚園、保育園の指導者を中心に消防機関の協力を得て幼年消防活動を行うことにより、父母兄弟や近隣住民に対する防火思想の普及も効果的に図られている。

#### (2) 少年消防クラブ

少年消防クラブは、少年のころから火災予防に関する知識を身に付け、学校や各家庭における火災防止を図るとともに、火に関する諸原理を実際に即して勉強し、学校教育としての社会科、理科および家庭科の学習の補助を目的とするものであって、昭和25年に少年消防クラブ取扱要綱が制定され、続いて昭和28年に「全国少年消防クラブ運営指導協議会」（会長：消防庁長官）が設けられ、今日に至っている。

#### (3) 女性防火クラブ

女性防火クラブは、家庭において火を使用する機会の多い女性を対象に、火災予防の知識を養うことが必要であることから、任意に結成されたものであり、消防職団員の指導のもとに各家庭の防火診断、火災の初期活動等、重要な役割を果たしている。

## 4 表 彰

消防職員または消防団員の士気高揚を図るとともに、地域住民の消防に対する正しい認識と円滑な協力援助関係を確立するため、消防に関して功労のあった消防団員、消防機関その他の団体または個人に対し、各種表彰を行っている。

また、昭和58年より新たに県知事の定例表彰の中で、30年以上勤続の消防団員の配偶者等も表彰することにした。

## 5 消防の現況

第1表 消防職団員数の推移(各年4月1日現在)

区分	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
消防職員数	150	163	203	201	231	227	262	257	268	293	328	351	354	372	381	421	461	521	594
消防団員数	11,835	10,701	8,487	8,275	8,091	7,342	7,174	7,147	7,118	6,744	6,759	6,731	6,751	6,754	6,491	6,388	6,303	6,191	6,019

47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元	2	3	4
693	743	785	785	832	851	872	895	922	937	950	974	974	982	982	983	999	1,009	1,010	1,032	1,052
5,814	5,703	5,647	5,635	5,633	5,623	5,629	5,616	5,549	5,623	5,616	5,608	5,588	5,549	5,545	5,485	5,471	5,453	5,437	5,488	5,492

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
1,090	1,101	1,119	1,141	1,162	1,169	1,183	1,186	1,190	1,188	1,190	1,193	1,192	1,190	1,189	1,184	1,183	1,180	1,192	1,196	1,189
5,497	5,519	5,502	5,533	5,523	5,518	5,497	5,499	5,483	5,460	5,436	5,439	5,442	5,406	5,411	5,411	5,480	5,560	5,656	5,688	5,661

26	27	28	29	30	31
1,188	1,206	1,206	1,226	1,238	1,235
5,720	5,797	5,781	5,809	5,825	5,824

第2表 消防機関の現況

区 分		平成29年4月(A)	平成30年4月(B)	増減(B-A)
消 防 本 部 ・ 署	消 防 本 部 数	9	9	0
	消 防 署 数	19	19	0
	出 張 所 数	28	28	0
	消 防 職 員 数	1,238	1,235	△3
消 防 団	消 防 団 数	18	18	0
	分 団 数	235	236	1
	消 防 団 員 数	5,825	5,824	△1

第3表 消防の概況

平成31年4月1日現在

区分 消防(局)本部名	消防本部・署所						消防団						消防水利		基地局および固定局 移動局			
	設置別	消防署数	出張所数	(消防実員数)	普通自動車数	水槽付消防ポンプ自動車数	消防団数	分団数	消防団常備部数	団員数		普通自動車数	小型動力ポンプ付積載車	消火栓(公設)		防火水槽		
										計	常勤						非常勤	
福井市	○	4	15	367	20	3	1	54		1,013	1	52	41	9,552	821	30	15	174
大野市	○	1	1	55	3		1	10		465	10	21		487	289	26	3	37
勝山市	○	1		38	2	1	1	12		296	2	10		388	199	13	16	42
永平寺町	○	1		39		3	1	12		268	10	11		177	253	11	3	27
嶺北消防組合	○	4	1	199	6	4	2	33		717	36	9		1,587	1,227	105	4	131
鯖江・丹生消防組合	○	1	4	113	5	1	2	35		569	32	9	3	1,653	891	39	5	98
南越消防組合	○	3	2	150	7	4	3	32		815	12	26	1	2,500	688	32	7	155
敦賀美方消防組合	○	3	1	147	3	4	3	16		746	23	31	6	1,298	220	164	8	137
若狭消防組合	○	1	4	127	7	3	4	33		935	9	39	57	1,079	503	55	6	135
計	1	19	28	1,235	53	23	18	237	0	5,824	135	208	108	18,721	5,091	475	67	936



第4表 階級別消防職員数

平成31年4月1日現在

区分	消防職員															条例定数
	消防吏員(実員)										その他の職員					
	消防司監	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	小計(B)	事務職員	技術職員	単純労務職員	小計(C)		
計(A) = (B) + (C)	うち女性															
消防(局)本部名																
福井市	5	1	6	26	79	72	54	61	68	367	13	( )	( )	13		
大野市	3	( )	( )	1	9	15	10	7	13	55	2	( )	( )	2		
勝山市	1	( )	( )	5	4	12	5	5	7	38	2	( )	( )	2		
永平寺町	1	( )	( )	3	7	13	3	3	10	39	( )	( )	( )	0		
嶺北消防組合	9	1	2	7	38	42	33	33	43	199	4	( )	( )	4		
鯖江・丹生消防組合	5	( )	( )	8	28	25	17	14	20	113	2	( )	( )	2		
南越消防組合	5	( )	( )	10	35	35	20	21	28	150	2	( )	( )	2		
敦賀美方消防組合	148	( )	( )	12	24	27	28	30	25	147	1	( )	( )	1		
若狭消防組合	128	( )	( )	7	29	26	11	25	28	127	1	( )	( )	1		
計	1,262	0	12	79	253	267	181	199	242	1,235	27	0	0	27		
		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )		

注1: 下段の( )は、女性職員の内数

注2: 条例定数に含まれない派遣・出向職員および短時間勤務の再任用職員がいるため、条例定数を超えている場合がある

第5表 階級別非常勤消防団員数

平成31年4月1日現在

階級別 消防(局)本部	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	条約定数
福井市	1013 (49)	1 ( )	8 ( )	53 (2)	54 (2)	102 (4)	102 (5)	693 (36)	1,055
大野市	465 (100)	1 ( )	2 ( )	10 (1)	11 (2)	35 (3)	70 (6)	336 (88)	485
勝山市	296 (24)	1 ( )	2 ( )	12 ( )	12 ( )	25 (1)	34 (2)	210 (21)	299
永平寺町	268 (18)	1 ( )	2 ( )	11 (1)	11 (1)	)	33 (1)	210 (15)	315
嶺北消防組合	717 (16)	2 ( )	8 ( )	33 ( )	52 ( )	2 (2)	63 (2)	557 (12)	773
鯖江・丹生消防組合	569 (34)	2 ( )	5 ( )	36 ( )	33 ( )	)	82 (2)	411 (32)	647
南越消防組合	815 (52)	3 ( )	9 ( )	32 (2)	32 (2)	)	83 (5)	656 (43)	826
敦賀美方消防組合	746 (40)	3 ( )	4 ( )	16 ( )	16 ( )	51 ( )	85 ( )	571 (40)	761
若狭消防組合	935 (22)	4 ( )	6 ( )	33 ( )	23 ( )	54 ( )	94 (1)	721 (21)	970
計	5,824 (355)	18 (0)	46 (0)	236 (6)	244 (7)	269 (10)	646 (24)	4,365 (308)	6,131

注：下段の( )は、女性団員の内数

第6表 年齢別消防吏員および消防団員数

平成31年4月1日現在

年齢別 消防(局)本部名	消 防 団 員										消 防 吏 員										平均年齢 (D) (C)			
	(C)のうち										団員数 (C)	(A)のうち										平均年齢 (B) (A)		
	18歳 〜 19歳	20歳 〜 24歳	25歳 〜 29歳	30歳 〜 34歳	35歳 〜 39歳	40歳 〜 44歳	45歳 〜 49歳	50歳 〜 54歳	55歳 〜 59歳	60歳 〜 64歳		65歳 以上	18歳 〜 19歳	20歳 〜 24歳	25歳 〜 29歳	30歳 〜 34歳	35歳 〜 39歳	40歳 〜 44歳	45歳 〜 49歳	50歳 〜 54歳			55歳 〜 59歳	60歳 〜 64歳
福井市	0	10	34	62	124	180	168	140	102	29	1,013	0	51	47	44	62	46	21	51	47	44	62	47,935	47.3
大野市	0	7	15	51	45	91	81	54	42	12	465	6	6	10	6	5	6	6	10	6	5	21,468	46.2	
勝山市	0	5	7	31	39	54	51	47	27	2	296	0	7	10	2	5	5	2	7	10	2	13,610	46.0	
永平寺町	0	23	13	24	36	63	53	20	9	0	268	1	11	5	3	4	4	1	11	5	3	11,216	41.9	
嶺北消防組合	0	11	21	66	83	145	157	73	34	18	717	5	26	36	20	10	28	19	26	36	20	32,652	45.5	
鯖江・丹生消防組合	0	22	42	75	121	124	127	15	2	4	569	5	22	17	6	10	19	11	22	17	6	22,505	39.6	
南越消防組合	0	8	34	65	93	159	161	82	54	21	815	6	28	23	9	18	17	6	28	23	9	37,470	46.0	
敦賀美方消防組合	0	26	72	154	163	140	78	33	30	8	746	4	29	13	5	7	25	24	29	13	5	29,490	39.5	
若狭消防組合	0	26	92	177	220	204	106	31	13	3	935	2	13	16	8	16	21	10	13	16	8	36,416	38.9	
計	0	138	330	705	924	1,160	982	495	313	97	5,824	30	193	177	103	137	171	100	193	177	103	252,762	43.4	

注:18歳〜19歳の欄は18歳未満含む。

第7表 在職年数別消防吏員および消防団員数

平成31年4月1日現在

年数別 消防(局)本部名	消 防 団 員						消 防 団 員									
	消 防 団 員			消 防 団 員			常 勤 団 員			非 常 勤 団 員						
	合 計	5 年 未 満	5 10 年 未 満	10 15 年 未 満	15 20 年 未 満	20 25 年 未 満	25 30 年 未 満	30 年 以 上	合 計	5 年 未 満	5 10 年 未 満	10 15 年 未 満	15 20 年 未 満	20 25 年 未 満	25 30 年 未 満	30 年 以 上
福 井 市	367	86	54	25	30	26	58	88	1,013	264	206	176	122	101	69	75
大 野 市	55	10	8	6	5	9	5	12	465	82	135	80	45	43	43	37
勝 山 市	38	4	4	5	3	6	7	9	296	54	58	48	47	39	31	19
永 平 寺 町	39	7	6	2	3	6	9	6	268	95	78	38	25	20	9	3
嶺 北 消 防 組 合	199	36	34	28	17	21	34	29	717	144	135	140	107	96	47	48
鯖 江・丹 生 消 防 組 合	113	20	17	14	10	22	11	19	569	164	143	107	97	38	14	6
南 越 消 防 組 合	150	33	25	13	7	23	22	27	815	210	141	134	115	94	81	40
敦 賀 美 方 消 防 組 合	147	21	34	23	20	18	19	12	746	253	243	128	59	25	25	13
若 狭 消 防 組 合	127	18	31	14	12	14	13	25	935	416	233	144	84	44	12	2
計	1,235	235	213	130	107	145	178	227	5,824	1,682	1,372	995	701	500	331	243

第8表 消防ポンプ自動車等現有数(消防本部・署)

平成31年4月1日現在

区分	消防本部・署 現有											その他車両									
	普通消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	はしご付消防ポンプ自動車 (ポンプ付でないものを含む)	消防ポンプはしご自動車	大型高所放水車	泡原液搬送車	化学消防ポンプ自動車	指揮車	照明車	積小型動力ポンプ車 積小型動力ポンプ車 積小型動力ポンプ車	広報車		資器材搬送車	屈折放水塔車	水槽車	支援車	人員搬送車	防災指導車	救急自動車	救助工作車	
消防(局)本部名																					
福井市消防局	20	3	2	1	1	1	1	4	5		7	6	4		1	1		11 (11)	2	8	
大野市消防本部	3		1					1	1			1	2		1			4 (4)	1		
勝山市消防本部	2	1	1					1	1			1	1					3 (3)	1	2	
永平寺町消防本部		3							1		2	1	1					3 (3)	1		
嶺北消防組合	6	4		1	1	1		4	5		7	1	5		1			8 (8)	3	5	
鯖江・丹生消防組合	5	1		1				2	2			6	2		1			6 (6)	1		
南越消防組合	7	4	1	1				2	3		1	7	5		1	1		8 (8)	3		
敦賀美方消防組合	3	4	1			1		2	1		6	1	5		1			6 (6)	2	7	
若狭消防組合	7	3		1				1	1		6	6	2					7 (7)	1		
計	53	23	4	2	4	2	1	2	17	20	0	29	30	27	0	4	4	56 (56)	15	22	

注:救急自動車の( )書きは高規格救急自動車で内数。

第9表 消防ポンプ自動車等現有数（消防団）

平成31年4月1日現在

種別 消防(局)本部名	消防団現有			
	普通消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ	
			小型動力ポンプ付積載車	車両に積載していないもの
福井市	1		52	41
大野市	10		21	1
勝山市	2		10	
永平寺町	10		11	
嶺北消防組合	36		9	
鯖江・丹生消防組合	32		9	3
南越消防組合	12		26	1
敦賀美方消防組合	23		31	6
若狭消防組合	9		39	57
計	135	0	208	109

第10表 化学消火薬剤備蓄状況

平成31年4月1日現在

種別	計		化学消火剤種別														
	(A)	(B)	たんぱく系		合成界面活性剤	水成膜泡消火薬剤	水溶性液体用泡消火薬剤 (耐アルコール用)	粉末(kg)									
	(kg) (ア)～(オ)	(kg) (カ)～(ケ)	3%型 (ク) (イ)	6%型 (kl) (イ)	(kl) (ウ)	(kl) (エ)	(kl) (オ)	第1種 粉未 (カ)	第2種 粉未 (キ)	第3種 粉未 (ク)	第4種 粉未 (ケ)						
消防(局)本部名																	
福井市	14.95	0.00	10.50	0.09	1.63	2.39	0.34										
大野市	1.63	0.00			1.63												
勝山市	0.84	0.00			0.84												
永平寺町	0.60	0.00			0.60												
嶺北消防組合	32.68	0.00	4.07		3.77	21.22	3.62										
鯖江・丹生消防組合	4.52	0.00			2.54	1.98											
南越消防組合	2.18	0.00			0.78	1.40											
敦賀美方消防組合	4.61	0.00	0.85		2.56	0.92	0.28										
若狭消防組合	1.34	0.00			1.34												
計	63.35	0.00	15.42	0.09	15.69	27.91	4.24	0.00	0.00	0.00	0.00						0.00

第11表 消防水利の状況

平成31年4月1日現在

種別 消防(局)本部名	消火栓		小計(C)(D)+(E)				公設(D)				私設(E)				その他															
	計 (A) + (B) (C)	小計 公設 私設	防火水槽				防火水槽				防火水槽				小計	河川・溝等	海・湖	沼・池等	下水道	その他										
			100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 未満	100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 未満	100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 未満							100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 未満						
福井市	10,403	9,552	8	783	30	30	8	783	30	30	100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 未満	30	8	783	30												
大野市	828	487	3	283	26	3	3	283	26	3	100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 未満	3	1	216	16						8						
勝山市	600	388	3	194	13	3	2	194	13	3	100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 未満	3	2	194	13						0						
永平寺町	441	177	1	233	11	1	19	233	11	1	100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 未満	1	19	233	11					9							
嶺北消防組合	2,919	1,587	62	1,103	105	62	62	1,103	105	13	100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 未満	49	46	925	81					56	12	6	38				
鯖江・丹生消防組合	2,583	1,653	17	861	39	17	13	861	39	15	100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 未満	2	10	842	39					0							
南越消防組合	3,318	2,598	7	663	32	7	18	663	32	6	100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 未満	1	18	648	31					107	61	1	26	18	1		
敦賀美方消防組合	1,735	1,298	5	206	164	5	9	206	164	5	100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 未満	5	4	186	157					0							
若狭消防組合	1,637	1,079	1	497	55	1	5	497	55	1	100m <sup>3</sup> 以上	60m <sup>3</sup> 未満	40m <sup>3</sup> 未満	20m <sup>3</sup> 未満		2	490	53					34							
計	24,464	18,819	129	4,823	475	79	139	4,823	475	74	110	4,517	431	55	29	306	44	79	0				547	201	7	194	18	0	127	



第12表 消防機関の出動状況

平成30年中

区分	種別	県計 (ア)~(カ)	火災 (ア)	風水害 等の 災害 (イ)	演習 訓練 (ウ)	広報 指導 (エ)	警防 調査 (オ)	火災 原因 調査 (カ)	特別 警戒 (キ)	捜索 (ク)	予防 査察 (ケ)	誤報等 (コ)	その他 (カ)
消防本部・署所	出動回数	28,200	208	285	1,618	4,261	7,240	268	1,991	6	11,059	57	1,207
	出動延人数	87,700	3,302	779	11,548	14,234	18,559	1,247	6,053	36	27,741	617	3,584
消防団	出動回数	3,742	100	71	1,363	136	9	0	710	0	0	18	1,335
	出動延人数	40,337	1,785	1,878	20,006	1,825	168	0	6,100	0	0	116	8,459

第13表 消防吏員・団員の公務による死傷者数

平成30年中

区分	種別	県計 (ア)~(キ)	火災 (ア)	風水害 等の 災害 (イ)	救急 業務 (ウ)	演習 訓練 (エ)	特別 警戒 (オ)	捜索 (カ)	その他 (キ)
消防吏員	死者	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷者	10	5	0	1	3	0	0	1
消防団	死者	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷者	4	0	0	0	4	0	0	0

第14表 火災通報施設等の現況

平成31年4月1日現在

区分	火災報知機			テレビ 監視装置 (基)	望 楼		電 話					救急指令装置		
	受信機 (基)	発信機			小計 (ウ)+(エ) (基)	24時間 監視体 制をとつ ているも の (ウ) (基)	その他 (エ) (基)	小計 (カ)+(キ)+(ク) (回線)	消防機関にあるもの		加入電話 (キ) (回線)	救 急 指 令 専 用	消 防 指 令 装 置 と 併 用	
		小 計 (ア)+(イ) (基)	公衆用 (ア) (基)						自衛用 (イ) (基)	火災報知 専用電話 (カ) (回線)				消防電話 1ヶ月あた りの経費 (千円) (回線)
消防(局)本部名														
福井市	0			0			289	18	210	160	61		1	
大野市	0			1			32	9	2	5	21			
勝山市	0						13	7			7			
永平寺町	0						17	12			5		1	
嶺北消防組合	0						47	14			33			
鯖江・丹生消防組合	0						55	13	5	229	37		1	
南越消防組合	0						55	12	2	6	41			
敦賀美方消防組合	0						42	11	9	254	22			
若狭消防組合	0			1			40	8	8		24			
計	0	0	0	2	0	0	590	104	236	654	251	0	3	

第15表 無線通信施設等の現況

平成31年4月1日現在

種別	消防・救急業務用無線（デジタル方式）										携帯電話等					
	固定局			基地局および携帯基地局						移動局		その他の無線局数	衛星携帯電話保有数	救急車および救急隊	うち災害時 優先電話	
	局数		局 の 電 波 の 数  （ そ の 他 の 電 波 の 数 ）	局数		電波の数				陸上移動局数	携帯局数					
	多重	その他		基地局	携帯基地局	統制波	主運用波	活動波	防災相互波							
消防(局)本部名																
福井市	6			9		3	1	5		174			1	11	8	
大野市				3		3	1	2		37			3	4	3	
勝山市		13	13	3		3	1	2		42			1	2	2	
永平寺町				3		3	1	2		12	15		1	3	3	
嶺北消防組合				4		3	1	3		131			1	9		
鯖江・丹生消防組合				5		3	1	2		98			3	6	6	
南越消防組合				7		3	1	3		155			5	8	8	
敦賀美方消防組合				8		3	1	2		137			3	6	5	
若狭消防組合				6		3	1	2	1	135			1	6	6	
計	6	13	13	48	0	27	9	23	1	921	15	0	19	55	41	

第16表 幼年消防クラブの現況

平成31年4月1日現在

種別	組織別クラブ数					組織別クラブ員数					指導者数					
	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	市町村 単位	地区 単位	その他	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	市町村 単位	地区 単位	その他	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	その他
消防(局)本部名																
福井市	2	2					45	45					2	2		
大野市	14	14					1,055	1,055					14	14		
勝山市	12	12					459	459					54	54		
永平寺町	10	10					602	602					51	51		
嶺北消防組合	46	46					4,415	4,415					46	46		
鯖江・丹生消防組合	39	39					1,500	1,500					106	106		
南越消防組合	36	36					827	827					36	36		
敦賀美方消防組合	35	35					2,705	2,705					35	35		
若狭消防組合	1	1					20	20					4	4		
計	195	195	0	0	0	0	11,628	11,628	0	0	0	0	348	348	0	0

第17表 少年消防クラブの現況

平成31年4月1日現在

種別	組織別クラブ数					組織別クラブ員数					指導者数						
	計	学校単位		市町村単位	地区単位	その他	計	学校単位		市町村単位	地区単位	その他	計	学校単位		その他	
		小学校	中学校					小学校	中学校					小学校	中学校		
消防(局)本部名																	
福井市	50	50					2,829	2,829					75	75			
大野市	15	10	5			425	340	85					15	10	5		
勝山市	16	3		4	9	869	350				63	456	52	9			43
永平寺町	13				13	277						277	80				80
嶺北消防組合	26	26				1,027	1,027						26	26			
鯖江・丹生消防組合	20	20				2,627	2,627						121	121			
南越消防組合	21	21				842	842						21	21			
敦賀美方消防組合	12	12				419	419						12	12			
若狭消防組合	0					0							0				
計	173	142	5	4	22	9,315	8,434	85	0	63	733	402	274	5			123

第18表 女性防火クラブの現況および活動状況

平成31年4月1日現在

種別	合計		周囲の状況						活動状況別組織数				
	組織数 (ア)+(イ)+(ウ)+(エ)	人員 (カ)+(キ)+(ク)+(ケ)	市街地		農山村地域		漁村地域		その他 組織数 (エ)	人員 (ケ)	活動状況別組織数		
			組織数 (ア)	人員 (カ)	組織数 (イ)	人員 (キ)	組織数 (ウ)	人員 (ク)			消火活動 を行う (a)	消火活動は 行わないが、 炊き出し、連 絡、救護等 を行う (b)	(a)(b)は行 わず、予防の 啓蒙活動を 行っている (c)
消防(局)本部名													
福井市	41	1,737	16	537	22	734	3	466			8		33
大野市	2	55			2	55					2		
勝山市	8	78	2	30	6	48					8		
永平寺町	1	19	1	19									1
嶺北消防組合	2	558	2	558									2
鯖江・丹生消防組合	22	1,159	7	122	12	453	3	584			12		10
南越消防組合	20	259	12	155	8	104						20	
敦賀美方消防組合	9	1,556	2	1,480	4	57	3	19			7	2	
若狭消防組合	16	203			8	140	8	63			16		
計	121	5,624	42	2,901	62	1,591	17	1,132	0	0	53	22	46

第19表 消防表彰受賞状況

種 類		年 度										
		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
叙 勲		24	23	22	21	22	23	21	31	33	21	
藍 綬 褒 章		1				3	3	2				
消 防 庁  長 官 表 彰	功 勞 章	1	2	1	2	2	2	1	1	1		
	永年勤続功労章	20	21	21	21	21	21	22	22	23	23	
	表 彰 旗											
	竿 頭 綬					1	1	1				
	消防団 地域 活動	消 防 団	1	1	1	1	1	1	1	1		
		事 業 所	1	1	1				1			1
	少年 消防 クラブ	表 彰 旗		1			1					
		表 彰 楯	1		1	1		1	1	1	1	1
		指 導 者										
	福 井 県  知 事 表 彰	功 勞 章	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
永年勤続精績章		141	142	155	152	154	177	132	168	149	154	
銀 杯		30 年 以 上										
		退職10～15年未満	75	66	70	67	71	73	49	55	67	58
感 謝 状		退 職 幹 部	24	24	22	22	33	16	49	23	20	17
		人 命 救 助 そ の 他										
		夫 人 表 彰	22	36	33	28	26	33	33	31	26	47
竿 頭 綬					35	46	46	47	49	52		
特 別 功 勞 章												

## 第7章 消防教育訓練

### 1 消防学校の概要

#### (1) 沿革

昭和34年7月16日 福井市水越町に福井県消防学校設置。  
 昭和47年11月1日 福井市合谷町へ移転。  
 平成8年4月1日 福井市大畑町へ再移転、現在に至る。

#### (2) 施設概要

ア 所在地等 (ア) 所在地 福井市大畑町97-21-3  
 (イ) 敷地面積 40,759.02㎡  
 イ 建物工作物等

建物構造および規模

・ 敷地面積……………40,759.02㎡    ・ 建物延面積…………… 8,001.62㎡

名称	規模・構造	延べ面積(㎡)	内 容
教育管理棟 宿泊施設(3階)	RC造3階	3,249㎡	1階 校長室 講師控室 職員室 会議室 防災倉庫 2階 普通教室(60人)(40人) 談話室 図書室 視聴覚室 理化学室(各種実習室併設) 等 3階 寮室(20室) トレーニングルーム 娯楽室
体育館	鉄骨造2階建	2,106.25㎡	1階 食堂 学生ホール 和室 倉庫 2階 アリーナ
雨天訓練場	鉄骨平屋建	1,091.22㎡	訓練場(救助、ポンプ操法訓練施設) 訓練資器材庫 訓練車両庫
訓練塔(主)	SRC造 地下1階建 地上8階建	594.84㎡	立坑訓練室 耐煙迷路室 消火設備実験室 垂直救助訓練 水平ロープ渡過 ブリッジ救出訓練施設 放水訓練室 水平救助・担架吊り下げ救出訓練施設 梯子車注水訓練室 積載梯子上救出訓練施設 梯子車進入訓練室 高所活動・人命検索訓練施設 救助袋等避難器具取扱訓練室 地下火災実験室
訓練塔(補助)	鉄骨造 地上7m	A塔 70.44㎡ B塔 32.86㎡	人命救助訓練施設 引上救助訓練施設 中高層建物防御訓練施設 斜め救助訓練施設 障害突破 垂直降下訓練施設
水難訓練用プール (兼、潜水訓練)	FRP製	25m×5コース 水深1.5m～3.0m 容量630m³ 採水口4箇所(ポンプ車用) 機械室・便所(34.43㎡)	
その他施設			油火災消火訓練施設(耐火レンガ造) 直径3m×高さ0.5m 防火訓練壁 幅14m×高さ4m 受水槽20㎡ 煙道訓練施設 間口1.0m×1.0m 模擬火災訓練家屋(可搬式プレハブ型模擬ハウス) 山岳救助訓練施設(25m×60m)
屋外訓練場		7,800㎡(120m×65m)	1周200mグラウンド

### 2 教育訓練

消防職団員の各種教育訓練を第1表および第2表のように実施し、人的消防力の充実向上を図るとともに、より高度の専門的知識を修得させた。  
 また、第3表のとおり消防大学校へ職員が派遣された。



平成30年度 消防本部(局)別受講者数

区分	教育訓練の種類	項目	実施年月日	教育 実日数	延時間	消防本部(局)						本部		合計		
						福井	敦賀美方	南越	若狭	大野	勝山	鯖江丹生	嶺北		永平寺	その他
消防職員	初任教育(第53期)	初級幹部科	30. 4. 4~9. 26	120	835	16	4	7	3	1	1	4	8	1	45	
			隔年実施のため中止													
			30. 12. 6~12. 14	7	49	2	2	3	1	1	2	4	1	18		
	幹部教育	中級幹部科(第31期)	30. 6. 19~6. 21	3	21	4	2	1	2	2	1	2	2	2	15	
			30. 11. 7~11. 20	10	70	2	2	3	2	1	1	1	3	15		
			隔年実施のため中止													
	専科教育	特殊災害科	31. 2. 13~2. 26	10	70	2	2	3	2	1	1	1	3	3	15	
			31. 1. 9~1. 18	7	49	2	2	3	2	1	1	1	4	16		
			隔年実施のため中止													
	救急科	救助科(第42期)	30. 10. 2~11. 2	23	161	2	2	3	2	1	1	1	4	1	17	
			31. 1. 23~3. 14	36	252	4	6	5	5	2	1	2	8	1	36	
			30. 7. 4~7. 20	12	84	3	2	2	2			1	4	1	15	
	特別教育	水難救助科(第23期)	(下記公開講座に記載)													
			30. 4. 12~4. 13	2	14	5	4	4	4	4	2	4	4	2	33	
			30. 5. 17	1	3	5	4	3	2	1	2	4	3	30		
小計	小	計	231	1,608	47	32	37	28	14	12	25	48	10	255		
		初級幹部科	2	12	11	8	3	7	2	2	5	4	2	49		
消防団員	指揮幹部科	現場指揮課程	30. 11. 24~11. 25	2	14	5	6	3	4	3	2	3	3	1	30	
			分団指揮課程	2	10	4	3	3	7	4	2	2	5	4	32	
			消防団員指導員教育(日消)	2	12	1	3	4	4	1	1	1	2	2	1	18
	小計	小	計	8	48	21	20	12	22	15	7	15	13	4	129	
			自衛消防隊幹部教育	1	7	4	18	2	5	16	2	2	1	4	1	53
			女性防火クラブ員教育(第1回)	1	6	11	3	6	3	5	2	2	4	6	3	43
	一般・その他	自主防災組織員教育(第1回)	30. 10. 7	1	3	9		45			16		2	3	16	49
			自主防災組織員教育(第2回)嶺南	1	3											45
			自主防災組織員教育(第3回)	1	3	6		8		5	4	3	6	24	56	
	小計	小	計	5	22	30	21	19	53	42	8	10	19	44	246	
			合計	244	1,678	98	73	68	103	71	27	27	50	80	58	630
	公開講座	中級幹部科	救助科	30. 12. 11	1	4	4	5	4	2	2	4	5	4	2	32
				30. 10. 22	1	4	4	6	3	5	2	4	2	4	3	33
				31. 1. 15	1	4	5	4	4	2	1	5	4	1	4	30
				31. 2. 25	1	4	4	3	4	4	4	2	1	4	4	1
31. 3. 5				1	4	7	8	6	7	2	7	8	7	8	8	60
小計	5	20	24	26	21	22	10	17	23	24	15	182				
総計	249	1,698	122	99	89	125	81	104	73	104	73	2	812			

第2表 平成30年度消防学校教育訓練実施状況

区分	項 目	入校者数	教育実日数	教育時間数	担当講師別時間数				
					学 校	県	消 防	専 門	
消防職員	初任教育(第53期)	45	120	835	537	31	206	61	
	幹部教育	初級幹部科							
		中級幹部科(第31期)	18	7	49	9	2	25	13
		上級幹部科(第13期)	15	3	21	2	3	10	6
	専科教育	警防科(第37期)	15	10	70	27	11	21	11
		特殊災害科							
		危険物科(第34期)	16	7	49	9	0	25	15
		火災調査科							
		救助科(第42期)	17	23	161	23	8	116	14
	特別教育	救急科(第26期)	36	36	252	7	6	83	156
		水難救助科(第23期)	15	12	84	8		76	
操法指導員教育		33	2	14	2		14		
起震車操作員教育		30	1	3	3				
	小 計	240	221	1,540	627	61	576	276	
消防団員	初級幹部科	50	2	14	7			7	
	指揮幹部科								
		現場指揮課程	30	2	14	1		13	
		分団指揮課程	32	2	14	10	4		
	消防団指導員教育(日消)	18	2	14	12	2			
	小 計	130	8	56	30	6	13	7	
一般・その他	自衛消防隊幹部教育	53	1	7	7				
	女性防火クラブ員教育	39	1	6	6				
	自主防災組織員教育	134	3	9	9				
	小 計	226	5	22	22	0	0	0	
	合 計	596	234	1,618	679	67	589	283	
公開講座	中級幹部科	32	1	4				4	
	予防査察科	27	1	4				4	
	救助科	33	1	4				4	
	危険物科	30	1	4				4	
	救急科	60	1	4				4	
	公開講座合計	182	5	20	0	0	0	20	
	総 合 計	778	239	1,638	679	67	589	303	

第3表 平成30年度消防大専科派遣者数

学 科	派遣者数	備 考
幹 部 科	(第49期)	福井 敦賀美方 消防学校、嶺北 南越、鯖江・丹生
	(第50期)	
	(第51期)	
	(第52期)	
上 級 幹 部 科	1	勝山
警 防 科	(第101期)	大野 鯖江・丹生
	(第102期)	
救 助 科	1	福井
救 急 科	1	若狭
予 防 科	1	鯖江・丹生
危 険 物 科	2	嶺北、敦賀美方
火 災 調 査 科	1	鯖江・丹生
新 任 教 官 科	1	若狭
現任教官科(総務・予防)	1	消防学校
現任教官科(警防)	1	消防学校
高度・特別高度救助コース	1	敦賀美方
航空隊長コース	1	防災航空事務所
危機管理・国民保護コース	4	消防学校、敦賀美方、福井市役所、嶺北
自主防災組織育成コース	2	嶺北、消防学校
自主防災組織育成短期コース	2	南越、越前市
女性消防吏員活躍推進講習会	1	鯖江・丹生
合 計	29	

防 災 編

---



## 第1章 災害の発生状況

### 1 平成30年中の災害発生状況

#### (1) 人的被害

重傷者37人、軽傷者112人

#### (2) 住家被害

全壊1棟、半壊10棟、一部破損690棟、床上浸水3棟、床下浸水25棟

第1表 平成30年中の災害発生状況

発生年月日 区分	災害名		大雪 1月12日～14日	大雪 1月24日～29日	大雪 2月5日～22日	大雪 3月5日	融雪 3月8日	融雪 3月22日～23日	大雨 7月4日～12日	台風20号 8月24日	台風21号 9月4日～5日	台風24号 9月30日～10月1日	計
	死者	負傷者											
人的被害	人	人	1		12	1							14
	行方不明者	人											0
	重傷	人	4	6	26						1		37
	軽傷	人	8	1	94					3	6		112
住家被害	棟	棟			1								1
	半壊	棟			6						4		10
	一部破損	棟	1		542	1			4	24	115	3	690
	床上浸水	棟							3				3
	床下浸水	棟			7				18				25
非住家	公共建物	棟			6					1	1		8
	その他	棟			124				1	1	8		134
その他	流失・埋没	ha											0
	冠水	ha								3			3
	流失・埋没	ha											0
	冠水	ha									3		3
の	学校	箇所		1	26				2	2	12		43
	病院	箇所											0
	道路	箇所			1		1	1	26	17	9		55
	橋りょう	箇所			1								1
他	河川	箇所							37		6		43

発生年月日 区分	災害名		大雪	大雪	大雪	大雪	大雪	大雪	融雪	融雪	大雨	台風20号	台風21号	台風24号	計	
	1月24日～29日	1月24日～29日	1月24日～29日	2月5日～22日	3月5日	3月8日	3月22日～23日	7月4日～12日	8月24日	9月4日～5日	9月30日～10月1日					
その他	港湾	箇所													0	
	砂防	箇所						15		1			1		17	
	清掃施設	箇所													0	
	崖くずれ	箇所						2							2	
	鉄道不通	箇所								1		1	1		3	
	被害船舶	隻								3		1	1		4	
	水道	戸													0	
	電話	回線												6	6	
	電気	戸		190					24	20						5,434
	ガス	戸														0
火災発生	建物	件													0	
	危険物	件													0	
	その他	件													0	
	り災世帯数	世帯				6					3		2		11	
	り災者数	人				13					8		3		24	
	公立文教施設	千円				5,627					450	1,296	7,674		15,047	
	農林水産業施設	千円				205,417					101,733	146	10,142		317,438	
	公共土木施設	千円				309,201			19,051	17,722	2,638,337	20,992	76,052	7,430	3,088,785	
	その他の公共施設	千円				35,588					458	715	82,999		119,760	
	公共施設被害市町村数	団体				10			1	1	3	2	4	1	22	
その他被害	千円									1,157	1,100	2,792		5,049		
被害総額	千円	24,314	1,027,460	19,051	17,722	2,742,135	17,722	24,449	179,659	7,430	4,042,220					
都道府県設置			2月6日										9月4日			
災害対策本部解散			2月22日										9月5日			
災害対策本部設置市町村			8							8	2		5	6	29	
災害救助法適用市町村			9													
消防職員出動延人数	人	21	1,203	9	215	41	160	7	1,656							
消防団員出動延人数	人		2,016		463	37	158	115	2,789							

## 2 過去5年間の災害発生状況（平成26年～30年）

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2014 (平26) 5.12	強風	(1)その他被害 その他 3件 (2)農産被害 1,660千円	日本の東に高気圧があつて、一方、中国東北 区に前線を伴った低気圧が北東に進んだた め、日本付近は気圧の傾きが大きくなり、福 井県では12日朝をピークに強風が吹いた。 (日最大風速) 敦賀 19.1m/s(南南東)07時58分 三国 17.7m/s(南南東)09時47分 (日最大瞬間風速) 敦賀 29.1m/s(南南東)07時51分 美浜 26.6m/s(南南東)21時14分
2014 (平26) 7.10	台風 8号	(1)その他被害 道路 1箇所 (2)公共土木施設被害 22,267千円	鹿児島県阿久根市付近に上陸した台風第8号 が本州の南を東進した影響で、南から暖かく 湿った空気が流れ込み、奥越中心に時々雨と なった。 (日最大1時間降水量(10日)) 九頭竜 30.0 <sup>mm</sup> 、美浜 5.0 <sup>mm</sup> (日降水量(10日)) 九頭竜 79.5 <sup>mm</sup> 、美山 11.0 <sup>mm</sup> (日最大風速) 三国 11.8m/s(南南東)07時35分 敦賀 9.9 m/s(南東)15時50分 (日最大瞬間風速) 敦賀 17.3m/s(南南東)15時41分 三国 16.4 m/s(南南東)07時31分
2014 (平26) 7.17	大雨・ 強風・ 落雷	(1)非住家被害 その他 1棟 (2)電気被害 4,530戸 (3)その他公共施設被害 840千円	梅雨前線に向かって湿った空気が流れ込ん だ影響で、大気の状態が不安定となった。 (日最大1時間降水量(17日)) 小浜 32.5 <sup>mm</sup> 、春江・美浜 14.0 <sup>mm</sup> (日降水量(17日)) 小浜 33.0 <sup>mm</sup> 、勝山 24.0 <sup>mm</sup> (日最大風速) 小浜 14.3m/s(一)14時07分 勝山 7.3m/s(北北西)14時27分 (日最大瞬間風速) 小浜 33.8m/s(一)14時02分 勝山 11.7m/s(北西)14時22分
2014 (平26) 7.20	大雨	(1)住家被害 床下浸水 1棟 (2)その他 道路 2箇所 (3)その他 河川 5箇所 (4)電気被害 2,163戸 (5)農林水産業施設被害 16,864千円 (6)公共土木施設被害 197,796千円 (7)その他の公共施設被害 1,051千円	上空に寒気を伴った気圧の谷と湿った空気 の影響で、大気の状態が非常に不安定となっ た。 (日最大1時間降水量(20日)) 三国 56.5 <sup>mm</sup> 、福井 52.5 <sup>mm</sup> (日降水量(20日)) 福井 77.5 <sup>mm</sup> 、勝山 71.0 <sup>mm</sup>

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2014 (平 26) 8. 9	台風 11 号	(1) 人的被害 軽傷 1 人 (2) 住家被害 一部破損 1 棟 (3) 田 冠水 17.5ha (4) 畑 冠水 22.1ha (5) その他 道路 5 箇所 (6) その他 河川 10 箇所 (7) その他 砂防 10 箇所 (8) その他 崖くずれ 3 箇所 (9) 電気被害 30 戸 (10) その他 その他被害 9 箇所 (11) 農林水産業施設被害 41,707 千円 (12) 公共土木施設被害 267,506 千円 (13) その他の公共施設被害 8,603 千円	台風第 11 号が四国の南海上を北上し、北陸地方の沿岸に停滞した前線に南からの暖かく湿った空気の影響で大雨となった。 (日最大 1 時間降水量 (9 日)) 大飯 18.0 <sup>㎜</sup> 、越廼 11.5 <sup>㎜</sup> (日降水量 (9 日)) 大飯 102.0 <sup>㎜</sup> 、美浜 71.5 <sup>㎜</sup> (日最大風速) 小浜 9.2m/s(東南東)18 時 52 分 敦賀 8.1m/s(南南東)22 時 14 分 (日最大瞬間風速) 小浜 18.8m/s(南東)23 時 59 分 美浜 15.5m/s(東)22 時 09 分
2014 (平26) 8. 15	大雨	(1) 住家被害 床下浸水 1 棟	北陸地方に停滞する前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込み、雨で雷を伴い、大雨となった。 (日最大 1 時間降水量 (15 日)) 春江 33.5 <sup>㎜</sup> 、越廼 30.5 <sup>㎜</sup> (日降水量 (15 日)) 越廼 83.5 <sup>㎜</sup> 、勝山 75.0 <sup>㎜</sup>
2014 (平 26) 8. 26	大雨	(1) その他 砂防 2 箇所 (2) その他の公共施設被害 2,062 千円	前線を伴った低気圧が北陸地方を東進した影響で、雨時々曇りで嶺北を中心に雷を伴い大雨となった。 (日最大 1 時間降水量 (26 日)) 春江 33.5 <sup>㎜</sup> 、三国 24.0 <sup>㎜</sup> (日降水量 (26 日)) 春江 87.5 <sup>㎜</sup> 、三国 67.0 <sup>㎜</sup>
2014 (平26) 10. 5	台風 18号	(1) 電気被害 3,080 千円	高気圧に覆われましたが、台風第 18 号が西日本太平洋側に北上したため、雨一時曇りとなった。 (日最大 1 時間降水量 (5 日)) 敦賀 6.0 <sup>㎜</sup> 、武生 5.0 <sup>㎜</sup> (日降水量 (5 日)) 九頭竜 9.5 <sup>㎜</sup> 、武生 8.0 <sup>㎜</sup> (日最大風速) 三国 7.6m/s(北東)19 時 37 分 春江 5.4m/s (北) 18 時 24 分 (日最大瞬間風速) 三国 13.8m/s(北東)18 時 06 分 春江 7.2m/s(北)18 時 23 分 越廼 7.2m/s(東北東)19 時 11 分



年月日	種類	被害状況	気象状況
2014 (平26) 10.13	台風 19号	(1)その他被害 河川 1箇所 (2)その他被害 港湾 1箇所 (3)その他被害 砂防 1箇所 (4)公共土木施設被害 82,291千円	台風第19号は鹿児島県枕崎市付近に上陸し、その後、三重県津市付近を東北東に進み、勢力を維持したまま東海地方から関東地方北部へ速度を速めながら北東に進んだため、雨時々曇りで夜は大雨となった。 (日最大1時間降水量(13日)) 三国 23.5 <sup>mm</sup> 、越廼 22.0 <sup>mm</sup> (日降水量(13日)) 大飯 112.5 <sup>mm</sup> 、九頭竜 91.5 <sup>mm</sup> (日最大風速) 小浜 15.9m/s(北)22時16分 春江 14.7m/s(北)23時24分 (日最大瞬間風速) 小浜 26.4m/s(北北西)23時49分 福井 21.5m/s(北北西)23時02分
2014 (平26) 12.2	強風・ 波浪	(1)公共土木施設被害 2,616千円	日本付近は強い冬型の気圧配置となり、雨一時みぞれ又は雪で、雷やあられを伴ったところがあった。 (日最大風速) 越廼 13.0m/s(西)00時31分 春江 11.9m/s(西)00時31分 (日最大瞬間風速) 三国 23.0m/s(西北西)05時36分 越廼 21.7m/s(西)09時39分
2014 (平26) 12.3	竜巻	(1)その他被害 その他 2箇所	強い冬型の気圧配置となり、上空の寒気の影響により大気の状態が不安定となり、坂井市では竜巻(F0)と推定される現象が発生した。 (日最大風速) 福井 8.1m/s(南西)06時20分 三国 10.3m/s(西南西)01時10分 (日最大瞬間風速) 福井 14.0m/s(南南西)06時13分 三国 23.1m/s(西南西)01時02分
2014 (平26) 12.5	強風・ 波浪	(1)住家被害 一部破損 1棟 (2)その他被害 その他 2箇所 (3)公共土木施設被害 215,500千円	上空に寒気を伴った気圧の谷が通過し、冬型の気圧配置が強まり大気の状態が不安定となった。 (日最大風速) 越廼 11.6m/s(西)07時01分 敦賀 11.4m/s(西)16時20分 (日最大瞬間風速) 三国 20.7m/s(西)10時52分 越廼 20.2m/s(西南西)06時07分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2014 (平26) 12.7 ～ 2015 (平27) 3.31	大雪	(1)人的被害 死者 1人 重傷 3人 軽傷 4人 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)公共土木施設被害 103,931千円	12月は冬型の気圧配置や寒気を伴った気圧の谷の影響で、雪や雨の日が多く、気温はかなり低くなった。1月、2月は上旬に冬型の気圧配置が強まり大雪となった。 (日降雪量最大) 福井 32センチ1月1日 敦賀 34センチ2月9日 九頭竜 65センチ12月22日 大野 42センチ12月22日 武生 33センチ1月2日 今庄 51センチ1月1日 小浜 38センチ1月1日 (最深積雪最大値) 福井 56センチ1月2日 敦賀 64センチ2月10日 九頭竜 227センチ2月14日 大野 115センチ1月3日 武生 50センチ1月3日 今庄 113センチ1月3日 小浜 44センチ1月2日
2014 (平26) 12.13	落雷	(1)その他被害 河川 1箇所 (2)公共土木施設被害 6,984千円	冬型の気圧配置が強まったため、みぞれや雪で雷やあられを伴ったところがあった。 (日最大1時間降水量(13日)) 今庄 10.0 <sup>mm</sup> 、武生 9.5 <sup>mm</sup> (日降水量(13日)) 今庄 68.0 <sup>mm</sup> 、武生 41.5 <sup>mm</sup> (日最大風速) 越廼 12.4m/s(西)20時01分 三国 11.9m/s(西北西)06時46分 (日最大瞬間風速) 三国 21.5m/s(西)14時06分 越廼 20.0m/s(西南西)17時41分
2014 (平26) 12.16	風浪	(1)その他被害 道路 2箇所 (2)その他被害 河川 1箇所 (3)その他被害 港湾 1箇所 (4)その他被害 海岸 4箇所 (5)公共土木施設被害 892,684千円	日本海北部にある発達中の低気圧からのびる寒冷前線が通過したため、雨で雷やあられを伴ったところがあった。 (日最大風速) 越廼 13.9m/s(西北西)23時06分 春江 12.2m/s(西)22時44分 (日最大瞬間風速) 三国 24.7m/s(西北西)18時54分 越廼 21.3m/s(西)22時56分
2014 (平26) 12.17	斜面崩壊	(1)その他被害 崖くずれ 1箇所	強い冬型の気圧配置となったため、雪時々曇りで雷やあられを伴ったところがあった。 (日最大1時間降水量(17日)) 今庄 8.0 <sup>mm</sup> 、美山 7.5 <sup>mm</sup> (日降水量(17日)) 武生 38.0 <sup>mm</sup> 、美山 38.0 <sup>mm</sup>

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2015 (平27) 1.11	強風	(1)住家被害 一部破損 42棟 (2)非住家被害 公共建物 2棟 その他 5棟 (3)その他被害 28,917千円	日本付近は強い冬型の気圧配置となり、福井県では、寒気を伴った上空の気圧の谷の影響で、大気の状態が非常に不安定となった。 坂井市三国町楽円からあわら市市姫で発生した突風は、竜巻(F0)と推定。坂井市三国町米納津から坂井町木部新保で発生した突風は、竜巻(F1)と推定。 (日最大風速) 敦賀 15.4m/s(北北西)19時12分 春江 13.0m/s(北)18時56分 (日最大瞬間風速) 三国 21.9m/s(西北西)16時08分 敦賀 21.0m/s(北北西)19時08分
2015 (平27) 7.17~18	台風 11号	(1)その他被害 河川 4箇所 (2)その他被害 砂防 9箇所 (3)公共土木施設被害 272,580千円 (4)その他の公共施設被害 6,472千円	17日夜に山陰沖に進んだ台風第11号は、18日には熱帯低気圧に変わり日本海を北東に進んだため大雨となったところがあった。 (日最大1時間降水量(18日)) 美浜 17.5 <sup>mm</sup> 、敦賀 17.0 <sup>mm</sup> (日降水量) 小浜 84.5 <sup>mm</sup> (17日)、 敦賀 79.5 <sup>mm</sup> (18日)
2015 (平27) 8.5	落雷	(1)人的被害 重傷 1人	南から湿った空気と上空寒気により大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨となったところがあった(福井地方気象台で14:12から14:40に雷電を観測)。
2015 (平27) 8.25	台風 15号	(1)人的被害 軽傷 2人 (2)その他の公共施設被害 216千円	強い台風第15号は25日06時過ぎには熊本県荒尾市付近に上陸した後、北に進み10時には日本海に達した。21時には大型の台風となった。このため、非常に強い風を観測したところがあった。 (日最大風速) 敦賀 20.4m/s(南東)17時49分 三国 16.0m/s(南南東)20時00分 (日最大瞬間風速) 敦賀 30.7m/s(南東)18時26分 小浜 30.6m/s(東南東)17時01分
2015 (平27) 9.8~9	台風 18号	(1)公共土木施設被害 4,308千円	台風第18号が、東海地方から北陸地方を北上し日本海に進んだため、大雨となったところがあった。 (日最大1時間降水量(9日)) 美浜 26.5 <sup>mm</sup> 、敦賀 22.0 <sup>mm</sup> (日降水量(9日)) 今庄 100.0 <sup>mm</sup> 、敦賀 85.0 <sup>mm</sup>
2015 (平27) 10.1~2	大雨	(1)公共土木施設被害 13,142千円	前線を伴った低気圧が急速に発達しながら北陸地方を通過したため、大雨となったところがあった。 (日最大1時間降水量(2日)) 今庄 57.5 <sup>mm</sup> 、敦賀 48.0 <sup>mm</sup> (日降水量(2日)) 今庄 83.0 <sup>mm</sup> 、美山 73.0 <sup>mm</sup> (日最大風速) 小浜 14.6m/s(北西)2日01時21分 敦賀 14.4m/s(南南東)1日16時38分 (日最大瞬間風速) 敦賀 23.6m/s(西北西)2日01時02分 小浜 23.5m/s(北北西)2日01時09分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2015 (平27) 12. 4	強風	(1) 公共土木施設被害 429,531 千円	日本付近は冬型の気圧配置となり、福井県では、大気の状態が不安定となった。 (日最大風速) 越廼 13.1m/s(西)4日05時02分 敦賀 12.1m/s(西)4日05時30分 (日最大瞬間風速) 三国 28.1m/s(西)4日00時53分 越廼 23.6m/s(西南西)4日01時24分
2015 (平27) 12. 11	強風	(1) 人的被害 重傷 1人	本州上を前線を伴った低気圧が東北東進したため、大雨や強風となった。また、大気の状態が非常に不安定となり、竜巻等の激しい突風が発生しやすい状況となった。 (日最大1時間降水量(11日)) 武生 24.0 <sup>mm</sup> 、美浜 22.5 <sup>mm</sup> (日降水量(11日)) 大飯 92.5 <sup>mm</sup> 、小浜 86.0 <sup>mm</sup> (日最大風速) 春江 15.3m/s(北)11日12時26分 敦賀 15.3m/s(北北西)11日14時13分 (日最大瞬間風速) 小浜 24.7m/s(北北西)11日13時27分 敦賀 22.9m/s(北北西)11日14時04分
2015 (平27) 12. 17 ～ 2016 (平28) 2. 29	大雪	(1) 人的被害 軽傷 4人	12月は低気圧の通過や冬型の気圧配置の影響で曇りや雨の日が多く、1月24日から25日にかけて嶺北中心に、2月中頃は嶺南中心に一時的に冬型の気圧配置が強まって大雪となった。 (日降雪量最大) 福井 36センチ1月24日 敦賀 21センチ2月16日 九頭竜 35センチ1月19日 大野 34センチ1月24日 武生 26センチ1月25日 今庄 50センチ1月25日 小浜 15センチ2月16日 (最深積雪最大値) 福井 47センチ1月26日 敦賀 21センチ2月16日 九頭竜 87センチ1月25日 大野 57センチ1月25日 武生 39センチ1月25日 今庄 59センチ1月25日 小浜 27センチ2月16日
2016 (平28) 4. 17	暴風	(1) 人的被害 軽傷 2人 (2) その他被害 15,075 千円	華中で前線上に発生した低気圧が、発達しながら北東に進み、17日未明には朝鮮半島に、その後も発達しながら日本海を北東に進み17日夜には北海道西海上に進んだ。この低気圧の影響で福井県内では、16日夜から風が強まり、17日昼過ぎにかけて非常に強い風を観測した所があった。 (日最大風速(17日)) 三国 21.2m/s(南)10時35分 敦賀 20.0m/s(南南東)06時41分 (日最大瞬間風速(17日)) 敦賀 32.9m/s(南南東)08時08分 三国 30.1m/s(南)11時13分

年月日	種類	被害状況	気象状況
2016 (平28) 5.3	暴風	(1)人的被害 重傷 2人 軽傷 3人 (2)住家被害 一部破損 10棟 (3)非住家被害 その他 3棟 (4)農林水産業施設被害 15,000千円 (5)その他の公共施設被害 854千円 (6)その他被害 6,800千円	黄河下流で発生した低気圧は、ボツ海から 黄海付近を通過し、中国東北区を進んだ3日 昼頃にかけて急速に発達し、その後は東北東 進した。この低気圧からのびる寒冷前線が、3 日夜から4日未明にかけて北陸地方を通過し た影響で、福井県内では、3日未明から風が強 まり、夜遅くかけて非常に強い風を観測した 所があった。 (日最大風速(3日)) 敦賀 22.9m/s(南南東)20時15分 三国 21.7m/s(南南東)22時05分 (日最大瞬間風速(3日)) 敦賀 35.8m/s(南東)11時17分 三国 31.6m/s(南)21時57分
2016 (平28) 6.25	大雨	(1)農林水産業施設被害 9,757千円	前線を伴った低気圧が日本海を北東進した 影響で、嶺北を中心に大雨となり強い雨を観 測した所があった。 (日最大1時間降水量(26日)) 三国 42.0 <sup>mm</sup> 5時33分
2016 (平28) 9.20	台風 16号	(1)住家被害 床上浸水 1棟 一部破損 1棟 (2)公共土木施設被害 224,135千円 (3)その他被害 1,136千円 (4)災害対策本部設置市町村 敦賀市、池田町	台風16号が、太平洋沿岸を北東進した影響 で、福井県では、19日から20日にかけて雨が 降り、強い雨を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(20日)) 敦賀 33.5 <sup>mm</sup> 14時46分 九頭竜 28.5 <sup>mm</sup> 16時11分 小浜 28.5 <sup>mm</sup> 13時24分 (日降水量(20日)) 九頭竜 117.0 <sup>mm</sup> 、大飯 109.5 <sup>mm</sup>
2016 (平28) 10.5	台風 18号	(1)人的被害 軽傷 2人 (2)その他被害 300千円	台風18号が、対馬海峡から山陰沖を通過し 能登半島沖に進んだ影響で、福井県では、5日 昼前から風が強まり、5日夜遅くにかけて強い 風を観測した所があった。 (日最大風速(5日)) 敦賀 16.0m/s(南南東)16時10分 三国 18.4m/s(南)19時31分 (日最大瞬間風速) 三国 26.4m/s(南)19時25分 敦賀 25.3m/s(南)15時52分
2017 (平29) 8.7~8	台風5 号	(1)住家被害 全壊 1棟 床下浸水 3棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 道路 3箇所 (4)その他被害 河川 24箇所 (5)その他被害 港湾 2箇所 (6)その他被害 砂防 5箇所 (7)公共土木施設被害 393,080千円 (8)災害対策本部設置市町村 小浜市	台風第5号は、四国の南を通り、7日15時 半頃に暴風域を伴ったまま和歌山県北部に上 陸した。上陸後は近畿地方を北東に進み8日 には石川県白山市付近を通過した影響で、福 井県では、7日から8日にかけて断続的に強い 雨が降った。 8日は激しい雨を観測した所もあり、7日00 時から8日24時にかけての総降水量は、奥越、 嶺南を中心に200mmを超えた所があった。 (日最大1時間降水量(8日)) 美山 41.0mm 06時45分 小浜 35.0mm 00時55分 (7日~8日の期間降水量) 九頭竜 223.5mm、敦賀 207.5mm

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2017 (平29) 8.12	大雨	(1)住家被害 床下浸水 1棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 道路 1箇所 (4)公共土木施設被害 20,496千円 (5)災害対策本部設置市町村 高浜町	気圧の谷や湿った空気の影響で、嶺南では激しい雨を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(12日)) 小浜 45.5mm 04時14分
2017 (平29) 8.25	大雨	(1)住家被害 床下浸水 5棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 砂防 1箇所 (4)公共土木施設被 16,588千円 (5)災害対策本部設置市町村 永平寺町	低気圧から伸びる前線が北陸地方を南下したため、雷を伴って激しい雨の降った所があった。 (日最大1時間降水量(25日)) 勝山 42.0mm 10時03分 大野 39.0mm 11時00分 福井 34.5mm 09時45分 春江 34.0mm 09時27分
2017 (平29) 9.18	台風18号	(1)住家被害 床下浸水 5棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 港湾 1箇所 (4)その他被害 砂防 1箇所 (5)電気被害 31戸 (4)公共土木施設被 275,419千円	台風第18号が、兵庫県明石市付近に上陸した後、17日夜遅くから18日未明にかけて福井県を通過した影響で、福井県では激しい雨の降った所があった。 また、台風が最も接近した17日夜遅くから風が強まり、18日未明に強い風を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(18日)) 越廼 43.5mm 00時12分 (日最大1時間降水量(17日)) 大飯 38.0mm 23時34分 三国 37.5mm 23時16分 九頭竜 35.0mm 23時25分 (17日～18日の期間降水量) 大飯 114.5mm、小浜 112.5mm (日最大風速(18日)) 敦賀 17.2m/s(北西)00時32分 小浜 16.8m/s(北西)00時49分 (日最大瞬間風速(18日)) 敦賀 26.2m/s(北西)00時24分 小浜 30.6m/s(北北西)00時40分

年月日	種類	被害状況	気象状況
2017 (平29) 10.22 ~ 23	台風 21 号	(1)人的被害 重傷 1人 軽傷 4人 (2)住家被害 全壊 1棟 半壊 6棟 一部破損 609棟 床上浸水 5棟 床下浸水 57棟 (3)非住家被害 公共施設 9棟 その他 87棟 (4)その他被害 学校 20箇所 (5)その他被害 病院 1箇所 (6)その他被害 道路 127箇所 (7)その他被害 橋りょう 1箇所 (8)その他被害 河川 89箇所 (9)その他被害 港湾 4箇所 (10)その他被害 砂防 31箇所 (11)その他被害 清掃施設 2箇所 (12)その他被害 崖くずれ 4箇所 (13)その他被害 被害船舶 9隻 (14)電話被害 4回線 (15)電気被害 7,545戸 (16)公共文教施設被害 15,912千円 (17)農林水産業施設被害 479,172千円 (18)公共土木施設被害 4,124,326千円 (19)その他の公共施設被害 129,904千円 (20)その他被害 592,067千円 (21)災害対策本部設置市町村 敦賀市、小浜市、鯖江市、 越前市、永平寺町、越前町、 高浜町、おおい町	台風第21号が、静岡県御前崎市付近に上陸 した後、東海地方および関東地方を北東に進 んだ影響で、福井県では激しい雨を観測した 所があった。 台風が最も接近した22日夜遅くから23日 未明にかけて、非常に強い風を観測した所が あった。 (日最大1時間降水量(22日)) 大飯 38.0mm 22時33分 越廼 34.5mm 23時21分 (日最大1時間降水量(23日)) 大飯 31.0mm 00時01分 (22日~23日の期間水量) 大飯 304.0mm、小浜 112.5mm 今庄 253.0mm、 (日最大風速(23日)) 春江 23.1m/s(北)01時47分 今庄 22.5m/s(北)02時43分 小浜 20.3m/s(北)01時04分 (日最大瞬間風速(23日)) 春江 33.4m/s(北)01時44分 今庄 36.8m/s(北)02時37分 小浜 38.8m/s(北)02時07分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2018 (平30) 1.12～14	大雪	(1)人的被害 死者 1人 重傷 4人 軽傷 8人 (2)住家被害 一部損壊 1棟 (3)農産被害 24,314千円	1月中旬から2月中旬にかけて、強い寒気が周期的に入った。 特に、2月3日から8日は強い冬型の気圧配置が続いたため、嶺北を中心に記録的な大雪となった。 嶺北では5日夜遅くから6日昼前にかけて1時間に5cmを超える強い雪が断続的に降り、6日10時までの12時間で50cm前後の降雪量を観測した所があった。 7日15時には福井市の積雪がこの期間の最深の147cmに達し、昭和56年の豪雪(196cm)以来の大雪となった。 8日午後から10日は一時的に冬型の気圧配置は緩んだが、11日から13日前半にかけて再び冬型の気圧配置が強まり、嶺北中心に大雪となった。
2018 (平30) 1.24～29	大雪	(1)人的被害 重傷 6人 軽傷 1人 (2)その他 学校 1箇所	8日午後から10日は一時的に冬型の気圧配置は緩んだが、11日から13日前半にかけて再び冬型の気圧配置が強まり、嶺北中心に大雪となった。 ＜アメダスの最深積雪 (期間：2017年12月～2018年2月)＞ 福井147cm(2月7日) 武生130cm(2月13日) 大野177cm(2月13日) 九頭竜301cm(2月13日) 今庄162cm(2月13日) 敦賀57cm(2月8日) 小浜48cm(2月8日) ＜大雪警報発表日＞ 1月11日、1月12日、1月13日、 1月24日、2月4日、2月5日、 2月6日、2月7日、2月8日、 2月12日、2月13日
2018 (平30) 2.5～22	大雪	(1)人的被害 死者 12人 重傷 26人 軽傷 94人 (2)住家被害 全壊 1棟 半壊 6棟 一部破損 542棟 床下浸水 7棟 (3)非住家被害 公共建物 6棟 その他 121棟 (4)その他 学校 26箇所 (5)その他 道路 1箇所 (6)その他 橋梁 1箇所 (7)公立文教施設被害 5,627千円 (8)農林水産業施設被害 205,417千円 (9)公共土木施設被害 309,201千円 (10)その他公共施設被害 35,588千円 (11)その他被害 1,027,460千円 (12)災害対策本部設置市町 福井市、大野市、勝山市、 鯖江市、あわら市、越前市、 坂井市、永平寺町	＜アメダスの最深積雪 (期間：2017年12月～2018年2月)＞ 福井147cm(2月7日) 武生130cm(2月13日) 大野177cm(2月13日) 九頭竜301cm(2月13日) 今庄162cm(2月13日) 敦賀57cm(2月8日) 小浜48cm(2月8日) ＜大雪警報発表日＞ 1月11日、1月12日、1月13日、 1月24日、2月4日、2月5日、 2月6日、2月7日、2月8日、 2月12日、2月13日
2018 (平30) 3.5	大雪	(1)人的被害 死者 1人 (2)住家被害 一部破損 1棟	
2018 (平30) 3.8	融雪	(1)その他 道路 1棟 (2)公共土木施設被害 19,051千円	
2018 (平30) 3.22～23	融雪	(1)その他 道路 1棟 (2)公共土木施設被害 17,722千円	



年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2018 (平30) 7.4～12	大雨	(1)住家被害 一部破損 4棟 床上浸水 3棟 床下浸水 18棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他 学校 2箇所 (4)その他 道路 26箇所 (5)その他 河川 37箇所 (6)その他 港湾 15箇所 (7)その他 崖崩れ 2箇所 (8)電気被害 24戸 (9)公立文教施設被害 450千円 (10)農林水産業施設被害 101,733千円 (11)公共土木施設被害 2,638,337千円 (12)その他の公共施設被害 458千円 (13)その他被害 1,157千円 (14)災害対策本部設置市町 敦賀市、大野市、あわら市、 越前市、永平寺町、 南越前町、越前町、高浜町	4日は台風第7号が日本海を北東に進み、その後、8日にかけて梅雨前線が本州付近に停滞した。 日本付近には暖かく湿った空気が供給され続けたため、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となった。 福井県では、多い所では4日から8日までの総降水量が400mmを超える大雨となった。 <4日から8日までの総降水量> 九頭竜 424.5mm、三国 417.0mm、越廼 330.0mm 三国、越廼、勝山、武生、今庄、美浜、大飯では7月の日降水量の極値を更新した。 <極値を更新したアメダス> 三国(7日:164mm)、越廼(7日:193mm)、 勝山(5日:178mm)、武生(5日:183mm)、 今庄(5日:161mm)、美浜(5日:131.5mm)、 大飯(7日:151mm)、 平成30年6月28日以降の台風第7号や梅雨前線の影響によって、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、全国各地で甚大な被害が発生したことを踏まえ、気象庁は、この大雨の名称を「平成30年7月豪雨」と定めた。
2018 (平30) 8.24	台風 20号	(1)人的被害 軽傷 3人 (2)住家被害 一部破損 24棟 (3)非住家被害 公共建物 1棟 その他 1棟 (4)田 冠水 3.0ha (5)その他 学校 2箇所 (6)その他 道路 17箇所 (7)その他 鉄道不通 1箇所 (8)その他 被害船舶 3隻 (9)電気被害 20戸 (10)公立文教施設被害 1,296千円 (11)農林水産業施設被害 146千円 (12)公共土木施設被害 20,992千円 (13)その他の公共施設被害 715千円 (14)その他被害 1,100千円 (15)災害対策本部設置市町 小浜市、鯖江市	台風第20号は、23日は、四国の南海上を北上し、強い勢力で暴風域を伴ったまま23日21時頃に徳島県南部に上陸した。その後も暴風域を伴ったまま四国から近畿地方を北上し、24日2時に日本海に抜けた後、15時に秋田県沖で温帯低気圧に変わった。 <日最大風速> 福井 17.4m/s (24日00時49分 南東) 敦賀 21.3m/s (24日03時00分 南南東) <最大瞬間風速> 福井 29.5m/s (24日03時16分 南) 敦賀 37.5m/s (24日00時50分 南東)

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2018 (平30) 9.4～5	台風 21号	(1)人的被害 重傷 1人 軽傷 6人 (2)住家被害 半壊 4棟 一部破損 115棟 (3)非住家被害 公共建物 1棟 その他 8棟 (4)その他 学校 12箇所 (5)その他 道路 9箇所 (6)その他 河川 6箇所 (7)その他 砂防 1箇所 (8)その他 鉄道不通 1箇所 (9)その他 被害船舶 1隻 (10)電気被害 5,200戸 (11)公立文教施設被害 7,674千円 (12)農林水産業施設被害 10,142千円 (13)公共土木施設被害 76,052千円 (14)その他の公共施設被害 82,999千円 (15)その他被害 2,792千円 (16)災害対策本部設置市町 敦賀市、小浜市、鯖江市、 永平寺町、南越前町	台風第21号は暴風域を伴い非常に強い勢力を維持して4日12時頃に徳島県南部に上陸した。 その後も暴風域を伴ったまま北北東に進み、14時頃に兵庫県神戸市付近に再上陸した。 15時には若狭湾に達し、日本海を北上した後、5日9時に間宮海峡で温帯低気圧に変わった。 <日最大風速> 福井 21.8m/s (4日15時59分 南南東) 敦賀 26.3m/s (4日15時29分 南南東) <最大瞬間風速> 福井 37.9m/s (4日16時22分 南) 敦賀 47.9m/s (4日15時00分 東南東)
2018 (平30) 9.30～ 10.1	台風 24号	(1)住家被害 一部破損 3棟 (2)その他 砂防 1箇所 (3)その他 鉄道不通 1箇所 (4)電話被害 6回線 (5)公共土木施設被害 7,430千円 (6)災害対策本部設置市町 敦賀市、小浜市、鯖江市、 永平寺町、南越前町、高浜町	台風第24号は、四国の南海上を北東に進み、非常に強い勢力を維持して30日20時頃に和歌山県田辺市付近に上陸した。 その後も暴風域を伴ったまま更に速度を速めて東海、関東甲信、東北地方を北東に進み、10月1日12時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。 <日最大風速> 福井 12.0m/s (1日00時27分 北北西) 敦賀 21.8m/s (30日23時49分 北北西) <最大瞬間風速> 福井 23.7m/s (1日00時08分 北) 敦賀 30.8m/s (30日23時42分 北北西)

## 第2章 平成30年の天候概況

### 1 天候の特徴

#### ◇ 年（1月～12月）の概況

1月～2月は、3年ぶりの寒冬。低温・多雪。日本付近には強い寒気の流れ込むことが多く低温となった。冬型の気圧配置がしばしば強まったため、山地や山沿いに加えて平地でも大雪となり、交通障害が発生した。特に2月4日から8日にかけて日本付近は強い寒気に広く覆われたため、北陸地方を中心に大雪となり、福井市では昭和56年（1981年）の豪雪以来37年ぶりに積雪が140センチを超える大雪となったほか、降雪の深さ日合計が統計開始以来の極値を更新した所もあった。

3月～5月は、かなりの高温・かなりの多雨・多照。日本付近への寒気の南下が弱く、暖かい空気に覆われやすかったため、かなりの高温となった。低気圧の通過時に南から湿った空気が流れ込みやすかったため、かなりの多雨となった。

6月～8月は、かなりの高温・かなりの多照。太平洋高気圧とチベット高気圧の張り出しがともに強まり、晴れて厳しい暑さの日が続き、かなりの高温となった。8月には台風第20号が西日本を縦断して日本海へ進み、日本海側はフェーン現象により気温が顕著に上昇した。

北陸地方の梅雨入りは6月9日ごろで平年並（平年は6月12日ごろ）、梅雨明けは7月9日ごろで平年よりかなり早かった（平年は7月24日ごろ）。

9月～11月は、多雨・寡照。9月は秋雨前線が停滞しやすく、曇りや雨の日が多かった。また、日本の南で高気圧が強く、湿った空気が流れ込みやすかったほか、上旬には台風第21号、下旬には第24号の影響を受けて、大雨となった日があった。9月はかなりの多雨・かなりの寡照となった。9月終わりから10月上旬にかけて、台風第24号と第25号が相次いで日本に接近した。10月中旬以降の天気は概ね数日の周期で変化した。11月は寒気や気圧の谷の影響を受けにくかったため、かなりの少雨、かなりの多照となった。

12月は、冬型の気圧配置となり寒気の影響を受けた日が多く、雨や雪の日が多かった。

官署	平均気温			降水量			日照時間		
	本年 (℃)	平年差 (℃)	階級区分	本年 (mm)	平年比 (%)	階級区分	本年 (h)	平年比 (%)	階級区分
福井	15.3	+0.8	高い	2632.0	118	多い	1844.4	114	かなり 多い
敦賀	16.2	+0.9	かなり 高い	2560.0	120	多い	1778.4	114	かなり 多い

※平年差（比）は、平年値（1981年～2010年の30年平均値）から求めています。

#### ◇ 台風

台風の年間発生数は平年より多い29個（平年値25.6個）となり、日本への接近数は16個（平年値11.4個）、上陸数は平年を上回る5個（平年値2.7個）。北陸地方への接近数は6個（平年値2.5個）となった。

## 【台風発生数・上陸数】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	平年値
発生	1	1	1			4	5	9	4	1	3		29	25.6
上陸 (注1)							1	2	2				5	2.7
北陸地方に 接近した台風							2	2	2				6	2.5

(注1) 「上陸」は台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を指す。

※台風の中心が新潟県、富山県、石川県、福井県のいずれかの気象官署から300km以内に入った場合を「北陸地方に接近した台風」としている。

・接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

## 2 月別気象概況

◇ 2018年(平成30年) 月別気象概況

### 1月

高気圧に覆われた日もあったが、冬型の気圧配置や気圧の谷、前線の影響で雨や雪の日が多くなった。特に12日から13日にかけて、強い寒気の影響を受けたため大雪となった。

月平均気温は、勝山で平年よりかなり低く、その他の地点では平年より低くなった。

月降水量は、小浜、大飯で平年よりかなり少なく、今庄で平年より少なく、その他の地点では平年並か平年より多くなった。

月間日照時間は、小浜で平年より多く、敦賀、美浜で平年並、その他の地点では平年より少ないか、かなり少なくなった。

### 2月

高気圧に覆われた日もあったが、冬型の気圧配置や気圧の谷、前線の影響で雪や雨の日が多くなった。特に4日から冬型の気圧配置が強まり、5日から6日は嶺北を中心に大雪となった。

月平均気温は、三国、勝山、越廼、敦賀で平年より低く、その他の地点では平年よりかなり低くなった。

月降水量は、小浜、大飯で平年よりかなり少なく、三国、九頭竜、今庄、敦賀、美浜で平年並、その他の地点では平年より多いか、かなり多くなった。

月間日照時間は、勝山、大野で平年より少なく、三国で平年並、その他の地点では平年より多いか、かなり多くなった。

### 3月

低気圧や前線、気圧の谷の影響で雨の降った日があり、上旬までは雪が降った日もあったが、中旬以降は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

月平均気温は、すべての地点で平年よりかなり高くなった。

月降水量は、越廼、大飯で平年よりかなり多く、美山、今庄で平年並、その他の地点では平年よ

り多くなった。

月間日照時間は、すべての地点で平年よりかなり多くなった。

#### 4月

低気圧や移動性の高気圧により天気は周期的に変わり、上旬には雪が降った所もあった。

月平均気温は、大野で平年より高く、その他の地点では平年よりかなり高くなった。

月降水量は、三国、九頭竜、美浜、小浜、大飯で平年より多く、その他の地点ではかなり多くなった。

月間日照時間は、敦賀、美浜、小浜で平年より多く、その他の地点では平年並となった。

#### 5月

低気圧や移動性の高気圧により天気は周期的に変わった。

平均気温は、大野、今庄で平年並、その他の地点では平年より高くなった。

降水量は、福井、美山、勝山、大野、大飯で平年よりかなり多く、その他の地点では多くなった。

日照時間は、三国、越廼、美浜、小浜で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

#### 6月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、台風や低気圧、梅雨前線の影響で雨や曇りの日が多くなった。

平均気温は、今庄で平年並、三国で平年よりかなり高く、その他の地点では平年より高くなった。

降水量は、大飯で平年より多く、三国、九頭竜でかなり少なく、越廼、福井、大野で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

日照時間は、勝山、大野、美浜で平年よりかなり多く、その他の地点では多くなった。

#### 7月

高気圧に覆われて晴れとなった日が多くなったが、台風や低気圧、梅雨前線の影響で雨や曇りの日もあった。

平均気温は、すべての地点で平年よりかなり高くなった。

降水量は、三国、大飯で平年よりかなり多く、越廼、九頭竜、敦賀、小浜で平年より多く、その他の地点では平年並となった。

日照時間は、すべての地点で平年よりかなり多くなった。

#### 8月

高気圧に覆われて晴れとなった日もあったが、台風や低気圧および前線の影響で雨や曇りとなった日もあった。

平均気温は、勝山で平年よりかなり高くなり、その他の地点では平年より高くなった。

降水量は、三国で平年よりかなり多く、越廼、敦賀、美浜、小浜で平年より多く、勝山、大野では平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

日照時間は、福井、美浜で平年より多くなったが、その他の地点では平年並となった。

## 9月

台風や低気圧および前線の影響で雨や曇りとなった日が多くなった。

平均気温は、すべての地点で平年並となった。

降水量は、すべての地点で平年よりかなり多くなった。

日照時間は、すべての地点で平年よりかなり少なくなった。

## 10月

台風や低気圧および前線の影響で雨や曇りとなった日があったが、高気圧に覆われて晴れた日もあった。

平均気温は、勝山、大野、敦賀、小浜で平年並となったが、その他の地点では平年より高くなった。

降水量は、三国、九頭竜、今庄、敦賀で平年並となったが、その他の地点では平年より少なくなった。

日照時間は、福井、越廼で平年より多くなったが、その他の地点では平年並となった。

## 11月

低気圧や前線および気圧の谷の影響で天気は周期的に変化した。

平均気温は、すべての地点で平年より高くなった。

降水量は、小浜、大飯で平年より少なく、その他の地点では平年よりかなり少なくなった。

日照時間は、美浜、小浜で平年より多く、その他の地点では平年よりかなり多くなった。

## 12月

低気圧や冬型の気圧配置および寒気の影響で、雨または雪となった日が多くなった。

平均気温は、今庄で平年よりかなり高く、越廼、福井では平年並、その他の地点では平年より高くなった。

降水量は、三国、越廼で平年より少なく、勝山、九頭竜、敦賀、大飯では平年より多く、その他の地点では平年並となった。

日照時間は、三国で平年並、美浜、小浜で平年よりかなり少なく、その他の地点では平年より少なくなった。

## 第3章 防災訓練の実施状況

### 1 総合防災訓練

#### (1) 目的

災害対策基本法および福井県地域防災計画に基づき、防災関係機関が協力して迅速・的確に応急対策が実施できるよう、訓練会場の特色を活かした実践的な防災訓練を実施する。また、併せて住民の防災に対する意識の高揚を図る。

今年度は、テクノポート福井を主会場に、近畿府県合同防災訓練を実施し、大規模複合災害への着実な対応として、実動部隊による実践的な訓練と石油コンビナート等での消火訓練を実施し、また、陸路・海路・空路と多様な手段による物資搬送訓練、4市町において住民避難・誘導訓練を実施した。

#### (2) 日時

平成30年11月 9日（金）9時00分～

11月10日（土）7時00分～12時30分

#### (3) 場所

##### ①緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練

実施日時：平成30年11月 9日 終日

平成30年11月10日 午前

実施場所：テクノポート福井、永平寺河川公園、福井県消防学校、北陸新幹線高架橋、  
福井市沿岸部 等

##### ②福井県総合防災訓練

実施日時：平成30年11月10日 午前

実施場所：テクノポート福井、永平寺河川公園 等

##### ③福井県石油コンビナート等総合防災訓練

実施日時：平成30年11月10日 午前

実施場所：福井国家石油備蓄基地、福井港

##### ④関西広域応援訓練（実動）

実施日時：平成30年11月10日 午前

実施場所：敦賀市総合運動公園 等

#### (4) 主 催

総務省消防庁、福井県、福井県消防長会、関西広域連合、  
福井市、あわら市、坂井市、永平寺町

#### (5) 訓練想定

嶺北北部における大雨および地震による複合災害を想定

##### ○1日目（緊急消防援助隊訓練の想定）

嶺北北部を震源とする地震により、緊急消防援助隊が参集し救助活動を実施

##### ○2日目（福井県総合防災訓練等の想定）

嶺北北部沿岸部を震源とする地震により、自衛隊他各防災機関が参集し救助活動を実施

#### (6) 参加機関 210機関（約2,000人）

##### (ア) 国の行政機関

中部管区警察局福井県情報通信部、北陸総合通信局、敦賀海上保安部、東京管区気象台福井地方气象台、近畿地方整備局、近畿地方整備局福井河川国道事務所、近畿地方整備局九頭竜川ダム統合管理事務所

##### (イ) 自衛隊

自衛隊福井地方協力本部、陸上自衛隊第14普通科連隊、陸上自衛隊第10飛行隊、  
陸上自衛隊第372施設中隊、海上自衛隊舞鶴地方総監部、航空自衛隊第6航空団

##### (ウ) 警察関係

福井県警察本部、坂井西警察署、各市町防犯隊

##### (エ) 応援県

石川県、富山県、岐阜県、奈良県

##### 近畿2府7県合同防災訓練関係

福井県、京都府、三重県、滋賀県、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県

##### (オ) 消防関係

福井県消防長会、嶺北消防組合消防本部、福井市消防局、大野市消防本部、勝山市消防本部、鯖江・丹生消防組合消防本部、永平寺町消防本部、南越消防組合消防本部、敦賀美方消防組合消防本部、若狭消防組合消防本部、嶺北消防組合あわら消防団、自主防災組織、(公財)福井県消防協会

京都府消防、金沢市消防、堺消防、三重県消防、四日市市消防局、四日市消防、  
神戸市消防局、大阪市消防局、大津市消防局、徳島市消防局、奈良県および奈良市消防局、和歌山市消防局

##### (カ) 医療関係



(一社)福井県医師会、(一社)坂井地区医師会、(一社)福井県歯科医師会、(公社)福井県看護協会、日本赤十字社福井県支部、福井県赤十字血液センター、福井県赤十字救護奉仕団、永平寺町赤十字奉仕団、福井県無線赤十字奉仕団、赤十字飛行隊福井支隊、福井県立病院、福井赤十字病院、福井県済生会病院、福井大学医学部付属病院、福井勝山総合病院、公立丹南病院、市立敦賀病院

#### (キ) 交通運輸関係

福井県倉庫協会、(一社)福井県トラック協会、日本通運(株)福井支店、(一社)日本自動車連盟、えちぜん鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)金沢支社福井地域鉄道部、中日本高速道路(株)金沢支社、西日本高速道路(株)関西支社

#### (ク) ライフライン関係

西日本電信電話(株)福井支店、(株)NTTフィールドテクノ北陸支店、(公財)日本公衆電話会、(株)NTTドコモ北陸支社、ドコモCS北陸(株)、KDDI(株)北陸総支社、ソフトバンク(株)、北陸電力(株)福井支店、(一財)北陸電気保安協会福井支店、(一社)福井県電業協会、福井県管工事協会連絡協議会、(一社)坂井郡建設業協会、(一社)福井県LPガス協会、福井県高圧ガス地域防災協議会、(一社)日本コミュニティーガス協会近畿支部福井県防災会、関西電力(株)原子力事業本部、日本原子力発電(株)、(独)日本原子力研究開発機構

#### (ケ) 各種団体

日本郵便(株)、北陸地方非常通信協議会、福井県災害ボランティアセンター連絡会、福井市社会福祉協議会、永平寺町災害ボランティアセンター連絡協議会、福井県石油業協同組合、(株)福井銀行、NHK福井放送局、福井街角放送(株)、(株)日立国際電気、大塚製薬(株)、セツカートン(株)、福井県民生活協同組合

#### (コ) 地元地区関係

福井市、あわら市、坂井市、永平寺町

### (7) 主な訓練項目

#### (ア) 大規模複合災害への着実な対応訓練

① 実動機関(自衛隊・警察・消防)による実践的な訓練

㊦ 海路・空路による消防部隊の投入訓練 【海自ひうち】【陸自チヌーク】

㊧ ブラインド形式による実動部隊が連携した救出救助訓練

(ブラインド訓練箇所数の増加〈1カ所→16カ所〉、各訓練内容のレベルアップ)

㊨ 新幹線高架橋および木造密集地での現地訓練

・列車橋梁事故救出訓練

(福井市中藤新保町)

・木造密集地消火訓練

(福井市白方町)

② 防災情報の収集・伝達・共有訓練

㊦ ドローン協会等と連携した映像情報収集・伝達訓練

㊧ 災害情報共有システム(D-NET)を活用した訓練

(机上に投影された地図に手書きペンにより災害情報等を直接入力でき、その情報を複数の端末で情報共有可能なシステム)

③ 石油コンビナート等での火災を想定した消火訓練 等

㊨ 大容量の送水・放水能力を有する機材を使用した消火訓練

【消防ドラゴンハイパー・コマンドユニット】

・タンカーの火災消火訓練、福井港内での流出油処理訓練

【海保艦船えちぜん・あさぎり、海保へりみほづる】

(イ) 多様な手段による物資の搬送訓練

㊩ 陸路に加え、海路・空路による物資搬送訓練

【海自ひうち】【海保えちぜん】【陸自チヌーク】

・物資の受入、避難所への搬送

【県トラック協会】

(ウ) 地震および豪雨に対する住民避難・誘導訓練

・参加住民 合計4,000名

(エ) 災害対策本部運営訓練

① 訓練想定に合わせた図上訓練

・災害情報インターネットシステムを活用した被害情報集約訓練

・緊急時初動班参集訓練

2 過去5年間の総合防災訓練等の実施状況

種別	年度	26	27	28	29	30
総合防災訓練	日時	平成26年11月1日(土)	平成27年8月30日(日)	平成28年10月30日(日)	平成29年8月27日(日)	平成30年11月9日(金)
	場所	弁天緑地、勝山市一円、大野市保健センター	小浜漁港、小浜市一円、県立大学小浜キャンパス	北潟湖畔公園	南越前町日野川河川敷	テクノポート福井、永平寺河川公園
	主催	福井県、勝山市	福井県、小浜市	福井県、あわら市	福井県、南越前町、越前市	福井県、福井市、あわら市、坂井市、永平寺町
	参加機関	84	85	93	107	210
	訓練種目	39	48	44	41	92
	想定	大雨と地震による災害	大雨による土砂災害および津波災害	大雨および地震・津波による災害	大雨と地震による災害	大雨と地震による災害
参加人員	4,500	4,100	5,300	3,000	6,000	
石油コンビナート等	日時		平成27年8月9日(日)			平成30年11月10日(土)
	場所		福井臨海地区石油コンビナート等特別防災区域およびその周辺			福井臨海地区石油コンビナート等特別防災区域およびその周辺
	主催		福井県石油コンビナート等防災本部			福井県石油コンビナート等防災本部
	参加機関	未開催	30	未開催	未開催	30
	訓練種目		28			9
	想定		地震による原油漏えい、防油堤一部破損および余震によるタンク			地震による原油漏えい、防油堤一部破損および余震によるタンク
参加人員		451			100	
原子力防災訓練	日時	平成26年8月31日(日)	平成27年10月16日(金) ※平成27年度は個別訓練	平成28年8月27日(土)、28日(日)		平成30年8月25日(土)、26日(日)
	訓練対象施設	関西電力(株)高浜発電所3号機	関西電力(株)高浜発電所	関西電力(株)高浜発電所、大飯発電所		関西電力(株)大飯発電所、高浜発電所
	主催	福井県、高浜町、小浜市、おおい町、若狭町	福井県	福井県		国
	参加機関	120	①最初対応訓練 86機関、442名参加	高浜:150 大飯:100		191
	訓練種目	12	②安定ヨウ素剤緊急時配布訓練 13機関、84名参加	13		13
	想定	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出	③スクリーニング・除染訓練 6機関、71名参加	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出		全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出
参加人員	4,100	④緊急時モニタリング訓練 6機関、84名参加	5,546		7,457	

### 3 市町別自主防災組織の結成状況

平成31年4月1日現在

	管内世帯数 (A)	自主防災組織 の組織数	隊員数	組織されている 地域の世帯数 (B)	組織率 (カバー率) (B/A)
福井市	103,432	1,146	75,514	101,447	98.1%
敦賀市	28,653	89	2,225	25,803	90.1%
小浜市	11,997	105	1,260	8,745	72.9%
大野市	11,827	204	5,894	11,093	93.8%
勝山市	7,174	113	1,787	6,951	96.9%
鯖江市	24,474	153	7,256	24,412	99.7%
あわら市	9,859	105	4,311	9,071	92.0%
越前市	30,592	239	9,520	30,342	99.2%
坂井市	31,777	312	4,366	23,060	72.6%
永平寺町	6,307	89	3,621	6,307	100.0%
池田町	943	20	140	737	78.2%
南越前町	3,449	64	911	3,039	88.1%
越前町	7,269	62	1,496	5,493	75.6%
美浜町	3,672	18	5,592	2,060	56.1%
高浜町	4,318	36	4,318	2,748	63.6%
おおい町	3,216	30	1,752	1,863	57.9%
若狭町	4,979	93	1,352	4,675	93.9%
合計・ 平均	293,938	2,878	131,315	267,846	91.1%

管内世帯数：住民基本台帳法に基づく人口、世帯数調べ（平成31年4月1日現在）

隊員数：自主防災組織の組織編成において隊員または班員等に位置づけられている実働隊員の総数（平成31年4月1日現在）

## 第4章 平成30年度防災行政無線利用状況

### 1 無線局の現況

防災行政無線局等一覧（平成31年4月1日現在）

〔固定系〕

区分	局数		設置場所
	多重系	衛星系	
統制局	1	1	県庁
中継局	6		越知山（越前町大谷寺） 久須夜ヶ岳（小浜市堅海） 村国山（越前市村国） 八ツ杉（越前市別印） 岳山（美浜町早瀬） 青葉山（高浜町中山）
支部局	8	7	8土木（福井、三国、奥越、勝山 <sup>※</sup> 、丹南、鯖江丹生、敦賀、小浜） ※勝山土木は衛星系を持たない
合庁局	2	2	2合同庁舎（福井、丹生）
ダム管等局	12		原子力センター 龍ヶ鼻ダム管 <sup>※</sup> 、龍ヶ鼻ダム下流連絡所 <sup>※</sup> 、永平寺堰堤 <sup>※</sup> 笹生川ダム管、笹生川堰堤 <sup>※</sup> 、浄土寺川堰堤 <sup>※</sup> 広野ダム管、広野堰堤 <sup>※</sup> 、榎谷堰堤 <sup>※</sup> 大津呂堰堤 <sup>※</sup> 、河内川堰堤 <sup>※</sup> ※水防無線局を含む
小計	29	10	
端末局	県出先機関	14	健康福祉センター（福井、坂井、奥越、丹南、丹南（武生）、二州、若狭）、県立病院、福井港湾、敦賀港湾 衛生環境センター、防災航空事務所 <sup>※</sup> 坂井上水、日野川上水 ※福井空港は、併設局（防災航空隊）と共用
	市町	17	9市：福井、敦賀、小浜、大野、勝山、鯖江、あわら、越前、坂井 8町：永平寺、池田、南越前、越前、美浜、高浜、おおい、若狭
	消防本部	7	7消防本部 福井、大野、勝山、永平寺、嶺北、南越、若狭 ※鯖江丹生消防・敦賀美方消防は併設局（鯖江市・敦賀市）と共用
	国・公共機関等	19	福井气象台、鯖江自衛隊、舞鶴自衛隊、敦賀海保、福井海保 日赤福井、福井県医師会、福井火力、福井石油備蓄、原電敦賀 関電美浜・高浜・大飯、ふげん、もんじゅ オフサイトセンター（敦賀、美浜、大飯、高浜）
	小計		57
衛星車載局		1	
可搬型地球局		3	
合計	29	71	

[移動系]

区 分		局 数	設 置 場 所	
陸 上 基 地 局	全 県 移 動 260MHzデジタル	11	県庁統制局 中継局（越知山、久須夜ヶ岳、陣ヶ岡、村国山、岳山、青葉山、 八ツ杉） 土木事務所（勝山、敦賀） 笹生川ダム管	
	F W A (18GHz)	1	坂井合同庁舎	
	400MHz防災相互	1	防災航空事務所	
	計	13		
航 空 局		6	防災航空事務所（可搬用含む）	
陸 上 移 動 局	全県移動局 260MHzデジタル	車載型	47	県庁 3台 土木事務所 42台（福井6台、三国6台、奥越7台、丹南7台、鯖江丹生6台、 敦賀4台、小浜6台） 防災航空事務所、衛星車載局
		半固定型	39	県出先機関8台：健康福祉センター（福井、坂井、奥越、丹南、二州、若狭） 県立病院、防災航空事務所
				9市：福井、敦賀、小浜、大野、勝山、鯖江、あわら、越前、坂井
				8町：永平寺、池田、南越前、越前、美浜、高浜、おおい、若狭
				9消防本部：福井、大野、勝山、永平寺、嶺北、鯖江丹生、南越、敦賀美方、若狭
		5防災関係機関：福井駅、NHK福井、福井放送、福井テレビ、FM福井		
		携帯型	70	県庁 30台、敦賀土木 20台、小浜土木 20台
	携帯型(他機関)	44	原子力センター 3台、地域医療課 41台	
	小 計	200		
	F W A (18GHz)	1	陣ヶ岡中継局	
	消 防 移 動 局	車載型	1	防災航空事務所
携帯型		8	県庁 1台、防災航空事務所 7台	
小 計		9		
防 災 移 動 局	携帯型	5	防災航空事務所、400MHz 防災相互	
計		215		
携 帯 局 (ヘリ用)	消防用	2	防災ヘリコプター	
航 空 機 局	航行運航用	1		
簡 易 無 線 局		2	簡易画像伝送装置（衛星車載局に搭載）	
ヘ リ サ ツ ト 局	携帯基地地球局	固定型	1	県庁局
	ヘリコプター局	ヘリ搭載型	1	防災ヘリコプター
	計		2	
合 計			241	

## 2 利用状況

### (1) 一般通話の利用状況

平成30年中

区 分	一年間の総計	一カ月当たりの平均使用回数	一局当たりの月平均使用回数
支 部 ・ 合 庁 局	356,198	29,683	(10局) 2,968
ダ ム 管 等 局	10,149	846	(11局) 77
県 出 先 機 関	9,297	775	(15局) 52
市 町	558	47	(17局) 2.8
消 防 本 部	183	15	(9局) 1.7
国 出 先 機 関	78	6.5	(5局) 1.3
公 共 機 関	70	5.8	(9局) 0.6
原 子 力 発 電 所 等	78	6.5	(10局) 0.7
合 計	376,611	31,384	(86局) 365

### (2) 一斉指令の利用状況

[指令内容別]

平成30年中

区 分	気 象 関 係				事務連絡	テスト	合 計
	警 報	注意報	情 報	計			
指 令 回 数	244	1,590	1,137	2,971	290	53	3,314
前年比 (%)	101	110	108	109	82	70	105

[指令種類別]

平成30年中

区 分	全 県	県出先	市 町	消 防	その他	合 計
指 令 回 数	2,745	63	275	251	0	3,334
前年比 (%)	99	81	95	93	—	98h

## (3)一斉指令月別通信回数

平成30年中

区分	月												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
内容	気警報	28	40	10	0	0	0	45	64	10	0	2	244
	象注意報	146	118	170	128	122	106	112	148	130	102	168	1,590
	関情報	105	116	71	48	51	44	231	125	51	27	100	1,137
	係小計	279	274	251	176	173	150	388	353	337	191	129	2,971
別	事務連絡	37	25	36	31	33	22	25	21	13	8	18	290
	テス卜	1	2	8	9	8	2	2	0	2	3	1	53
種類	計	317	301	295	216	214	174	415	358	206	140	289	3,314
	全県	304	288	276	176	172	143	266	286	175	123	263	2,745
	県出先	2	2	4	7	10	10	5	6	4	6	5	63
	市町	11	11	15	17	16	13	73	55	35	16	7	6
別	消防	10	9	11	16	16	8	71	55	33	4	5	251
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	327	310	306	216	214	174	415	389	358	206	140	279	3,334

備考)市町と消防へ一括して一斉指令した場合は、市町と消防の種類別において、それぞれ回数を計上



3 多重局通信回数集計表

平成30年中

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
福井支部	2,992	4,250	3,595	3,424	3,704	3,278	3,533	3,502	3,031	3,374	2,978	2,476	40,137
三国支部・坂井合庁	2,776	4,293	3,914	4,335	4,048	3,790	3,746	3,341	2,796	3,666	3,467	2,845	43,017
奥越支部・奥越合庁	2,684	3,392	4,012	4,311	4,185	3,354	3,329	3,345	3,034	3,392	3,289	2,992	41,319
勝山中継局	611	680	742	534	538	587	707	612	618	658	574	670	7,531
丹南支部・南越合庁	4,177	4,852	5,775	5,080	4,841	4,503	4,890	4,136	4,011	4,479	4,454	3,676	54,874
鯖江丹生支部	1,274	1,739	1,787	1,918	1,504	1,454	1,779	1,306	1,151	1,390	1,218	1,108	17,628
敦賀支部・敦賀合庁	2,950	3,184	4,097	3,945	3,715	3,683	3,576	3,157	2,920	3,435	3,185	2,764	40,611
小浜支部・若狭合庁	4,096	4,233	4,999	5,664	4,998	4,882	5,040	4,386	3,865	4,440	4,516	3,779	54,898
福井合庁	3,208	3,616	4,562	4,903	4,535	3,998	3,936	3,655	3,057	3,760	3,642	3,370	46,242
丹生合庁	648	904	956	1,009	919	809	869	839	783	847	756	602	9,941
原子カセータ	372	450	516	312	431	469	515	276	379	464	420	411	5,015
笹生川ダム管	106	70	163	132	86	87	151	92	104	130	164	147	1,432
笹生川堰堤	0	0	0	8	3	16	5	3	4	10	15	2	66
浄土寺川堰堤	3	0	1	14	34	15	9	7	10	15	13	5	126
広野ダム管	110	128	285	272	169	161	144	197	181	174	131	115	2,067
広野堰堤	4	2	3	3	5	24	6	2	7	1	2	14	73
榑谷堰堤	2	1	5	11	3	20	9	4	2	0	2	13	72
龍ヶ鼻ダム管	75	88	171	132	70	79	93	92	74	109	101	56	1,140
永平寺ダム	9	1	5	1	3	10	8	1	1	0	0	12	51
大津呂ダム管	0	0	0	12	0	6	10	2	4	2	0	6	42
河内川ダム	0	0	0	0	0	0	0	0	46	1	18	0	65
計	26,097	31,883	35,588	36,020	33,791	31,225	32,355	28,955	26,078	30,347	28,945	25,063	366,347

※土木事務所(支部局)と合同庁舎が隣接している局については、合算している

4 端末局無線通信回数調

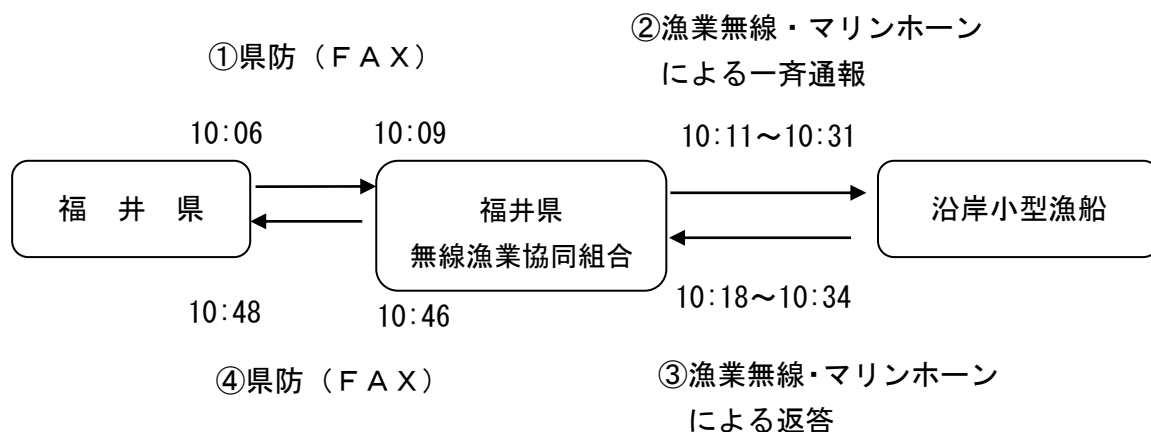
平成30年中

無 線 局	通信回数	無 線 局	通信回数	無 線 局	通信回数
福 井 市	41	福 井 消 防	20	福 井 気 象 台	60
敦 賀 市	17	大 野 消 防	26	鯖 江 自 衛 隊	6
小 浜 市	36	勝 山 消 防	28	舞 鶴 自 衛 隊	5
大 野 市	43	永 平 寺 消 防	15	敦 賀 海 保	2
勝 山 市	36	嶺 北 消 防	27	福 井 海 保	5
鯖 江 市	32	鯖江丹生消防	14	国 出 先 計	78
あ わ ら 市	61	南 越 消 防	15	福 井 駅	4
越 前 市	44	敦賀美方消防	16	N H K 福 井	8
坂 井 市	40	若 狭 消 防	22	福 井 テ レ ビ	10
市 計	350	消 防 計	183	福 井 放 送	5
永 平 寺 町	35	福 井 保 健	121	F M 福 井	6
池 田 町	13	若 狭 保 健	118	日 赤 福 井	7
南 越 前 町	27	二 州 保 健	152	福 井 県 医 師 会	5
越 前 町	26	丹 南 保 健	131	福 井 火 力	7
美 浜 町	26	坂 井 保 健	74	福 井 備 蓄	18
若 狭 町	20	奥 越 保 健	142	公 共 機 関 計	70
お お い 町	20	武 生 保 健	18	原 電 敦 賀	8
高 浜 町	41	衛 生 環 境 セ ン タ ー	3,221	関 電 美 浜	11
町 計	208	県 立 病 院	213	関 電 大 飯	7
市 町 計	558	防 災 航 空 隊	57	関 電 高 浜	7
		福 井 港 湾	657	原 子 力 機 構 ふ げ ん	6
		敦 賀 港 湾	2,792	原 子 力 機 構 も ん じ ゅ	11
		福 井 空 港	22	敦 賀 オ フ サ イ ト	7
		坂 井 上 水	573	美 浜 オ フ サ イ ト	7
		日 野 川 上 水	1,006	大 飯 オ フ サ イ ト	6
		県 出 先 計	9,297	高 浜 オ フ サ イ ト	8
				原 子 力 発 電 所 等 計	78
				合 計	10,264

※衛星回線による、端末局同士の通信回数はカウントされていない

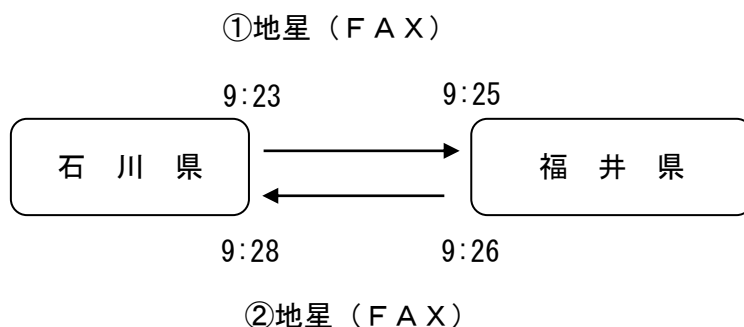
5 非常通信訓練実施状況

- (1) 平成30年度原子力総合防災訓練に伴う非常通信訓練（平成30年8月25日）  
 ・福井県から沿岸の船舶に向けて情報発信（漁業無線およびマリンホーンを使用）



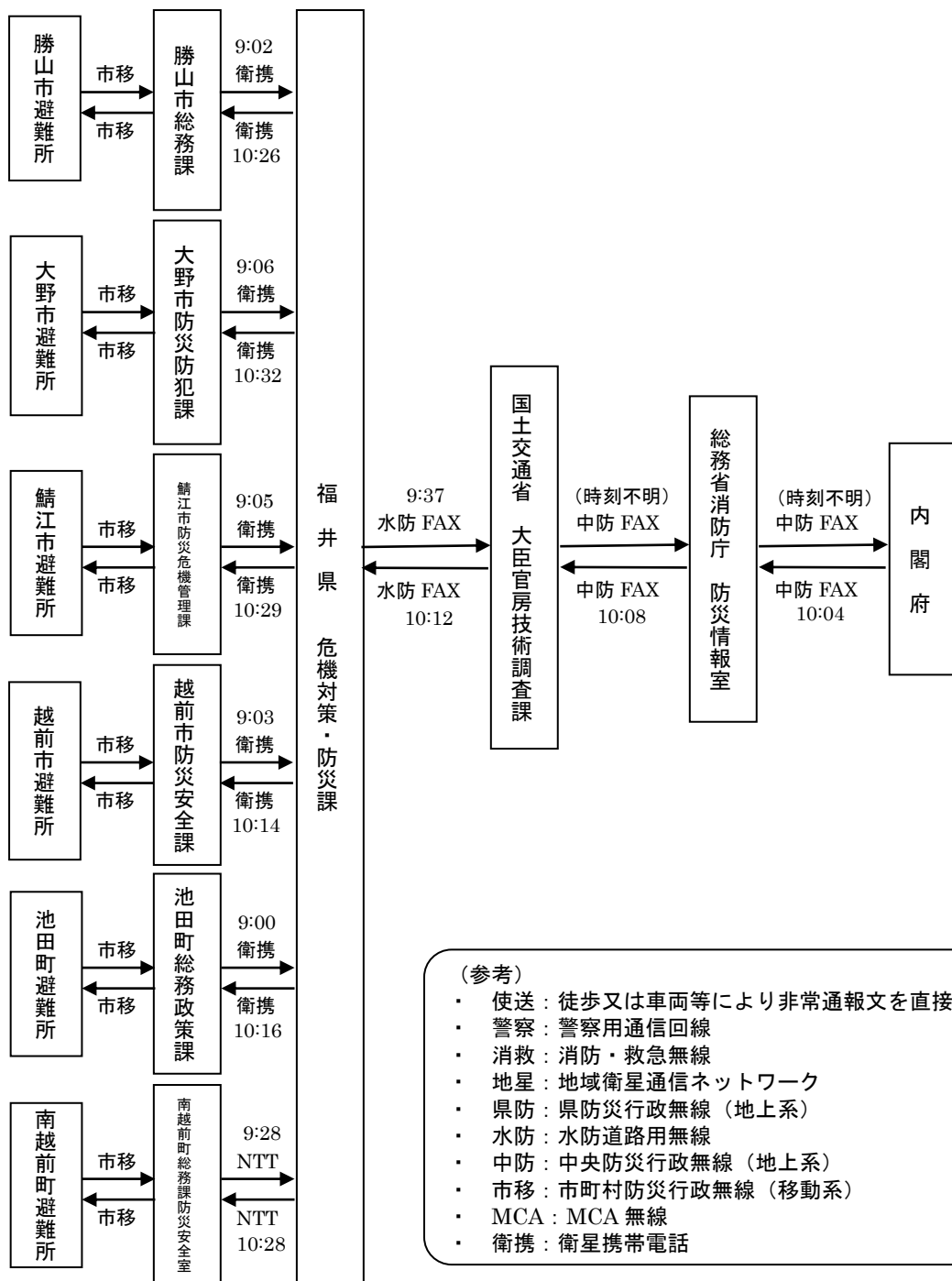
- (2) 平成30年度福井県総合防災訓練における災害対策用移動通信機器貸出訓練  
 （平成30年11月9日）  
 ・北陸総合通信局から携帯型MCA無線機を借り受け、①福井県庁、②訓練主会場（テクノポート福井）、③訓練サブ会場（福井国家石油備蓄基地）の3カ所で通信訓練を実施

- (3) 平成30年度石川県総合防災訓練に伴う非常通信訓練（平成30年11月25日）  
 ・石川県との、地域衛星通信ネットワークを使用したFAX送信訓練



(4) 平成30年度 第81回全国非常通信訓練 (平成30年11月27日)

- ・ 嶺北南部地方の各市町から福井県あて、福井県から内閣府へ往復信。市町～県庁間は衛星携帯電話 (ワイドスターII)、県庁～内閣府間は国土交通省の水防無線ルートを使用。
- ・ なお、訓練当日「南越前町」の衛星携帯電話が衛星補足できなかったため、NTT回線で対応した。

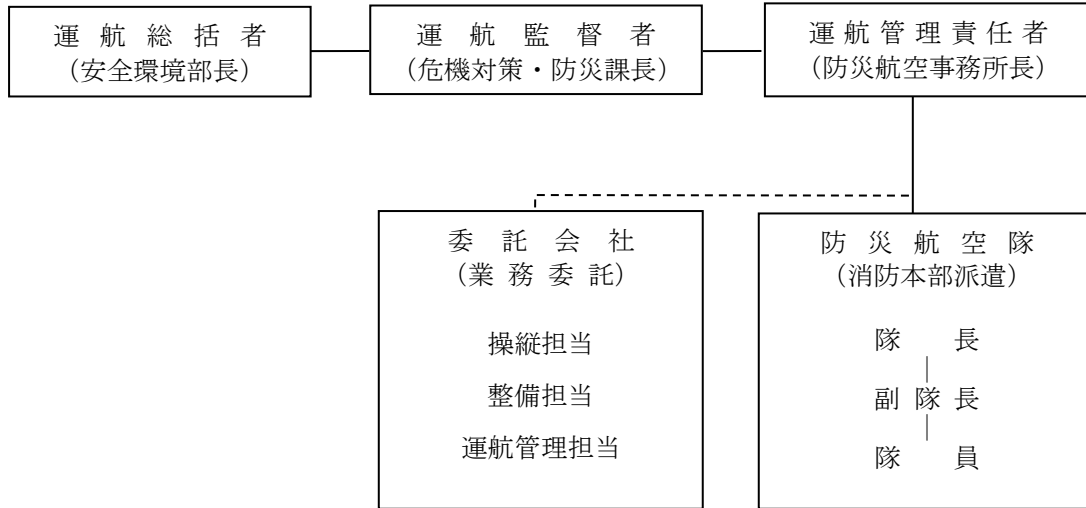


## 第5章 防災ヘリコプターの運航体制

### 1 運航基地

福井県防災航空事務所（福井空港内）

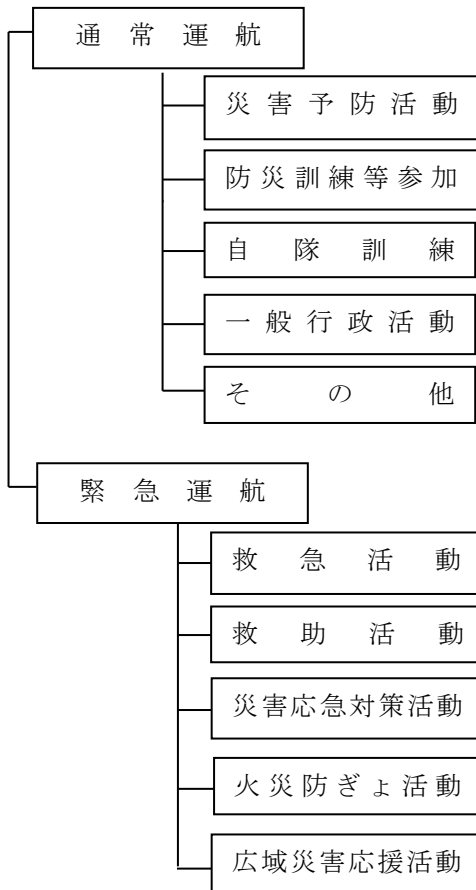
### 2 組織図



### 3 運航時間

毎日、午前8時30分から午後5時15分まで  
 （ただし、緊急運航の場合は日の出から日没まで）

### 4 活動業務



機種	川崎BK117C-2
メーカー（製造国）	川崎重工業（日本）
エンジン最大出力	1,384SHP
エンジン基数	2基
搭乗人員	11人
最大全備重量	3,585kg
最大搭載可能重量	1,715kg
航続距離	685km
ホイスト装置	270kg
貨物吊り下げ装置	1,500kg
全長	13.03m
全高	3.95m
最大速度	278km/h
航続時間	約3.5h
着陸方式	スキッド式

第1表 福井県防災ヘリコプター運航実績表（年度別）

平成31年3月31日現在

区分	緊急運航					通常運航							合計	
	救急	救助	災害応急	火災防御	広域災害援	計	自隊訓練	防災訓練参加	災害予防活動 危険箇所調査	災害予防活動 災害予防広報	一般行政	整備		その他
平成21年度	件数 21 時間 7:36	28 23:32		3	15 31:21	67 63:30	82 127:17	45 34:06		3	4	10	4	215 253:44
平成22年度	件数 22 時間 9:31	26 19:26			15 21:26	63 50:23	128 162:56	40 30:53		4	3	4	3	245 269:40
平成23年度	件数 25 時間 10:01	26 10:46	4 4:03	1 3:19	6 11:09	62 39:18	125 151:46	39 29:10		4	4	3	4	241 250:26
平成24年度	件数 25 時間 13:51	24 18:31		1 0:52	11 13:25	61 46:39	162 183:11	39 27:30		3	1	5	5	276 279:52
平成25年度	件数 29 時間 15:24	23 19:33	9 13:12		12 13:28	73 61:37	158 184:16	33 21:18		3	1	5	4	277 290:01
平成26年度	件数 28 時間 12:35	29 20:32			12 12:35	69 45:42	139 146:21	33 26:36	1	3	4	8	8	265 247:49
平成27年度	件数 36 時間 19:30	36 26:08			6 9:38	78 55:16	162 174:09	40 25:37			2	6	3	291 264:19
平成28年度	件数 37 時間 20:50	31 30:03			10 14:41	78 65:34	142 152:04	40 29:34			2	9	2	273 262:16
平成29年度	件数 28 時間 15:55	40 29:37		1 1:04	14 14:55	83 61:31	152 159:41	27 20:22			1	7	3	273 249:40
平成30年度	件数 21 時間 15:19	18 9:26	1 0:25	1 0:24	21 12:56	62 38:30	176 188:45	32 22:58			1:26	8	4	282 257:45

※年間の飛行時間は300時間が限度であるが、耐空検査を年度中に実施しているため、年度合計は300時間を超える場合がある

## 第6章 衛星車載局の運用体制

### 1 収 容

福井県消防学校内

### 2 運用組織図

使用管理者 (危機対策・防災課長)	運用統括責任者：運用総括業務	1名
	通信機器操作員：通信機器類の操作、調整 県庁統制局の操作、調整	2名 1名
	情報収集伝達員：情報の収集、伝達	2名

### 3 運 用

<非常時の運用>

災害発生もしくは発生する恐れがあるときに、災害の予防、被災後の救助および復旧などの災害対策等に必要な情報の収集・伝達を行う。

<平常時の運用>

業務、事業、イベント等の紹介を行う。

非常時および平常時とも映像情報の伝送を可能としていることにより、より詳細な状況の把握、広報等が可能である。

### 4 主な仕様

<アンテナ装置>

反射鏡部	オフセットパラボラ	有効開口径 1.8 m
駆動部	電動／手動	
衛星捕捉	GPS等各種センサーおよび送受信装置受信偏波特性比較機による完全自動衛星捕捉が可能	

<送受信装置>

画像系電力増幅部	飽和最大出力	300W以上 (TWT)
個別通信系電力増幅部	飽和最大出力	40W以上 (SSPA)

<端局装置>

実装チャンネル数	個別最大通信回線用	4 CH
	デジタル画像送信用	1 CH
	デジタル画像受信用	1 CH

デジタル画像変復調部 動 画：6 Mbps

<その他端末装置>

全県移動車載型無線装置	260MHz デジタル通信 複信方式
衛星自動車電話	衛星携帯・自動車電話対応
簡易画像伝送装置	50GHz 帯回線構成での画像伝送





保 安 編



# 第1章 高圧ガス保安

## 概況

高圧ガスは、エネルギー、原料ガスおよび先端技術分野における特殊材料ガスなどに利用されるなど、その活用分野は広範囲である。ただし、高圧ガスは有用な反面、高圧状態であること、さらにガスの種類によって可燃性、支燃性および毒性などの化学的な特性があるため、大規模な事故や災害を巻き起こす危険性がある。

このため、高圧ガス保安法等の関係法令に基づく許認可や届出義務などによる危害予防のための規制があるほか、高圧ガス事業者および高圧ガス保安協会による自主的な保安活動を促進するための各種の講習会などを通じた保安指導が実施されている。

国内全体での製造事業所の高圧ガスの事故は、平成23年の1083件をピークに、減少傾向が続いていたが平成28年（950件）には再び増加に転じた。なお、平成23年の事故件数については、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響で、多くの事故報告がなされたことも増加要因の一つと考えられる。東日本大震災の影響を除く平成23年の事故件数は966件であった。

なお、事故の内訳で最も多いのが、盗難（平成28年371件、平成29年254件、平成30年158件）である。

一方、高圧ガスのうち一般消費者等への販売にかかる液化石油ガス事故については、全国で平成18年は219件（前年比+114件）と急激な増加をみせ、平成20年にかけて200件を超える高水準を維持していたが、平成30年は206件（前年比+13件）である。

県は、法令遵守はもとより、講習会、保安検査および立入検査などを定期または随時に実施し、高圧ガス事業者等に対する指導を行なっている。特に、液化石油ガス事業者に対しては、LPガス設備の点検・調査および改善などの法令遵守ならびに事故防止対策の徹底の指導などを通じ、一般消費者等の安全・安心を推進している。

第1表 市町別高圧ガス関係事業所数

平成31年3月31日現在

事業所 区分	製造事業者										販売事業者(店舗数)										貯蔵所			特定消費事業所			保安機関	容器検査所						
	第1種					第2種					計	一般 (LPG 販売を 兼ねて いる者 を含む)	液化石油ガス				計	一般	液化 石油 ガス	計	一般	液化 石油 ガス	計	オート ガス スタンド										
	一般	冷凍		一般	液化 石油 ガス	冷凍	計	高圧 法の み	両方				計	高圧 法の み	大臣 所管	知事 所管									大臣 所管	知事 所管			一般	液化 石油 ガス	計	一般	液化 石油 ガス	計
		アンモニア 以外	アンモニア						アンモニア 以外	アンモニア																								
市町	一般	冷凍	冷凍	一般	液化 石油 ガス	冷凍	計	高圧 法の み	大臣 所管	知事 所管	計	高圧 法の み	大臣 所管	知事 所管	計	一般	液化 石油 ガス	計	一般	液化 石油 ガス	計	一般	液化 石油 ガス	計	オート ガス スタンド									
福井市	11	21	1	10	11	43	29	285	93	22	1	6	7	70	106	344	543	20	5	25	8	16	24	5	75	5								
敦賀市	11	6	7	7	24	14	113	20	20	1	1	1	3	10	15	57	92	11	4	15	5	3	8	1	12									
小浜市	1	2	3	3	6	5	29	7	7		1	1	4	7	12	27	46	4		4	2	2	1	1	8									
大野市		2			2	2	28	5	5		3	3	3	16	22	33	60	2		2				1	17									
勝山市	3	3	2	2	5	2	28				1	20	17	17	19	36	1	1	2	2	2	2	2	1	15									
鯖江市	4	7	1	1	12	12	67	3	3	1	2	1	24	28	53	84	7		7	1	7	8			25	1								
あわら市	3	1	1	1	5	7	47	1	1				11	11	20	32	1	2	3	2	2	4	1	1	11									
越前市	15	9	1	1	25	4	119	17	17	7	2	2	3	29	41	67	125	11	3	14	8	7	15	1	26									
坂井市	10	14	6	6	30	14	122	5	5		5	1	48	54	57	116	17	3	20	5	16	21			50	1								
市計	55	65	1	31	32	152	89	838	151	31	1	20	22	232	306	677	1134	74	18	92	31	53	84	11	239	7								
永平寺町		1	1	1	2	3	19							6	6	17	23	1		1	1	1	1			6	1							
池田町						0	2	2	2				2	2	2	4											2							
南越前町	3		6	6	9	0	16							3	3	6	9										3							
越前町	3	2			5	7	30	2	2				1	24	25	39						2	2				25							
美浜町			1	1	1	2	9							3	3	6	9			8	1	1	1				3							
高浜町	1		4	4	5	4	17	2	2				2	2	6	10	13			13	1	2	1	1	1	2								
おおい町						1	5	5	5	1			1	4	6	10	7			7	1	1	1				4							
若狭町	1	3	1	1	5	2	29					1		7	8	11	19	1	1	2	1	3	4				8							
町計	7	7	0	13	13	27	19	127	4	1	0	1	2	51	55	64	123	30	1	31	5	5	10	1	53	1								
県計	62	72	1	44	45	179	108	965	155	32	1	21	24	283	361	741	1257	104	19	123	36	58	94	12	292	8								

第2表 ガスの種類別高圧ガス製造事業所数（冷凍事業所を除く）

平成31年3月31日現在

ガスの種類	第1種製造者（事業所）	第2種製造者（事業所）
空 気	4	38
酸 素	3	14
窒 素	27	43
水 素	—	—
炭 酸 ガ ス	14	8
フ ロ ン ガ ス	1	—
ア ン モ ニ ア	1	—
塩 素	—	—
ア ル ゴ ン	1	2
酸 化 エ チ レ ン	1	—
塩化ビニルモノマー	1	—
ヘ リ ウ ム	—	—
プ ロ ビ レ ン	—	—
エ チ レ ン	—	—
天 然 ガ ス	9	3
L P ガ ス	72	—
計	134	108

- 1 第1種製造者とは、1日の処理能力が100 m<sup>3</sup>以上（政令で定める「第一種ガス」にあつては300 m<sup>3</sup>以上）、それ以外のものを第2種製造者という。
- 2 同一事業所で2以上のガスを製造している事業所については、最も処理量が多いガスまたは主たる目的のガスに計上した。

第3表 処理量別・製造形態別製造事業所数（冷凍事業所を除く）

平成31年3月31日現在

事務所数 処理量区分(m <sup>3</sup> )	空 液 分	気 化 離	L 工 業 消 費	L ガ ス ス タ ン ド	L ガ ス 充 填 所	L N G ガ ス ス タ ン ド	圧 空 充 填 所	C E の 製 造 事 業 所		移 動 式 製 造 事 業 所	そ の 他	合 計
								充 填 所	消 費			
0以上～ 30未満							7		11		27	45
30～ 100							12		18	1	3	34
100～ 1,000							22		33	2	8	65
1,000～ 1万			2			1			3		2	8
1万～ 10万	3		28	2	(※5) 13	1		1	4	1	3	56
10万～100万			10		(※5) 16				1	2	3	32
100万～1,000万	1									1		2
1,000万～1億												
1億以上												
計	4		40	2	29	2	41	1	70	7	46	242

1 同一事業所で2以上の製造形態がある場合は、もともとも処理量の多い製造形態を当該形態に計上した。(ただし、附属冷凍を除く)

2 ※は充填所に併設されているスタンド数

第4表 高圧ガス貯槽数（冷凍事業所を除く）

平成31年3月31日現在

（単位：基）

ガス名 貯槽の区分 (貯槽能力)	3トン 以上	10トン 以上	50トン 以上	100トン 以上	計
	10トン 未満	50トン 未満	100トン 未満	1,000トン 未満	
液化酸素	7	10			17
液化炭酸ガス	14	1			15
液化アンモニア		5			5
液化水素	1				1
液化塩素					
酸化エチレン		1			1
塩化ビニルモノマー			1	1	2
L P ガス		111	9		120
液化窒素	25	19	8	4	56
液化フロン		1			1
液化アルゴン	5	12	3		20
液化天然ガス		11	9		20
計	52	171	30	5	258

第5表 平成30年度高圧ガス製造保安責任者試験実施状況

平成30年11月11日  
福井工業大学

種 類	受験者区分	出願者数 (人)	受験者数 (人) (A)	合格者数	
				(人) (B)	合格率 (%) (B/A)
乙種化学	全科目受検者	18	13	4	30.8
	科目免除者	9	9	6	66.7
	計	27	22	10	45.5
丙種化学 (液石丙化)	全科目受検者	44	39	5	12.8
	科目免除者	21	21	18	85.7
	計	65	60	23	38.3
丙種化学 (特別丙化)	全科目受検者	35	31	5	16.1
	科目免除者	25	25	21	84.0
	計	60	56	26	46.4
乙種機械	全科目受検者	22	18	6	33.3
	科目免除者	4	3	3	100.0
	計	26	21	9	42.9
第2種 冷凍機械	全科目受検者	18	14	7	50.0
	科目免除者	5	5	4	80.0
	計	23	19	11	57.9
第3種 冷凍機械	全科目受検者	54	46	16	34.8
	科目免除者	19	18	16	88.9
	計	73	64	32	50.0
計	全科目受検者	191	161	43	26.7
	科目免除者	83	81	68	84.0
	計	274	242	111	45.9



第6表 平成30年度高压ガス販売主任者試験実施状況

平成30年11月11日  
福井工業大学

種類	受験者区分	出願者数 (人)	受験者数 (人) (A)	合格者数 (人)	
				(B)	合格率 (%) (B/A)
第1種販売 主任者	全科目受験者	20	20	10	50.0
	科目免除者	1	1	1	100.0
	計	21	21	11	52.4
第2種販売 主任者	全科目受験者	31	30	5	16.7
	科目免除者	23	21	20	95.2
	計	54	51	25	49.0
計	全科目受験者	51	50	15	30.0
	科目免除者	24	22	21	95.5
	計	75	72	36	50.0

第7表 平成30年度液化石油ガス設備士試験実施状況

平成30年12月2日  
福井工業大学

出願者 (人)	受験者 (人) (A)	筆記試験合格者 (人)		技能試験合格者 (人)	
		(B)	筆記試験合格率 (%) (B/A)	(C)	合格率 (%) (C/B)
11	11	5	45.5	5	100.0

第8表 平成30年度高压ガス関係免状交付状況

免許の種類	乙種化学	丙種化学 (液石丙化)	丙種化学 (特別丙化)	乙種機械	第2種 冷凍機械	第3種 冷凍機械	第1種 販売	第2種 販売
交付数 (件)	10	24 (3)	28	9	11	32 (1)	17	23 (6)

( ) 書きは再交付・書換で外数

## 第9表 平成30年度高压ガス関係申請状況

### (1) 高压ガス保安法

申請種別		区分	件数	申請種別		区分	件数
製 造	新 設	一 般	3	完 成 更 改 含 む の 検 査	製 造	一 般	11
		液 石	1			液 石	5
		冷 凍	0			冷 凍	0
		計	4			計	16
	変 更	一 般	10		貯 蔵 所	一 般	3
		液 石	5			液 石	0
冷 凍		0	計	3			
計			15	製造保安責任者免状交付		114	
貯 蔵 所	新 設	一 般	1	〃 再交付	2		
		液 石	0	〃 書換	2		
		計	1	販売主任者免状交付	40		
	変 更	一 般	4	〃 再交付	5		
		液 石	0	〃 書換	1		
		計	4	保安検査		23	
計			4	合 計		230	

### (2) 液化石油ガス法

申請種別	件数
販売事業登録	0
保安機関認定	1
保安機関認定更新	93
一般消費者等増加認定	4
販売事業者謄本交付	5
販売事業者認定	0
貯蔵施設等設置	3
充てん設備許可	2
液化石油ガス設備士免状交付	22
〃 再交付	8
〃 書換	9
合 計	147

第10表 平成30年度高圧ガス事故発生状況

ガスの種類	事故発生日	事故発生場所	事故の概況	人的被害			原因
				死者	重傷	軽傷	
窒素	H30.9.10	坂井市	蒸発器の出口フランジ付近からのガス漏えい	0	0	0	経年劣化
フルオロカーボン	H30.10.25	勝山市	蒸発器内部のガス漏えい	0	0	0	経年劣化
フルオロカーボン	H31.1.8	敦賀市	蒸発器冷媒側から冷水側へのガス漏えい	0	0	0	不明

## 第2章 火薬類保安

### 概況

火薬類は、土木、採石、鉱山等の事業に使用されているほか、身近なものではがん具煙火にいたるまで様々な種類があり、多岐にわたって利用されている。

しかし、その取扱いによっては大事故につながる恐れがあり、製造から消費にいたるまで厳しく規制を行うなど、安全性の確保が強く要求されている。

本県においては、県公安委員会と密接な連携のもとに立入検査による法の厳格かつ適切な運用、さらに、取扱う者自らによる自主保安体制づくりが、事故予防上重要であることから、危害予防週間を通じ保安意識の啓蒙と普及に努めている。

また、許認可については、県では危機対策・防災課の他、奥越農林総合事務所、嶺南振興局で行っているが、煙火および空包の許可については、平成8年度から県内各市町（消防本部）で行っている。

第1表 火薬類関係事業所等数

平成31年3月31日現在  
(単位：件)

販売業者	火薬・爆薬および火工品	8
	競技用紙雷管	28
	合計	36
火薬庫	1級火薬庫	14
	2 "	0
	3 "	2
	煙火 "	5
	実包 "	2
	合計	23
庫外貯蔵所	販売業者所有	11
	その他所有	10
	合計	21

第2表 銃砲関係事業所数

業 種	事業所数
販 売	1
製造（修理・改造のみ）および販売	3
計	4

第3表 火薬類（爆薬）の消費量の推移

(単位：t)

年度 \ 業種	鉦山	石灰石	土木	採(砕)石	その他	合計
24	13	5	134	60	0	212
25	11	4	1	62	1	79
26	11	4	68	57	0	140
27	15	5	387	68	0	475
28	9	2	508	79	0	598
29	9	3	694	86	1	793
30	12	4	803	152	0	971

第4表 火薬類取扱および丙種火薬類製造保安責任者試験実施状況

種 別	出願者数(人)	受験者数(人) (A)	合格者(人) (B)	合格率(%) (B/A)
甲 種	70	65	31	47.7
乙 種	12	11	7	63.6
丙 種	0	0	0	—
計	82	76	38	50.0

会場：9月2日（日）福井県中小企業産業大学校

第5表 平成30年度火薬類保安講習関係講習会実施状況

講習会名	回数(回)	受講者数(人)
火薬類取扱者保安教育講習会	8	541
火薬類取扱者保安再教育講習会	1	7
火薬類取扱保安責任者養成講習会	1	20
煙火消費保安講習会	1	79

## 第6表 平成30年度火薬類許可申請等の状況

### (1) 県許可申請等

区 分	種 別		件 数 (件)
危機対策・防災課	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	4
		上記以外	24
	譲 渡		13
	火薬庫設置		0
	火薬庫変更		0
	火薬庫完成検査(設置)		0
	" (変更)		0
	火薬庫保安検査		10
	免状交付		38
	免状再交付		1
	販売営業		2
	計		92
総合事務所 奥越農林	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	1
		上記以外	16
	譲 渡		2
	計		19
企画振興室 若狭 嶺南振興局	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	2
		上記以外	12
	譲 渡		12
	計		26
企画振興室 一州 嶺南振興局	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	3
		上記以外	7
	譲 渡		7
	計		17
合 計		154	

### (2) 市町許可申請等

消防(局)本部名	区 分	種 別			件 数
		煙火消費	空包譲受	空包譲渡	
福 井 市		6	0	0	6
大 野 市		3	0	0	3
勝 山 市		3	0	0	3
永 平 寺 町		1	0	0	1
嶺北消防組合		5	0	0	5
鯖江・丹生消防組合		4	0	0	4
南越消防組合		5	0	0	5
敦賀美方消防組合		9	0	0	9
若狭消防組合		12	0	0	12
計		48	0	0	48

第7表 平成30年度事故発生状況

発生日	発生場所	区分	状況	被害	原因
H30.9.12	福井県 大野市	産業 火薬	装薬・結線作業中、1.2 mの孔に装薬後、天端部1孔が突然爆発した。	人的：なし 物的：なし	削孔中、ジャミングの発生によりロッドが抜けなくなり、打撃・回転、フィートを繰り返したため孔内の温度が上昇し、装填した電気雷管が熱せられ爆発したものと推定される。